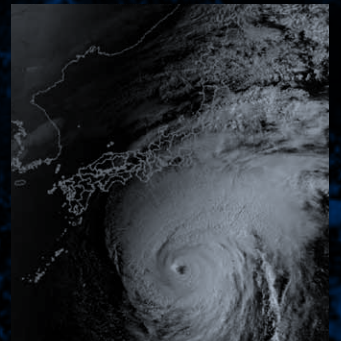


# 令和元年東日本台風 大子町災害記録誌

Daigo-Town Typhoon Disaster Record Book



令和元年十月六日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、10月12日から13日にかけて関東地方を通過。大子町では270ミリを超える雨量を記録。本誌ではさまざまな資料を基に、この台風によって大子町が被った水害の記録をこの一冊にまとめました。



大子町



# 目 次

はじめに 大子町長 高梨哲彦	1
----------------	---

<b>第1章</b>	<b>令和元年東日本台風の概要</b>	<b>14</b>
第1節	気象概要	15
第2節	過去の水害	21

<b>第2章</b>	<b>被害概要</b>	<b>26</b>
第1節	被害概要	27
第2節	住家の被害	28
第3節	公共施設の被害	31
第4節	ライフラインの被害	34
第5節	道路の被害	35
第6節	公共交通機関の被害	37
第7節	医療・福祉施設の被害	39
第8節	農林産業の被害	40
第9節	商工観光業の被害	41
第10節	文教施設の被害	43

<b>第3章</b>	<b>初動対応、避難者・被災者への支援</b>	<b>46</b>
第1節	災害対策本部の活動	47
	初動対応	47
	災害対策本部会議	55
	広報・報道対応	58
	応援職員の受入れ	60
第2節	避難情報の発令状況等	63
	避難情報の発令	63
	避難所の設置状況	65
第3節	救助・救援活動	67
	自衛隊の活動	67
	消防の活動	69
	医療救護活動	74

第4節	応急対応	76
	給水活動	76
	家屋等の消毒	79
	入浴の支援	80
	物資、義援金による支援	82
	り災証明	91
	給付金や税の減免による支援	93
	生活必需品の支援	96
	災害廃棄物の処理	97
	堆積土砂の除去	100
	交通手段の確保	101
第5節	ボランティア活動	102
	ボランティア活動	102
第6節	要望活動	105
	国、JR等への要望活動	105

#### 第4章 災害復旧・復興 108

第1節	生業の再生	109
	住まいの確保・再建支援	109
	生活インフラの整備	111
	公的サービスの復旧・機能回復	113
第2節	安全・安心の再生	114
	治水対策	114
	地域の防災・減災体制の強化	117
	行政の災害対応力の強化	119
第3節	賑わいの再生	121
	中心市街地の振興	121

#### 第5章 被災者の証言 124

	インタビュー	125
	ワークショップ	161
	アンケート調査	163

#### 資料編 184

	新聞報道記事	185
	JR水郡線における復旧・復興	187

---

## はじめに

---

令和元年東日本台風災害は、大子町がこれまでに経験したことのない甚大な災害となりました。令和元年10月12日から13日にかけて、町内に初めてとなる大雨特別警報が発表される中、本町を襲った記録的な大雨は、堤防の越水など甚大な浸水被害や土砂災害等を引き起こしました。この災害により、改めて犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。



浸水等により町内の約1割に及ぶ588棟の住家を始め、道路や鉄道、電気、水道などの社会インフラも被災しました。また、農地や事業所も被災し、農業や商工業等は深刻な打撃を受けました。さらに、大量に発生した災害廃棄物や堆積した土砂は、復旧・復興への大きな課題となりました。

こうした中、災害発生直後から、自衛隊、警察、消防等と懸命の救助活動や捜索活動を実施するとともに、避難所における被災者の支援や河川等の応急復旧、災害廃棄物や土砂の処理等に、国・県、全国の自治体、JR東日本等の関係機関や町内の医療機関、商工業者の皆様と連携して取り組みました。また、この間、町内・県内はもとより全国から駆けつけてくださったボランティアの皆様、そして自身が被災しながらも救助等に当たられた消防団、自主防災会の皆様、更には義援金等をお寄せいただきました方々など、実に多くの皆様方に温かな多大なるご支援を賜りました。ここに改めて心からお礼を申し上げます。

発災から3年が経過しましたが、応急対応・復旧から本格的な復興への移行を見据え、町の総力を挙げて取組を進めてきたところです。令和3年3月には、「大子まちなかビジョン」を策定し、中心市街地の防災力の強化に加え、まちなかの賑わいの創出に向けた事業を進めています。同月には、一部不通となっていたJR水郡線が復旧予定を前倒しで全線開通し、沿線住民にとって重要な公共交通が回復しました。同年6月には、道の駅奥久慈だいが、全国1,194か所の道の駅の中から39か所、茨城県では唯一の「防災道の駅」に選定され、旧役場庁舎の跡地において、新たな町の防災・観光の拠点施設の整備を進める予定となっています。また、久慈川・押川の河川改修や治水対策についても、国や県により、目に見える形で堤防整備や河道掘削などの工事が進んでいます。令和4年7月

に竣工した役場新庁舎は、台風災害からの復興をより一層示すものとなりました。

これまでのところ、復興事業は迅速かつ順調に進んでいますが、今なお一時的な仮住まいにお住まいの方で、住宅再建の方向性が決まらない方もおられます。被災された皆様が一日も早く穏やかな日常を取り戻すことができるよう、引き続き被災者に寄り添った支援とともに、本町の復興に全力を尽くす決意です。

この記録誌は、この災害を記憶にとどめ、その教訓を風化させることなく後世に伝え、今後起こり得る災害時の対応や危機管理、住民等の防災意識の更なる向上につなげることを目的に取りまとめました。

最後に、本誌の発刊が、自助・共助・公助にわたる取組を更に推し進める契機となり、より災害に強い大子町を実現する一助となることを祈念いたします。

令和5年3月

大子町長 高 梨 哲 彦

---

10月13日(日)被災直後の様子



国道461号旧大子町役場交差点 (旧大子町役場2階から撮影)



国道461号常陸大子駅前付近



J R水郡線常陸大子運輸区 ※



常陽銀行大子支店付近





県道大子那須線泉町T字路



国道118号松沼橋付近



水が引いた直後の様子（国道461号旧大子町役場交差点）



敷地に流れ込んだ大量の漂着物（旧大子町役場北側駐車場）



浸水したパチンコ店（小久慈地区） ※



一面泥に覆われた中心市街地（泉町新道）



欄干にかかった大量の漂着物（松沼橋） ※



久慈川の越水によりえぐられたアスファルト（池田地区バイパス商店街） ※



県道大子那須線を乗り越えてきた久慈川の越水（矢田地区） ※



久慈川の越水により甚大な被害を受けた自動車販売店（久野瀬地区） ※



漂着した大量の流木（袋田地区） ※



流失したJR水郡線第六久慈川橋梁（袋田地区） ※



増水して濁流と化した久慈川（南田気橋） ※



久慈川の増水により甚大な被害を受けたキャンプ場（頃藤地区） ※

## 災害ボランティアによる支援



県立佐竹高校様による浸水文書の救出支援（旧太子町役場）



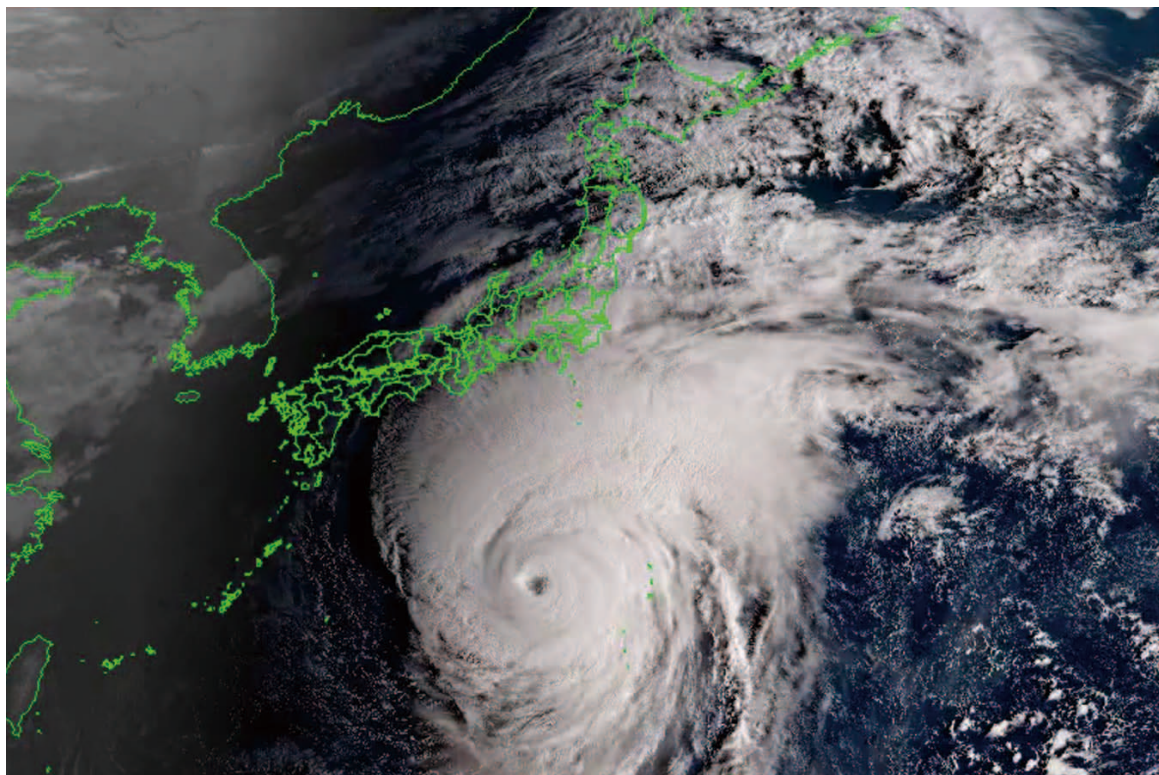
災害ボランティアセンターでの受付（文化福祉会館まいん）





# 第1章

## 令和元年 東日本台風の概要



令和元年東日本台風の気象衛星から観測画像(気象庁)

# 気象概要

令和元年東日本台風では、東日本の広域で非常に多量の降水となり、大子町を含む久慈川上流域では24時間降水量の最大値が300mmを超える雨量となりました(図1)。この雨量は、国立研究開発法人防災科学技術研究所の試算によると、50年に一度よりもまれな雨量と推定され、場所によっては数百年に1度程度の雨量に達した地点もありました。台風の経路は、静岡県の伊豆半島から関東の中央部を横切り、茨城県を北西に進みました(図2)。台風が通過する前の10月12日朝から強い雨となり、12日午後に最も激しい雨となりました。

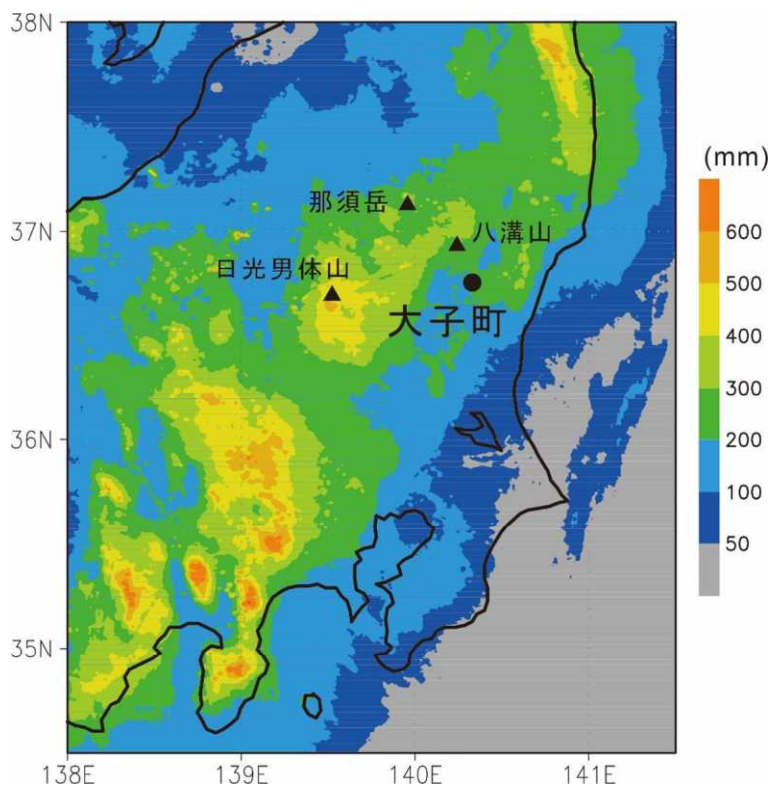


図1：令和元年東日本台風に伴う24時間最大降水量の分布

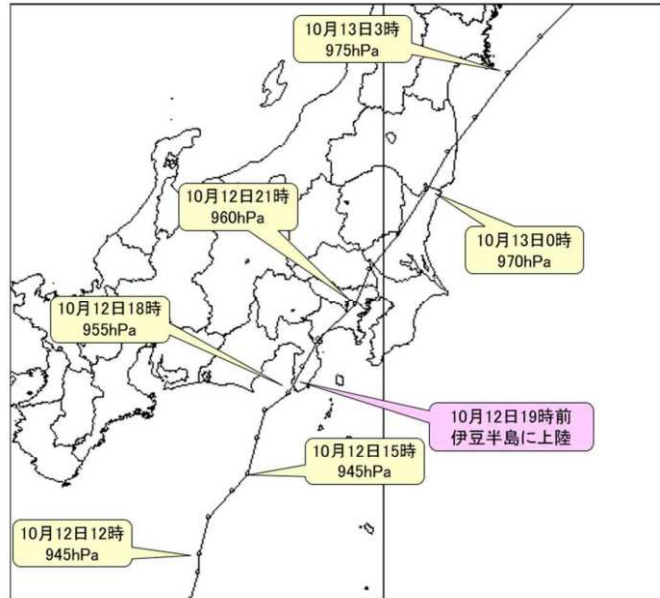


図 2 : 令和元年東日本台風の経路 (水戸地方気象台)

図 3 に、令和元年東日本台風に伴う久慈川流域の 24 時間最大降水量布と久慈川上流部 (点線枠内) の平均雨量の時系列を示します。久慈川上流では、八溝山周辺で 300 mm を超える雨量を観測し、平均で 20 mm を超える激しい雨が 12 日 15 時から 13 日 0 時まで持続していたことが分かります。図 3 に示されるように、久慈川の中上流部に位置する大子町での降水量は、250 mm 程度と見積られるものの、その上流部でかなり多量の雨がもたらされていたことが分かります。

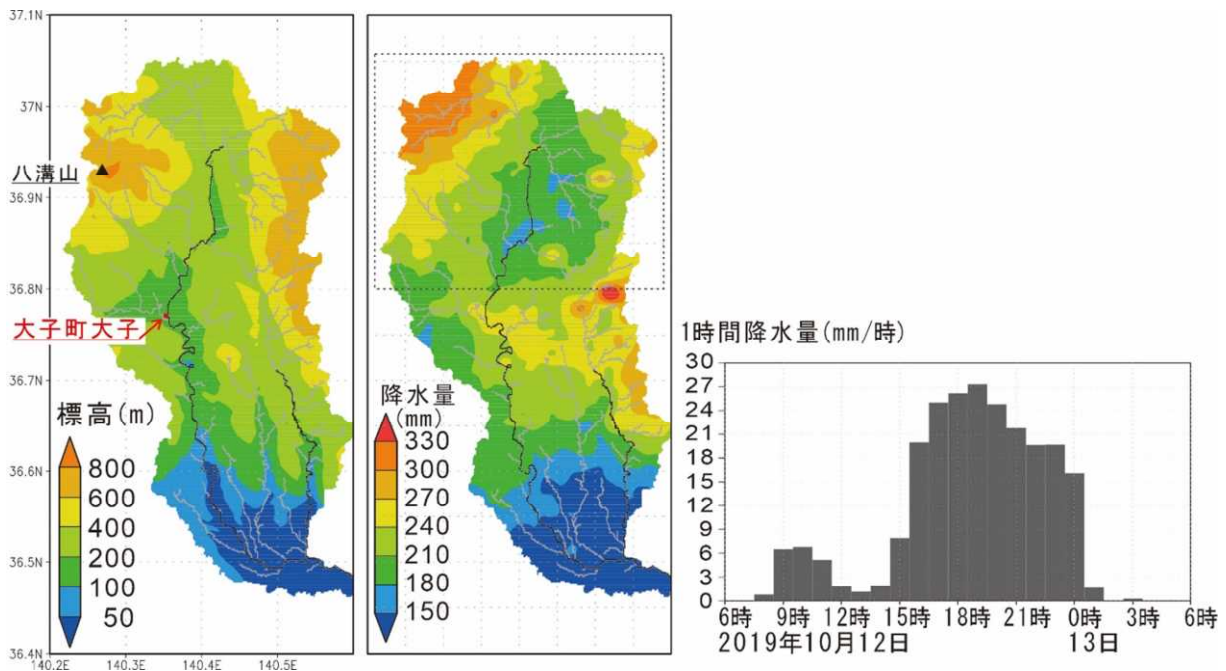


図 3 : 令和元年東日本台風に伴う久慈川流域の 24 時間最大降水量布と久慈川上流部 (点線枠内) の平均雨量の時系列 ※久慈川流域の標高 (左)

図4に、大字大子での河川水位の時系列を示します。12日15時頃から水位が上昇を始め、同日20時には氾濫危険水位に達しました。この頃から大字大子では浸水が始まりました。15時以降の持続的な強雨がこの急激な水位上昇につながったと考えられます。強い雨は、積乱雲などによって暖候期にしばしば見られます。しかし、強い雨が数時間持続する現象は、同時に広い範囲に強い雨をもたらし続けることに対応しているため、久慈川程度の中大規模の河川流域に降る雨の総量は、水位を急激に上昇させるに十分な量に達します。

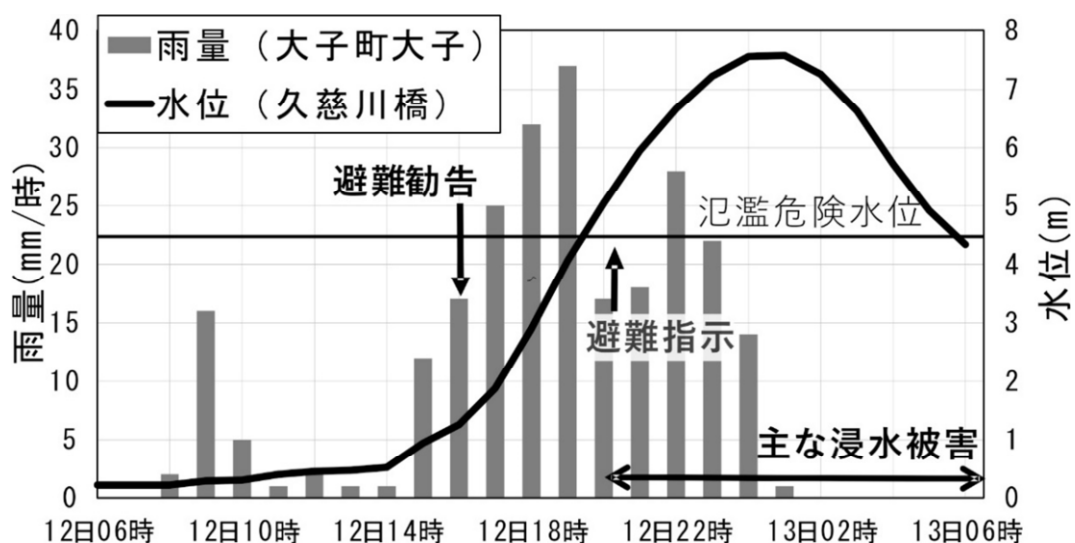


図4：大字大子の雨量・久慈川水位の観測値（久慈川橋水位観測所）と避難勧告・避難指示の時系列

図5に、令和元年東日本台風での浸水分布を示します。久慈川及び押川沿いの比較的低い地域に広く浸水域が分布しています。大子町の下流側は、山地に囲まれ蛇行した形状をしています。このような形状の地域では、流路が狭くなりやすくなるため、流れの渋滞が起こり、その上流部に水が溜まりやすくなる特徴があります。大子町周辺での水位上昇には、このような地形的な特徴も影響していたと考えられます。

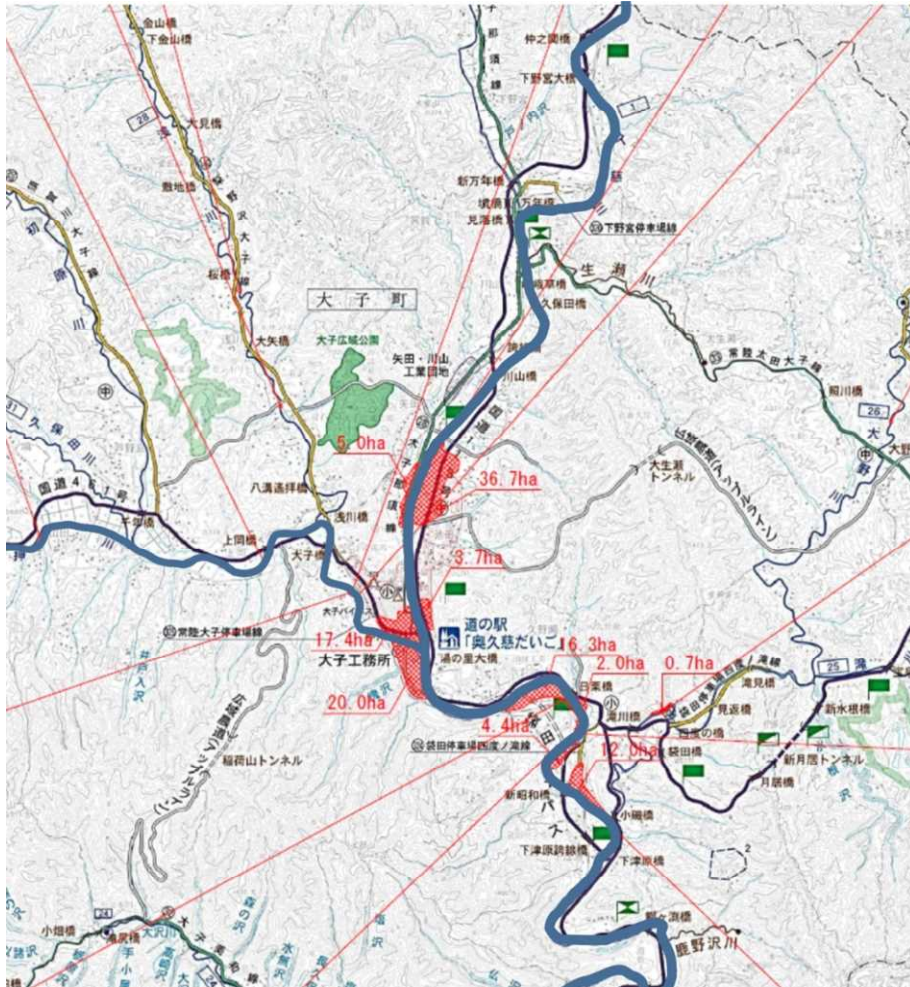


図5：令和元年東日本台風での浸水分布

図6に、大字大字周辺で浸水した水の流れを、国土交通省が作成した資料を基に説明します。大字大字での浸水は、松沼橋及び押川の常陸大字駅のやや下流付近からの越水が主な要因でした。松沼橋付近の住民のお話によると、「大量の流木等が松沼橋の欄干にかかり川の流れを堰き止め、水が市街地に流れ込んだ」とのことです。松沼橋から越水した水は大字大字のより標高の低い旧大字町役場方面に流れ下り、最も標高が低く堤防に囲まれたその周辺に溜まっていったと考えられます。

一方、押川での越水は、JR水郡線押川橋梁の下流部から水が入り込んでおり、堤防のわずかに低くなっている場所からの越水だった可能性があると考えられます。さらに、久慈川本流の水位が氾濫危険水位を大きく超えるなど高い水位になっていたことで、押川の水が久慈川本流に十分に流れることができず、押川での越水を招いていたことが推定されます。押川の南側でも、ほぼ同様の地点から越水が起こっているほか、旧大字観光やな付近の鮎神社の脇を通る小さな支流からも越水しました。これも、久慈川本流の水位が上昇

## 第1節 気象概要

し、支流に逆流する現象によってもたらされていたと考えられます。現地調査の結果、久慈川本流に流れ込むごく小規模な河川の合流部に多量の土砂が溜まっている箇所が複数確認され、これらは、支流への水の逆流が起こっていたことと関連すると推測されました。

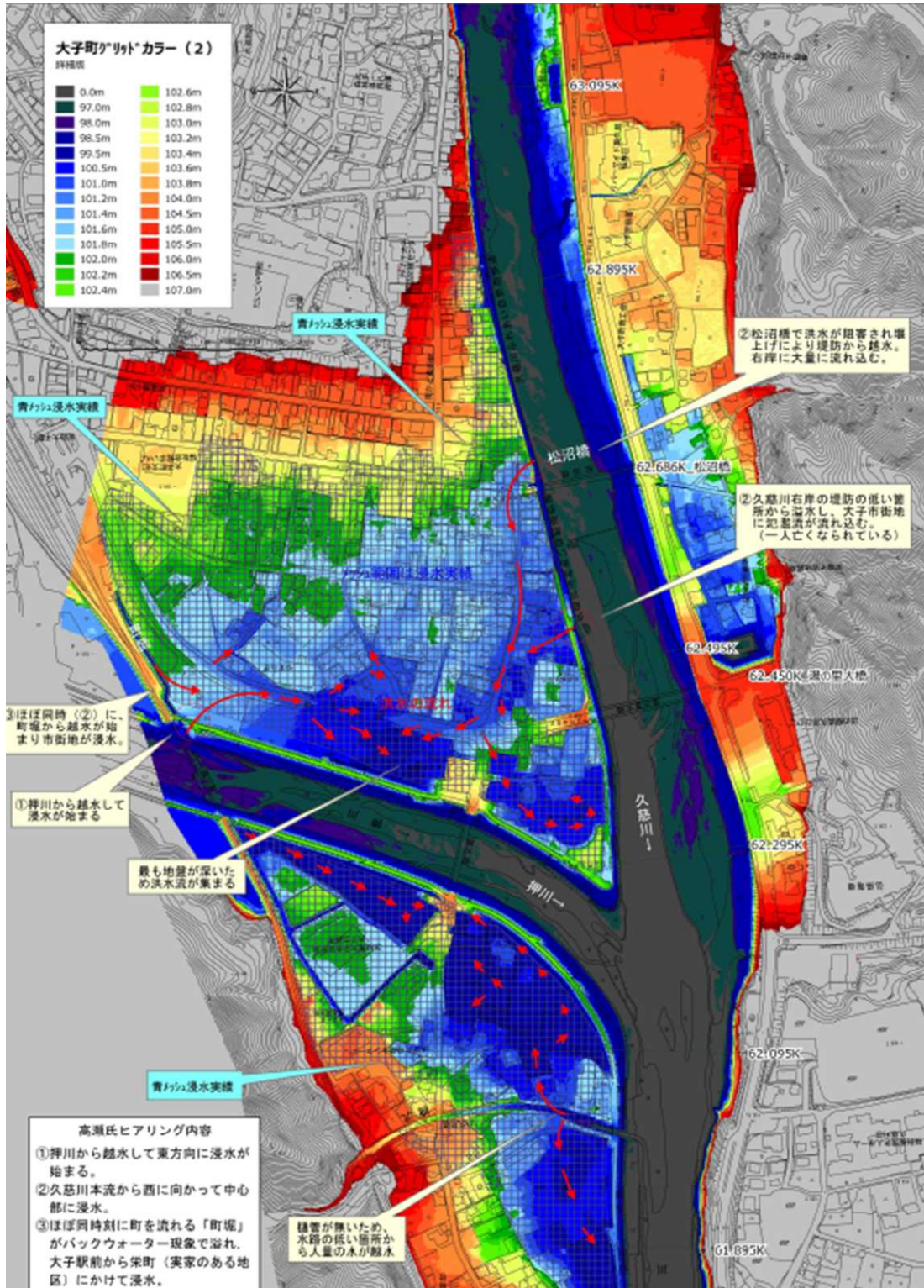


図5：国土交通省が住民の聞き取りを基に作成した大字大子周辺での浸水した水の流れ

※カラーは標高を示す。

## 第1節 気象概要

令和元年東日本台風では、台風の接近前から大雨となりました。先行する台風第15号では、強風によって千葉県内で鉄塔が倒れるなどの被害をもたらしたため、強風被害に対する警戒感が高まりました。しかし、気象庁は、昭和33年台風第22号（狩野川台風）を引き合いに大雨に対する警戒を強める情報を発信していました。結果的に目立った強風被害はなく、関東・東北地方での大雨による水害の影響が大きくなりました。

台風の前面（東側）に北上する水蒸気の川のような現象が大気で起こる、「大気の川」とも呼ばれる現象により、台風の襲来前でも大雨になるといわれています。図6は、令和元年東日本台風での水蒸気と風の分布です。台風の東側で、北向きの水蒸気の流れがあることが分かります。今回の事例では、台風の周りだけに水蒸気の流れが明瞭に分かりますが、数百キロ離れたところに水蒸気の流れが見られることもあり、平成27年9月関東・東北豪雨でも、東海地方に上陸した弱い台風の数百キロ東側の関東地方で大雨となりました。

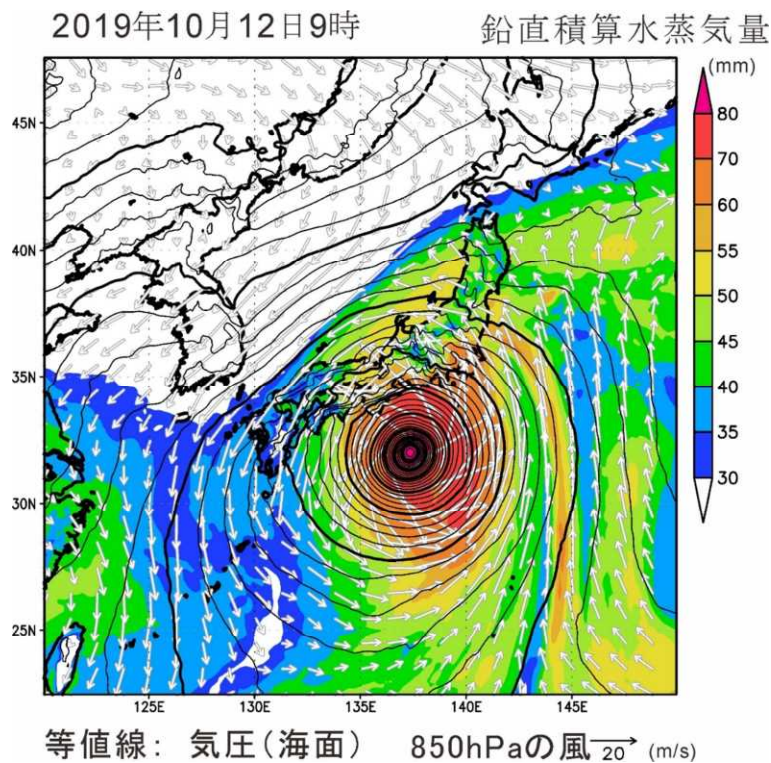


図6：令和元年東日本台風での水蒸気と風の分布

※カラーは大気中の水蒸気量、矢印は上空1,500m付近の風、黒線は海面気圧を示す。



# 過去の水害

## 明治・大正時代の水害

昔から、久慈川とその支流の八溝川、押川、滝川などの流域は、ほぼ毎年のように洪水に見舞われていました。明治23年（1890年）8月7日、前日からの大雨により久慈川沿岸は未曾有の大洪水に見舞われました。人や家畜が流され、旧大子村では大半の町家が浸水しました。

### 水害の記録（大子町史）

○明治23年8月 久慈川大洪水

大子村 流失13棟、浸水250余棟、死者4人、田畑被害、道路崩壊、橋梁・郷倉  
流失

下小川村 死者3人

○明治35年9月 大暴風雨

大子町 全壊39棟、半壊多数、死者2人

生瀬村 全壊35棟、半壊5棟、床上2棟、  
死者1人、小学校倒壊

○明治43年8月 大洪水

大子町 流失2棟、浸水84棟、道路崩壊

○大正6年10月 大暴風雨

黒沢村 全壊4棟、半壊2棟、床上2棟、死者1人

○大正9年10月 大洪水

大子村 流失5棟、床上55棟、床下40棟、全半壊13棟、死者2人

袋田村 流失17棟、床上27棟、床下28棟、全半壊12棟、死者1人

上小川村 流失35棟、床上23棟、全半壊25棟、死者7人

下小川村 流失18棟、床上11棟、床下18棟、全半壊8棟、死者2人



明治二十三年洪水被害記念碑

近年の水害

近年は、温暖化による気候変動で台風の発生の状況も大きく変化しています。水戸地方気象台によると、大子町でこれまでに発生した水害は、次表のようなものがあります。主な気象事例としては、台風や前線によるものが多く、期間としては、7月～10月に多く見られます。主な被害は、浸水害や洪水害、強風害などがあります。

大子町で特に被害が見られた事例として、

- ・平成27年台風第11号、梅雨前線
- ・平成25年台風第18号
- ・平成23年台風第15号
- ・平成5年台風第11号
- ・平成3年停滞前線、台風第18号

などがあります。

【大子町の水害事例（水戸地方気象台資料を改良）】

件名	現象の期間	主な被害
令和4年台風第15号	R 4. 9. 23 ~ 9. 24	浸水害
南岸低気圧	R 1. 10. 25 ~ 10. 25	浸水害
台風第19号 (令和元年東日本台風)	R 1. 10. 12 ~ 10. 12	洪水害、浸水害
台風第24号	H30. 9. 30 ~ 10. 1	強風害
南岸低気圧	H30. 1. 22 ~ 1. 23	積雪害
台風第10号	H28. 8. 30 ~ 8. 30	強風害
台風第9号	H28. 8. 22 ~ 8. 23	強風害、浸水害
南岸低気圧	H28. 1. 17 ~ 1. 18	強風害、積雪害
台風第11号、梅雨前線	H27. 7. 16 ~ 7. 17	浸水害
台風第26号	H25. 10. 15 ~ 10. 16	強風害、浸水害
台風第18号	H25. 9. 15 ~ 9. 16	強風害、浸水害
台風第15号	H23. 9. 21 ~ 9. 22	浸水害、浸水害
停滞前線、台風第23号	H16. 10. 20 ~ 10. 21	洪水害、浸水害
梅雨前線	H15. 7. 11 ~ 7. 11	強風害、強雨害

## 第2節 過去の水害

台風第21号	H14. 10. 1 ~ 10. 1	強風害、浸水害
台風第11号	H 5. 8. 26 ~ 8. 27	強風害、強雨害、洪水害、浸水害
台風第18号、停滞前線	H 3. 9. 18 ~ 9. 21	強雨害、洪水害、浸水害
停滞前線、温帯低気圧	S61. 8. 4 ~ 8. 9	洪水害、浸水害
停滞前線、台風第6号	S60. 6. 30 ~ 7. 1	強風害、強雨害、洪水害
台風第20号	S54. 10. 18 ~ 10. 19	強風害、洪水害、浸水害
台風第11号	S52. 9. 19 ~ 9. 20	洪水害、浸水害

### ○平成27年（2015）台風第11号

台風第11号は、日本の南を北上後、16日23時頃に高知県室戸岬に上陸しました。その後も北上を続け、日本海に達し、18日3時には、熱帯低気圧に変わりました。

茨城県内では、この台風が持ち込む暖かく湿った空気の影響で、16日未明から雨が降り始め大雨となりました。

大子町でも、浸水や国道・県道の通行止め、鉄道の遅延などが見られ、災害対策本部を設置し、避難所を9か所に開設するなどの対応を行いました。

24時間雨量101.5mm。床上浸水2棟（住家2）、床下浸水9棟（住家9）

### ○平成25年（2013）台風第18号

台風第18号は、発達しながら北上し、9月16日に8時前に暴風域を伴ったまま、愛知県豊橋市付近に上陸しました。本州を縦断し、同日17時には岩手県沖に達し、同日21時に北海道沖で温帯低気圧になりました。茨城県への最接近は、16日昼過ぎでした。

この台風の接近・通過に伴い、茨城県では15日4時過ぎから雨が降り始め、昼ごろにかけて非常に激しい雨が降りました。再び夜遅くから16日昼前にかけて雨となりました。

大子町では、総降水量が204mmとなり、浸水被害や鉄道の運休、断水などの被害が見られました。

24時間雨量189mm。床上36棟（住家24、非住家12、うち土石流8）、床下46棟（住家32、非住家14）、全壊・半壊・一部損壊16棟（住家14、非住家2）

## 第2節 過去の水害

### ○平成23年（2011）台風第15号

台風第15号は、日本の南海上を北東に進み、強い勢力を維持しながら静岡県浜松市付近に上陸しました。勢力を維持しながら関東地方を縦断し、同日夜遅くに福島の高海上に抜けました。

台風の北上に伴い、茨城県内の各地で大雨となり、降り始め（19日18時）から降り終わり（21日24時）までの総降水量は、常陸太田市や笠間市付近で200mmを超え、最も多かった北茨城市花園では288mmに達しました。沿岸部では、暴風、高波も見られました。

大子町でも、浸水被害などが見られました。

24時間雨量167mm。床上13棟（住家11、非住家2）、床下37棟（住家21、非住家16）、土砂災害7棟（一部損壊）

### ○平成5年（1993）台風第11号

台風第11号は、発達しながら北上し、8月27日に千葉県銚子市付近を通過しました。その後、本州の東海上を北上し、北海道釧路市付近を通過後に温帯低気圧に変わりました。本州付近を通過したため、関東甲信地方から東北地方南部にかけて大雨となりました。

大子町でも、浸水被害などが見られました。

### ○平成3年（1991）台風第18号、秋雨前線、停滞前線

台風第18号は、9月15日に沖ノ鳥島の南海上で発生し、沖縄の南海上を経て北東に進み、19日夜には、房総半島の沿岸に接近しました。その後本州の東海上を北東に進み、20日に三陸沖で温帯低気圧に変わりました。この期間、本州の南岸に前線が停滞し、活動が活発となったため、紀伊半島から東海、関東、東北の太平洋側で400から500mmの大雨となりました。



大子町でも、浸水被害や道路被害などが見られました。

24時間雨量162mm。半壊1棟、床上127棟、床下52棟、道路崩壊



## 第2章

### 被害概要



完全に浸水したコミュニティFM演奏所

# 被害概要

令和元年東日本台風による大雨の影響を受けて、久慈川・押川流域で護岸の崩落や堤防の欠損・越水などによる浸水被害が発生しました。町内では、下野宮、矢田・川山、池田、大子、袋田（袋田、下津原、久野瀬、南田気、北田気）、頃藤、西金地区の被害が大きく、中心市街地では旧役場、医療施設や社会福祉施設など一帯に深刻な浸水被害をもたらしました。このほか、各地で道路の損壊、立木倒木による停電、土砂崩落なども発生。これらにより、ライフライン、交通機関、公共施設などの都市基盤、農業、商工業など甚大な被害を受けました。

## 人的被害

- 死者 1人
- 中等症 1人



# 住家の被害

町内では、久慈川・押川の堤防越水による浸水被害が甚大だった大子、袋田地区で住家の全壊被害が多く発生しました。

## 住家被害の状況

住家（現実に居住のため使用している建物）被害の状況は、次のとおり（※住家被害認定調査件数に基づく。）

○全壊	35棟	}	床上浸水	449棟
○大規模半壊	107棟			
○半壊	307棟			
○一部損壊	139棟		床下浸水	139棟
合計	588棟			

## 【地区別の状況】

地区	判定	件数	上段：床上浸水 下段：床下浸水
大子	全壊	18	177
	大規模半壊	58	
	半壊	101	
	一部損壊	28	28
芦野倉	全壊	0	1
	大規模半壊	0	
	半壊	1	
	一部損壊	0	0
町付	全壊	0	0
	大規模半壊	0	
	半壊	0	
	一部損壊	4	4
上郷	全壊	0	0
	大規模半壊	0	
	半壊	0	
	一部損壊	1	1
下野宮	全壊	0	7
	大規模半壊	3	
	半壊	4	
	一部損壊	3	3



## 第2節 住家の被害

川 山	全 壊	0	6
	大規模半壊	0	
	半 壊	6	
	一部損壊	3	
矢 田	全 壊	0	8 4
	大規模半壊	1 3	
	半 壊	7 1	
	一部損壊	3 4	
内大野	全 壊	0	0
	大規模半壊	0	
	半 壊	0	
	一部損壊	3	
外大野	全 壊	0	1
	大規模半壊	0	
	半 壊	1	
	一部損壊	0	
袋 田	全 壊	4	4 1
	大規模半壊	1	
	半 壊	3 6	
	一部損壊	3 0	
下津原	全 壊	2	3 0
	大規模半壊	2	
	半 壊	2 6	
	一部損壊	1 3	
久野瀬	全 壊	2	1 0
	大規模半壊	2	
	半 壊	6	
	一部損壊	1	
南田気	全 壊	4	4 8
	大規模半壊	1 3	
	半 壊	3 1	
	一部損壊	1	
北田気	全 壊	1	4
	大規模半壊	3	
	半 壊	0	
	一部損壊	3	
池 田	全 壊	0	2 4
	大規模半壊	7	
	半 壊	1 7	
	一部損壊	5	
頃 藤	全 壊	4	1 5
	大規模半壊	5	
	半 壊	6	
	一部損壊	3	
大 沢	全 壊	0	0
	大規模半壊	0	
	半 壊	0	
	一部損壊	2	

## 第2節 住家の被害

西 金	全 壊	0	1
	大規模半壊	0	
	半 壊	1	
	一部損壊	3	
盛 金	全 壊	0	0
	大規模半壊	0	
	半 壊	0	
	一部損壊	2	



床上浸水となった住家（下野宮地区）



全壊家屋（南田気地区）

## 公共施設の被害

### 町有施設

- ・旧大子町役場 本庁舎地階、第1分室1階、第2分室、公用車21台浸水
- ・衛生センター（し尿処理場） 床上浸水
- ・コミュニティFM放送局（FMだいが）演奏所 床上浸水
- ・旧高齢者センター 床上浸水
- ・大子町立松沼集会所 床上浸水
- ・奥久慈憩いの森 進入路破損
- ・奥久慈溪谷駐車場 護岸破損、プレハブ流出 ※業務委託によりリース中のもの
- ・光ファイバーケーブル 町付地内（73m、倒木）、南田気地内（100m、浸水による電柱の倒壊）



2m以上浸水した旧役場（地階売店）



被災した公用車



完全に機能を喪失した衛生センター  
（南田気地区）



奥久慈溪谷駐車場護岸破損（袋田地区）

### 第3節 公共施設の被害

#### 主な被害額

令和2年2月12日現在（災害廃棄物処理料、衛生センター再建費除く。）

項目	被害件数	被害額	担当課
役場庁舎（消耗品）	7件	6,030,200円	総務課
役場庁舎（修繕）	7件	3,654,709円	
役場庁舎（復旧業務委託）	5件	3,788,950円	
役場庁舎（備品）	13件	1,884,871円	
仮設庁舎関係	6件	11,413,980円	
仮設コミュニティFM演奏所関係	7件	19,664,900円	
公用車（鑑定額）	21台	17,550,000円	
災害廃棄物仮置き場の復旧	2件	7,801,200円	
LGWAN接続系PC	30台	2,852,700円	
個人番号利用事務系PC	6台	403,200円	
インターネット接続系PC	5台	192,000円	
光ファイバー	2件	565,400円	
電気自動車急速充電器	1基	4,401,098円	
町立松沼集会所（修繕）	1式	507,100円	財政課
農林課庁用備品	1式	4,959,000円	農林課
農地・農業施設委託料（査定設計）	43箇所	8,335,800円	
林道委託料（査定設計）	1箇所	1,705,000円	建設課
町道・河川委託料（査定設計）	23箇所	42,537,000円	
町営住宅	17棟	2,720,000円	
湯の里公園	1式	1,413,000円	
地域包括支援センターシステム	1式	3,060,332円	地域包括支援センター
地域包括支援センター庁用備品	1式	133,980円	
消防ポンプ車（消防団6-4、袋田宿滝本）	1台	19,910,000円	消防本部
消防デジタル携帯無線機	3台	660,000円	
※修理依頼時の見積額			
消防団車庫修繕（6-5）	1箇所	13,200円	

### 第3節 公共施設の被害

消防団員用装備品（ゴーグル、防塵マスク、耐切創手袋）	1式	61,270円	
消防団員用被服等（制服、活動服、アポロキャップ、編上靴、雨衣）	1式	188,400円	
町設置型合併浄化槽修繕	18件	1,238,600円	生活環境課
施設修繕、復旧委託、備品等	1式	18,199,600円	衛生センター
汚泥処理委託（他市村）	1式	19,673,000円	（予算計上分）
合計		205,518,490円	



被災した地域包括支援センター



被災したコミュニティFM放送機材

#### 県有施設

- ・常陸大宮土木事務所大子工務所 床上浸水（約30cm）、公用車12台

# ライフラインの被害

## 電 気

- 停電軒数 最大2,700軒
- 期 間 当日～10月14日

## 上 水 道

- 断水戸数 最大7,958戸
- 期 間 当日～10月22日
- 被害状況 浄水場の浸水、  
水道管破損による断水

- 主な被害額 238,230千円（令和2年2月12日現在）



電力会社による復旧作業

## 電 話

不通箇所なし

## 携帯電話

一部キャリアで基地局の浸水

## コミュニティFM

町内全域で不通

- 期 間 当日～10月19日
- 被害状況 演奏所の浸水

臨時災害放送局の開設により13日から大子送信所管内は復旧



被災した西金浄水場送水ポンプ

# 道路の被害

## 町道の通行止め箇所

10月17日現在

場 所			状 況
上野宮地内	平林釣堀手前	町道 1009 号線	路体流出
下津原地内	新昭和橋	町道 3455 号線	路体流出
盛金地内	奥久慈ドライブイン付近	町道 5215 号線	路体流出
上岡地内	北向沢付近	町道 2197 号線	路肩流出
袋田地内	南田気橋付近	町道 3467 号線	路体流出
袋田地内	清流の里付近	町道 219 号線	路体流出
小生瀬地内	入合	町道 4228 号線	倒木、電柱倒れ、路体洗掘、流出
南田気地内	久野瀬橋	町道 3333 号線	土砂流木堆積
南田気地内	J R陸橋下	町道 3333 号線	陸橋損壊
頃藤地内	上小川キャンプ場	町道 5092 号線	路体流出
大生瀬地内	沓掛峠	林道沓掛線	土砂流出・倒木



路体流失（盛金地内）



土砂流出・倒木（大生瀬地内）

## 第5節 道路の被害

### 主な被害額

令和2年2月12日現在

○町 道 国庫補助分	9箇所	147,000千円
町単独分	152箇所	82,631千円
(うち対応済)	59箇所	39,060千円)
○農 道 町単独分	11箇所	4,300千円
(うち対応済)	5箇所	2,500千円)
○林 道 国庫補助分	1箇所	28,000千円
町単独分	37箇所	21,800千円
(うち対応済)	24箇所	10,925千円)
○河 川 国庫補助分	14箇所	106,000千円
町単独分	107箇所	81,920千円
(うち対応済)	41箇所	29,330千円)

### 国・県道の通行止め箇所

10月14日現在

路線名	場 所	被害状況	規制内容	規制開始	規制解除
国道118号	久野瀬	久慈川越水による路面冠水	全面通行止	10月12日 21時30分	10月13日 11時25分
県道大子那須線	矢田	久慈川越水による路面冠水 L=1,700m	全面通行止	10月12日 21時00分	10月13日 11時25分

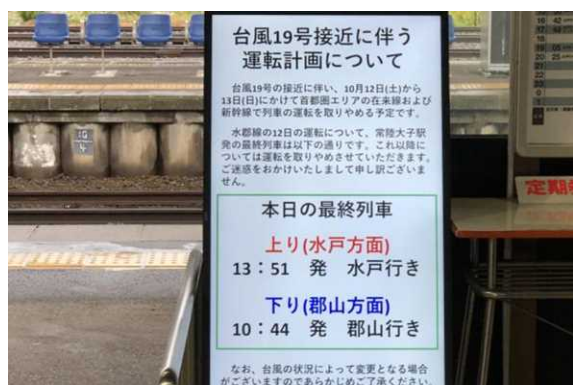
県道八溝山公園線通行止め



# 公共交通機関の被害

## 鉄道（JR水郡線）

期 間	被 害 状 況
10月13日	久慈川第六橋梁の落橋、バラストの流失
10月13日・14日	全線で運休
10月15日～ 10月31日	常陸大宮駅～常陸大子駅間で運休 代行バス 常陸大宮駅～常陸大子駅間 15日～ 朝夕各2便 JR東日本が運行 21日～ 日中便 茨城県が運行 常陸大子駅～安積永盛駅間で運休 代行バス 東館駅～郡山駅間
11月 1日～ 令和2年7月3日	西金駅～常陸大子駅間で運休 代行バス 西金駅～常陸大子駅間 ※袋田駅未停車 朝夕、日中便 JR東日本が運行
令和2年7月4日～ 令和3年3月26日	袋田駅～常陸大子駅間で運休 代行バス 上小川駅～常陸大子駅間 ※袋田駅未停車
令和3年3月	久慈川第六橋梁の再建
令和3年3月27日	全線で運転再開



計画運転のお知らせ ※



水郡線の運休に伴う代行バスの運行 ※

**路線バス**

袋田の滝線を除き、通常運行（袋田駅～滝本間が1往復に減便）

- 1 1月1日から代行バスの袋田での乗車場所が割山バス停に変更となったことに伴い、
- 1 1月2日～24日の間、袋田滝本への臨時無料バスを町が運行しました。

**町民無料バス（みどり号）**

金曜日の黒沢西部コースを除き、通常運行（バスが回転できないことから「県境バス停」には停まらず。）

## 医療・福祉施設の被害

### 医療施設

中心市街地の5医療機関が浸水被害を受けました。

#### ○被害の状況

- 一時停電、断水（給水車により対応）、  
外来診療室・待合室設備、機械設備、検査機器、カルテ等の浸水
- ・久保田病院 床上浸水、透析患者の町外搬送、  
10/16 透析のみ再開、10/28 診療全面再開
- ・慈泉堂病院 床上浸水、10/15 かかりつけ患者のみ診療再開、10/21 診療全面再開
- ・保内郷メディカルクリニック 床上浸水、10/21 診療再開
- ・吉成医院 床上浸水、10/18 診療再開
- ・岩佐医院 2階踊り場まで浸水、10/18 診療再開



1階部分が浸水し、泥が流入した医療機関（大子地区） ※

### 福祉施設

中心市街地の老人保健施設が浸水被害を受けました。

#### ○被害の状況

- ・老人保健施設やすらぎ  
床上浸水、入所者は2階に退避、  
電源の喪失、断水（給水車により対応）



非常用発電機で電源確保

## 農林業の被害

---

### 被害件数

10月13日～令和2年1月31日に現地調査したもの

○土砂崩れ	89件
○土砂流入	83件
○浸水	9件
○堰	22件
○畜産	3件
○その他	18件
合計	224件

※上記のうち田123件、畑47件、山林11件



久慈川からの土砂により埋没したりんご園（盛金地区）

### 主な被害額

令和2年2月12日現在

○農地・農業施設	195,276千円
○農業用機械等	98,986千円
○農作物等	5,264千円

## 商工観光業の被害

---

### 事業者の被害状況

令和2年2月12日現在

○事業者数 197事業所（医療機関を含む。）

○被害額 4,594,581千円

#### 【内訳】

- ・土地 143,550千円
- ・建物 1,498,518千円
- ・機械設備 2,465,346千円
- ・商品, 原材料 487,167千円

### 主な観光施設の状況

○10月の利用者数

・袋田観瀑施設

25,467人（前年同月比 26,277人減（△50.8%））

・グリーンヴィラ

1,509人（前年同月比 1,176人減（△43.8%））

○11月の利用者数

・袋田観瀑施設

101,014人（前年同月比 33,519人減（△24.9%））

・グリーンヴィラ

2,782人（前年同月比 111人増（+4.2%））

○12月の利用者数

・袋田観瀑施設

21,063人（前年同月比 1,252人減（△6.4%））

・グリーンヴィラ

2,330人（前年同月比 232人減（△9.1%））

## 第9節 商工観光業の被害

### 宿泊施設の運営状況

No.	旅館・ホテル名	所在地	運営状況	確認日
1	袋田温泉 思い出浪漫館	袋田 978	通常営業 ※溪流露天風呂使用不可	19日
2	滝味の宿 豊年万作	袋田 169-3	通常営業	19日
3	北條館別館	袋田 1325	通常営業	19日
4	栄屋旅館	袋田 2073-1	通常営業	19日
5	悠久の宿 滝美館	袋田 21-2	通常営業	19日
6	リバーサイド奥久慈福寿荘	池田 2694	通常営業	19日
7	大子温泉やみぞホテル	矢田 524-2	通常営業 日帰入浴は 12:00~20:00	19日
8	玉屋旅館	大子 718	通常営業	21日
9	橋本屋旅館	大子 790-1	当面は休業	14日
10	旅館本田屋	矢田 1363-1	通常営業	19日
11	鈴木屋旅館	下野宮 2252	通常営業	19日
12	ログテラス鱒ヶ淵	下津原 1471	通常営業	21日
13	那須屋旅館	頃藤 5094	通常営業	21日
14	民宿芋の里	頃藤 515-1	通常営業	21日
15	ホテル河鹿園	袋田 2129	当面は休業	16日
16	月居温泉滝見の湯白木荘	小生瀬 2879	通常営業	16日
17	ビジネスホテル ふじ乃	池田 1252-1	通常営業	17日
18	ホテル 奥久慈館	池田 2369-3	通常営業 ※エレベーター使用不可	14日
19	丘の上のゲストハウス「Daigo house」	北田気 577-5	通常営業	17日

# 文教施設の被害

## 学校施設の被害状況

10月16日現在

学校名	学習用具の被害	施設の被害
だいが小学校	6	体育館倉庫の雨漏れ、職員玄関前のタイル剥がれ
袋田小学校	4	
上小川小学校	2	断水給水対応
生瀬小学校		断水給水対応
南中学校		断水給水対応、体育館漏電
生瀬中学校		断水給水対応

## 学校の対応状況

- 臨時休校 10月15日 だいが小、袋田小、大子中
- 学校給食 通常どおり提供
- バス通学 通常運行







## 第3章

# 初動対応、 避難者・被災者への支援



令和元年東日本台風の気象衛星から観測画像(気象庁)

# 初動対応

時間	対応状況
<b>【11日(金)】</b>	
8:46	常陸河川国道事務所から町長に電話連絡「何でも相談してください。」
15:30	災害対策連絡会議（災害注意体制）の開催 ・出席者 町長、総務課長、農林課長、建設課長、福祉課長、教育委員会事務局長、水道課長、消防長 ・内容 気象情報・各課対応状況の共有、自主避難所の開設決定、早朝の避難準備・高齢者等避難開始の発令・避難所の開設予定
16:18	強風注意報の発表
18:00	自主避難所の開設（文化福祉会館まいん）
21:19	大雨注意報の発表
<b>【12日(土)】</b>	
6:20	洪水注意報の発表
8:49	町長から警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始発令の指示
9:00	警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始を発令 ・対象地区 町内全域 ・世帯数 7,420世帯、人口：17,395人 ・開設避難所 文化福祉会館まいん、コミュニティセンター8か所 災害対策連絡会議から災害警戒本部（災害警戒体制）に移行
9:21	大子工務所において水防待機（4人）
9:25	消防本部に広報活動を依頼
10:18	大雨警報（土砂災害）、暴風警報の発表 ※警戒レベル3相当
10:48	消防団において金町水門（久慈川沿い）の閉鎖
11:17	広報活動が終了した消防団は自宅待機
12:42	消防団による広報活動が全域終了
14:00	養護老人ホーム泉荘（要配慮者利用施設）において森林の温泉に避難開始
14:30	建設課においてパトロール開始
15:25	土砂災害警戒情報の発表 ※警戒レベル4相当

## 第1節 災害対策本部の活動

15:25	土砂災害警戒判定メッシュ情報で非常に危険（紫）が出現
15:30	大子警察署から久野瀬橋通行止めについて確認電話
15:30	大子土木、頃藤雨量観測所で累加雨量50mm超
15:36	町長から警戒レベル4避難勧告発令、あわせて中央公民館を避難所として追加開設の指示
15:40	左貫、依上小学校雨量観測所で累加雨量50mm超
16:00	警戒レベル4避難勧告を発令 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地区 町内全域</li> <li>・世帯数 7,420世帯、人口:17,395人</li> <li>・開設避難所 文化福祉会館まいん、中央公民館、コミュニティセンター8か所</li> </ul> 災害警戒本部から災害対策本部に移行
16:22	久野瀬橋で通行止め完了（建設課長から入電）
16:01	消防長に広報活動と巡回時に把握した災害箇所の情報連絡を依頼
16:15	排水ポンプ（役場第1・2分室間）の水槽水位を確認 ⇒2割位の水位
16:40	旧黒沢中学校、生瀬小学校雨量観測所で累加雨量50mm超
17:00	上岡水位観測所で水防団待機水位（レベル1水位）に到達
17:10	上岡水位観測所で氾濫注意水位（レベル2水位）に到達
17:11	水道事業において原水濁度上昇。しばらくの間、左貫、上野宮、下金沢、相川、大沢浄水場で取水中止
17:20	大子土木雨量観測所で累加雨量100mm超
17:30	下野宮水位観測所で水防団待機水位（レベル1水位）に到達
17:32	生瀬、下野宮、山田地区の一部で停電。1分程度で復旧、現在町内で停電は発生なし（東京電力から入電）
17:50	下野宮水位観測所で氾濫注意水位（レベル2水位）に到達
18:00	下津原橋水位観測所で水防団待機水位（レベル1水位）に到達
18:10	滝川（ますこ庵（小生瀬）後ろ辺り）の水位上昇の情報（町職員から入電）
18:13	ますこ庵（小生瀬）後の滝川が増水
18:24	河川ホットライン（副ライン）による連絡（大子工務所道路管理課長） 18:20 下野宮水位観測所 避難判断水位超過3.10→3.12m 18:20 上岡水位観測所 避難判断水位超過2.7→2.74m

## 第1節 災害対策本部の活動

18:25	大子警察署裏の官舎付近で側溝が溢水。ため池の影響か。建設課に連絡（中央公民館派遣職員から入電）
18:26	国道461号石井畳屋付近（近町）で土砂が道路に流入（消防本部から入電） ⇒19:45土砂は除去済。大型土嚢の準備中、片側交互通行により対応（大子工務所から入電）
19:13	河川ホットライン（副ライン）による連絡 19:00 下津原橋水位観測所 避難判断水位超過6.2→6.39m
19:18	河川ホットライン（副ライン）による連絡 19:10 久慈川橋水位観測所 避難判断水位超過4.1→4.25m 19:34 →4.59m
19:26	19:18の報告により吉原建設土場（後冥賀）の先で道路の冠水。第5分団が現地対応中（消防長から入電）。建設課に連絡、通行止めの対応検討。それまで分団待機
19:32	生瀬、下野宮、山田地区で停電。1分程度で復旧
19:38	水戸地方气象台（台長）から町長に「大雨特別警報発表」の告知
19:50	池田地区で仁ヶ崎沢があふれ、住宅2軒床下浸水。消防が土嚢対応中
19:50	大雨特別警報（土砂災害、浸水害）の発表 ※警戒レベル5相当
20:00	町の対応状況の確認（県防災・危機管理課から入電）
20:10	国道461号（近町）は20時頃に普通通行可（大子工務所から入電）。
20:10	警戒レベル4避難指示の発令 ・対象地区 町内全域 ・世帯数 7,420世帯、人口：17,395人 ・開設避難所 文化福社会館まいん、中央公民館、コミュニティセンター8か所
20:15	排水ポンプ（役場第1・2分室間）が稼働中を確認（対策本部）
20:16	20:00後冥賀の通行止め対応完了
20:24	県道大子那須線本田屋付近（矢田）で道路の冠水。大子工務所把握済
20:26	久慈川樋門の閉鎖対応 ⇒20:40完了
20:28	北富田地区で停電。1分程度で復旧
20:31	相川、町付地区で床下浸水が迫り、土嚢対応中

## 第1節 災害対策本部の活動

20:33	農林課2人が事務所に詰める旨連絡（農林課長から入電） ⇒20:55到着
20:55	新待月橋付近（町付）で住宅1軒（避難済）が床下浸水
20:56	湯の里公園の排水ポンプが作動不良（消防団から入電）。業者対応を手配
21:07	国道118号久野瀬地内で道路の冠水（消防本部から入電）。消防本部から大子工務所に連絡
21:19	頃藤・西金浄水場、上岡浄水場の取水井戸が浸水。台風通過後の対応とする。断水はなし
21:20	防犯カメラから役場敷地への浸水が確認
21:32	町長から文化福祉会館まいんの避難者に対し、だいが小学校体育館への二次避難を指示
22:28	役場敷地で浸水が継続
22:45	コミュニティFM演奏所が浸水し、機材損傷により放送不可。職員は退避 ⇒FMによる情報伝達手段を喪失
22:45	だいが小学校体育館に二次避難を開始
22:50	役場第2分室で床上20cm浸水状態
23:18	役場敷地で腰を超える深さまで浸水
23:47	芦野倉笹山手前で土砂崩れのため通行不能（消防団からの情報）
23:48	だいが小学校体育館への二次避難完了
23:54	TAIRAYA駐車場（池田）で車の上に2人救出要請。消防出動中 ⇒2:38救出完了し、だいが小学校体育館に輸送
<b>【13日（日）】</b>	
0:17	清流の里付近（袋田）で町道が滝川増水により冠水（町職員から入電）
0:23	中郷地区で停電
0:25	自衛隊に茨城県を經由して人命救助を要請 ⇒自衛隊の到着・活動前に消防本部の活動により救助完了（5件）
0:47	袋田滝本で停電（消防長から入電）
0:55	袋田第二子育て支援住宅で周囲が冠水し、逃げ遅れ者（5号棟）を確認。消防本部に連絡し、安全な家の中にいるように指導あり（町職員から入電）

## 第1節 災害対策本部の活動

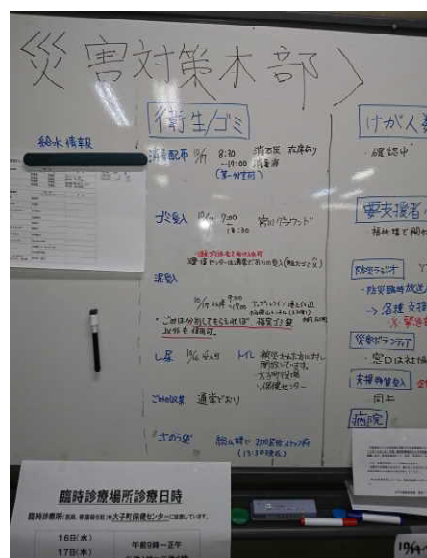
1 : 5 3	消防庁舎で断水
2 : 1 7	東京電力パワーグリッドから停電状況の報告 0 : 0 8 西金、盛金地区で100軒の停電。現在も継続中 0 : 1 9 久野瀬、小生瀬、頃藤、下津原、大子、袋田地区で停電。軒数は不明。現在も継続中 0 : 2 9 池田、大生瀬、川山、北田気、下野宮、高田、矢田地区で700軒の停電。現在も継続中 車両が常陸大宮市から大子町に入れない状況のため、復旧に関しては未定
2 : 2 0	大雨特別警報（土砂災害、浸水害）から大雨警報（土砂災害）に引き下げ
4 : 5 9	暴風警報から強風注意報に引き下げ
6 : 3 1	国道118号において大子警察署から久野瀬までの冠水は解消。大子工務所に泥の撤去を依頼している連絡
7 : 0 0	土砂災害警戒情報の解除
8 : 1 0	大雨警報（土砂災害）から大雨注意報に引き下げ
早朝から	町内各小中学校・幼稚園の児童生徒の安否確認
1 5 : 0 0	FMぱるるん（水戸市）の支援により、総務省の認可を得て、臨時災害放送局の開設（大子送信所管内）
1 8 : 0 0	警戒レベル4避難指示の解除 ・対象地区 町内全域 ・避難所の閉鎖 ⇒東京理科大学大子研修センターに集約
<b>【14日（月）】</b>	
1 3 : 0 0	自衛隊に茨城県を經由して断水に伴う給水支援を要請
1 5 : 3 5	高圧線までの復旧が完了（町内全域での停電解消）
1 6 : 2 7	洪水警報から洪水注意報に引き下げ
<b>【15日（火）】</b>	
9 : 0 0	文化福社会館まいんに災害ボランティアセンターを開設（運営：社会福祉協議会）
1 7 : 0 0	自衛隊に茨城県を經由して浄水場復旧工事（土砂等撤去）の支援を要請
<b>【16日（水）】</b>	
1 3 : 4 0	保健センターに救護所を開設

## 第1節 災害対策本部の活動

【19日(土)】	
17:00	FMだいが町内全域で放送再開（臨時災害放送局の閉鎖）
【20日(日)】	
17:03	久野瀬橋が通行可能（建設課から）
17:24	生瀬、頃藤浄水場エリアで完全通水
【21日(月)】	
9:00	り災証明書・被災届出受理証の交付申請を開始（9:00～17:00 役場第2分室）
【22日(火)】	
8:30	ラジオ200セット（21日に常総市から支援）を被災者に配布（総務課窓口、広報車による広報活動）
14:40	本日の活動終了をもって自衛隊に対する給水支援要請終了の旨、茨城県（防災・危機管理課専門監）に連絡
16:45	西金浄水場エリアで完全通水（町内全域での断水解消）



演奏所から退避するFMだいが職員  
（防犯カメラから）



情報で埋まるホワイトボード



## 第1節 災害対策本部の活動

### 大臣、国会議員、県知事による現地視察、激励

期 日	時 間	来 訪 者
10月13日	15:00	上月良祐参議院議員（町長面会）
10月14日	10:00	大井川和彦県知事（大子町被災現場視察、町長・石井邦一県議同行）
	15:00	石井啓一前国土交通大臣（町長面会）
10月18日	10:40	梶山弘志衆議院議員（町長面会）
10月21日	10:50	武田良太内閣府特命担当大臣（防災担当）（大子町被災現場視察、副町長面談対応）
	11:10	赤羽一嘉国土交通大臣（第六久慈川橋梁被災状況視察、町長現地同席）
10月22日	17:05	菅原一秀経済産業大臣（企業視察、大子町長・商工会長・地元企業関係者との意見交換会）



被災者を見舞う大井川知事（町内各所）



武田大臣の訪問（旧役場）

### 各種イベント等の対応状況

10月16日現在

開 催 日	行 事 名	対 応 状 況	担 当 課
10月15日～ 10月19日	だいが放課後児童クラブ	閉所	福祉課
10月17日	行政相談	延期	総務課
10月20日	甲状腺検査に関する講演会	中止	健康増進課

## 第1節 災害対策本部の活動

10月23日	生活自立相談窓口	中止	福祉課
	もの忘れ（認知症）相談	中止	地域包括支援センター
	議員と話そう会	延期	議会事務局
10月27日	Dカフェ（認知症カフェ）	中止	地域包括支援センター
10月31日	地域版町民ウォーキング（依上地区）	中止	健康増進課
11月10日	結婚相談会	中止	まちづくり課

## 文化・体育事業の対応状況

10月23日現在

開催日	事業名	対応状況
10月13日 ・14日	中央公民館研修室等の貸出し	中止
10月14日～	公民館講座（8事業）	延期
10月15日	文化福祉会館自主事業運営委員会委員任命式	延期
	大子地区防犯協会役員会	中止
10月20日	大子地区、宮川地区町民歩く会	中止
10月25日 ～11月2日	芸術祭（音楽祭・芸能祭等含む。）	中止
10月26日	子ども会創作活動絵画展	中止
	黒沢地区町民歩く会	中止
10月27日	依上地区町民歩く会	中止
11月 3日	袋田地区町民歩く会	中止
11月17日	文化福祉会館自主事業エレクトーンコンサート	中止
12月15日	文化福祉会館自主事業花咲かプロジェクト	中止

## 災害対策本部会議

期 日	会 議 内 容
10月11日	災害対策連絡会議 (1) 現在の状況 (2) これまでの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・FMラジオによる注意喚起</li> <li>・土のう袋、砂の手配</li> <li>・避難所への必要備品の送致</li> <li>・泉荘避難関係</li> <li>・公用車の燃料</li> </ul> (3) 今後の対応 (4) その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの運行</li> <li>・町所有発電機の起動確認</li> </ul>
10月13日	第1回大子町災害対策本部会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水ごみの処分について</li> <li>・給水活動について</li> <li>・森林の温泉の無料開放</li> <li>・避難所の継続</li> </ul> 【今後の対応】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民との対応窓口の設置</li> <li>・農林課、生活環境課、地域包括支援センターの事務所の確保</li> <li>・ボランティアの受付</li> <li>・災害救助法の適用</li> </ul>
10月13日	町議会議員への被災概要・対応状況等報告
10月15日	第2回大子町災害対策本部会議 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 台風第19号に係る被害状況について</li> <li>(2) 台風第19号に係る災害対応について</li> <li>(3) 水没した公用車数の把握と今後の対応について</li> <li>(4) 今後必要とされる取組について</li> </ol>
10月17日	第3回大子町災害対策本部会議 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 台風第19号に係る被害状況について</li> <li>(2) 台風第19号に係る災害対応について</li> <li>(3) 今後必要とされる取組について</li> <li>(4) 応援人員について</li> </ol>

## 第1節 災害対策本部の活動

10月21日	第4回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
10月23日	第5回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
10月25日	第6回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について (4) 台風第21号に係る対応について
10月28日	第7回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
11月 1日	第8回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
11月 7日	第9回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
11月14日	第10回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
11月21日	第11回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
11月28日	第12回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について

## 第1節 災害対策本部の活動

12月5日	第13回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
12月19日	第14回大子町災害対策本部会議 (1) 台風第19号に係る被害状況について (2) 台風第19号に係る災害対応について (3) 今後必要とされる取組について
令和2年 3月31日	9時をもって解散



防災関係機関を含めた対策本部会議（旧役場庁議室）

## 広報・報道対応

### 広報だいが

災害対応と印刷室の浸水被害のため、10月21日発行の広報だいが・お知らせ版を中止しました。

○広報だいが 11月号として11月5日から再開

○お知らせ版 11月5日から再開

### ホームページ・アプリ

トップページを災害対応版に切り替えて、災害情報や被災者支援情報を発信しました。また、大子町アプリにて同情報を発信しました（以後、登録者が飛躍的に伸びる。）。

### コミュニティFM

- 10月13日 FMぱるるん（水戸市）の支援により、総務省の認可を得て、15時から臨時災害放送局（大子送信所管内）を開設しました。
- 10月19日 17時から町内全域で放送を再開しました。臨時災害放送局の閉鎖
- 10月21日 21日に常総市から支援を受けたラジオ200セットについて、被災者に配布を開始しました。総務課窓口、広報車による広報活動



常総市様から防災ラジオの支援

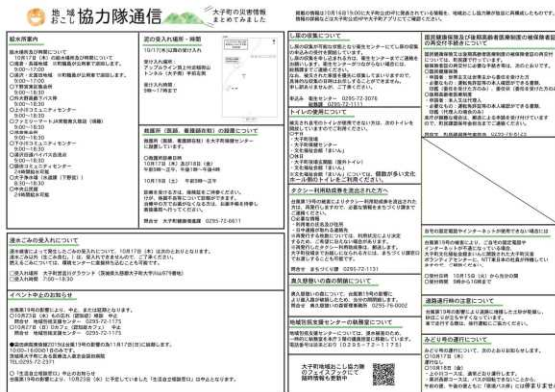
# 第1節 災害対策本部の活動

## 新聞折込

電化製品の水没により情報の入手困難な状況を踏まえ、10月20日から不定期に被災者支援情報を新聞折込にて提供しました。

## その他

地域おこし協力隊がホームページ上の被災者支援情報を再編集して、「地域おこし協力隊通信」を作成。被災地や町内のコンビニ等に配架しました。



地域おこし協力隊通信



町内コンビニに配架

## 応援職員の受入れ

### 県内市町村

市町村名	期 間	受 援 内 容	受入人数 (延べ)	そ の 他
常総市	10. 13～10. 25	災対本部支援、災害廃棄物、建設部門、保健師等	40 人	
日立市	10. 18～11. 11	災害廃棄物、保健師	18 人	
守谷市	10. 18～10. 19	保健師等	4 人	
牛久市	10. 18～10. 18	保健師等	2 人	
笠間市	10. 20～10. 31	災害廃棄物、保健師	23 人	
鉾田市	10. 20～10. 20	保健師等	3 人	
東海村	10. 22～10. 31	災害廃棄物	20 人	
坂東市	11. 1～11. 13	災害廃棄物	10 人	
美浦村	11. 2～11. 10	災害廃棄物	6 人	
下妻市	11. 3～11. 9	災害廃棄物	8 人	
高萩市	11. 5～11. 8	災害廃棄物	4 人	
小美玉市	11. 7～11. 13	災害廃棄物	2 人	
つくばみらい市	11. 11～11. 12	災害廃棄物	4 人	

### 【給水支援】

- ・筑西市 10月13日～17日
- ・高萩市 10月13日～18日
- ・日立市 10月14日～18日
- ・常総市 10月16日・17日





## 第1節 災害対策本部の活動

### 県外市町村

市町村名	期 間	受 援 内 容	受入人数 (延べ)	そ の 他
福岡県福岡市	10.16～10.25	住家被害認定調査	121人	対口支援
千葉県船橋市	10.22～10.31	災害廃棄物	20人	関東ブロック災害廃棄物対策行動計画に基づく派遣
群馬県前橋市	10.22～10.24	災害廃棄物	3人	
千葉県柏市	10.26～10.31	災害廃棄物	5人	
埼玉県東村山市	10.29～10.30	災害廃棄物	2人	
千葉県市川市	10.30～10.31	災害廃棄物	2人	
東京都葛飾区	10.31～11.7	災害廃棄物	16人	
東京都江東区	10.31～11.7	災害廃棄物	8人	
東京都千代田区	10.31～11.7	災害廃棄物	8人	
長野県甲府市	11.14～11.14	災害廃棄物	2人	

### 茨城県による市町村支援チーム及びリエゾンの派遣

○期 間 10月13日～10月31日

○受入人数 延べ35人



応援職員を交えた家屋調査打合せ

## 第1節 災害対策本部の活動

### 国土交通省 TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の派遣

- 期 間 10月18日～10月23日
- 受援内容 河川・道路被災状況調査、路面清掃車による道路清掃、  
町長に調査報告書を手交



国土交通省 TEC-FORCE による路面清掃 ※



調査報告書の手交

### 国土地理院の測量用航空機「くにかぜ」による被災地の緊急撮影

- 期 日 10月17日

### 環境省による派遣

- 期 間 10月15日～10月20日、22日、23日
- 受援内容 被害状況及び災害廃棄物の発生状況等についての現地確認

## 避難情報の発令

時間	発令内容
<b>【11日(金)】</b>	
16:18	強風注意報の発表
18:00	自主避難所の開設（文化福祉会館まいん）
21:19	大雨注意報の発表
<b>【12日(土)】</b>	
6:20	洪水注意報の発表
9:00	警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始を発令 ・対象地区 町内全域 ・世帯数 7,420世帯、人口:17,395人 ・開設避難所 文化福祉会館まいん、コミュニティセンター8か所
10:18	大雨警報（土砂災害）、暴風警報の発表 ※警戒レベル3相当
15:25	土砂災害警戒情報の発表 ※警戒レベル4相当
15:25	土砂災害警戒判定メッシュ情報で非常に危険（紫）が出現
16:00	警戒レベル4避難勧告を発令 ・対象地区 町内全域 ・世帯数 7,420世帯、人口:17,395人 ・開設避難所 文化福祉会館まいん、中央公民館、コミュニティセンター8か所
18:20	下野宮水位観測所、上岡水位観測所で避難判断水位（レベル3水位）超過
19:00	下津原橋水位観測所で避難判断水位（レベル3水位）超過
19:10	久慈川橋水位観測所で避難判断水位（レベル3水位）超過
19:50	大雨特別警報（土砂災害、浸水害）の発表 ※警戒レベル5相当
20:10	警戒レベル4避難指示の発令 ・対象地区 町内全域 ・世帯数 7,420世帯、人口:17,395人 ・開設避難所 文化福祉会館まいん、中央公民館、コミュニティセンター8か所

## 第2節 避難情報の発令状況等

【13日(日)】	
2:20	大雨特別警報(土砂災害、浸水害)から大雨警報(土砂災害)に引き下げ
4:59	暴風警報から強風注意報に引き下げ
7:00	土砂災害警戒情報の解除
8:10	大雨警報(土砂災害)から大雨注意報に引き下げ
18:00	警戒レベル4避難指示の解除 ・対象地区 町内全域 ・避難所の閉鎖 ⇒東京理科大学大子研修センターに集約
【14日(月)】	
16:27	洪水警報から洪水注意報に引き下げ

### テレメーターの状況

#### ○雨量観測所 ※累加雨量

・大子土木	270mm
・左貫	261mm
・旧黒沢中学校	207mm
・依上小学校	243mm
・生瀬小学校	178mm
・頃藤	228mm

#### ○水位計

・久慈川橋	7.69m (氾濫危険水位超過)
・上岡	3.30m (氾濫危険水位超過)
・下野宮	5.91m (計画高超過)
・下津原橋	10.60m (計画高超過)



下野宮水位計

## 避難所の設置状況

### 指定避難所

町の指定避難所である小学校体育館、コミュニティセンター等に避難所を開設しました。

○10月11日18:00に開設、13日18:00に閉鎖

- ・文化福祉会館まいん（大子）

51世帯、85人（男性30人、女性55人）

※入口付近まで水が迫ってきたので、22:45だいが小学校体育館に二次避難を開始。23:48二次避難完了

○10月12日9:00に開設、13日18:00に閉鎖

- ・依上コミュニティセンター（下金沢）

9世帯、25人（男性10人、女性15人）

- ・佐原コミュニティセンター（左貫）

7世帯、15人（男性8人、女性7人）

- ・黒沢コミュニティセンター（町付）

11世帯、19人（男性4人、女性15人）

- ・宮川コミュニティセンター（川山）

33世帯、70人（男性26人、女性44人）

※隣接の町立川山集会所にも収容

- ・生瀬コミュニティセンター（高柴）

9世帯、17人（男性5人、女性12人）

- ・袋田コミュニティセンター（袋田）

18世帯、43人（男性19人、女性24人）

- ・上小川コミュニティセンター（頃藤）

7世帯、12人（男性6人、女性6人）

- ・下小川コミュニティセンター（西金）

4世帯、9人（男性4人、女性5人）



近くまで水が迫った袋田コミセン

## 第2節 避難情報の発令状況等

○10月12日14:00に開設、13日18:00に閉鎖

- ・森林の温泉（矢田）

未集計

○10月12日16:00に開設、13日18:00に閉鎖

- ・中央公民館（池田）

92人（世帯数、男女内訳不明）

※隣接のリフレッシュセンターは開設せず。

○10月12日22:45に開設、

13日18:00に閉鎖

- ・だいが小学校体育館（大子）

100人（世帯数、男女内訳不明）

○合計 約500人



だいが小学校体育館

### 【各避難所を大子研修センターに集約】

○10月14日開設、11月30日閉鎖

- ・東京理科大学大子研修センター（北田気）

利用者数28世帯、49人（男性22人、女性27人）

※退所後の行き先

自宅9世帯、町営住宅12世帯、借家3世帯、施設2世帯、町外2世帯

### 自主避難所

自主防災会により地区の集会所等に自主避難所を開設しました。

- ・永源寺（長岡区自主防災会）

未集計

- ・町立矢田集落センター（矢田区自主防災会）

2世帯、7人（男性3人、女性4人）

- ・町立内大野集会所（内大野区自主防災会）

1世帯、4人（男性2人、女性2人）

- ・町立南田気集会所（南田気区自主防災会）

未集計、15日に1世帯、3人



町立南田気集会所 ※

## 自衛隊の活動

### 人命救助

- 要請日時 10月13日 0:25
- 要請内容 自衛隊に茨城県を經由して人命救助を要請
- 派遣結果 自衛隊の到着・活動前に消防本部の活動により救助完了（5件）



13日の早朝に到着した自衛隊（旧役場前）

### 給水支援

- 要請日時 10月14日 13:00
- 要請内容 自衛隊に茨城県を經由して断水に伴う給水支援を要請
- 派遣結果

期 日	断水戸数	通水率	班数	人数	給水車重量	台数
10月15日	3,338戸	65.2%	1	2人	1t	1台
10月16日	2,298戸	76.1%	1	2人	1t	1台
10月17日	1,481戸	84.6%	3	6人	3t	3台
10月18日	677戸	92.9%	3	6人	3t	3台
10月19日	301戸	96.9%	2	4人	2t	2台
10月20日	45戸	99.5%	2	4人	2t	2台
10月21日	30戸	99.7%	2	4人	2t	2台

**浄水場復旧工事支援**

○要請日時 10月15日 17:00

○要請内容 自衛隊に茨城県を經由して浄水場復旧工事（土砂等撤去）の支援を要請

○派遣結果

期 日	班数	人数	活 動 内 容
10月16日	1	15人	頃藤浄水場、取水井氾濫土砂撤去、隊員による 人力土砂搬出
10月17日	1	5人	下野宮毛内、西金湯沢にて給水
10月18日	1	5人	西金湯沢にて給水
10月20日	1	5人	西金湯沢にて給水
10月21日	1	5人	西金湯沢にて給水



# 消防の活動

## 消防本部・消防団の活動状況

時間	消防本部	消防団	床上	床下	土のう
【12日(土)】					
9:39～ 9:51		警戒レベル3に伴い、各分団長に全個部での広報依頼			
9:46		Eメールにて、全団員に広報文を送信する			
11:16		Eメールにて、各団員・部の広報活動終了後、自宅待機の指示			
11:45		5-1 車庫に土のう搬送 支援1			100
16:13	ポンプ1 町内の警戒 3名				
16:20		Eメールにて、全団員に広報文第2号を送る			
16:25		Eメールにて、全団員に活動上の留意事項について送信する			
16:30	全職員非番召集				
17:45	東京電力より生瀬、下野宮、山田地区で1分程度停電 現在、町内で停電なし				
18:22	町民から近町地内で土砂崩れ ポンプ1 出向				
18:37	ポンプ1 から 近町土砂崩れ幅30cm、長さ5m 土砂が両車線にかかっている 通行支障あり				
18:48		1-5 土のう配布			20
19:28		池田地内住宅2軒 1-5 土のうで対応するも河川氾濫のため、床下浸水寸前		2	◎
19:31		池田地内で土のう搬送依頼あり 1-1 出動要請			
19:45	支援1 土のう搬送 池田2か所				◎
20:03		町付地内住宅1軒 土のう搬送依頼 4-1 対応			
20:25	支援1 土のう搬送 池田、町付				◎
20:29	支援2 土のう搬送 相川地内				◎
20:34		大生瀬地内 土砂崩れ道路通行不可			
20:37	矢田地内救助要請 救助1 出動				

### 第3節 救助・救援活動

20:46	浅川敷地橋付近で車両が河川に落下の危険（運転者はいない）未出動				
20:50		2分団長 塙地内（塙平入口）土砂崩れ大型車通行不可			
20:55	とん鈴付近排水障害あり				
21:00	池田 TAIRAYA 付近 要救助者1名				
21:06	久野瀬ウィーズ付近浸水車両通行不可				
21:15	矢田地内救助要請				
21:16	町付地内作業所に浸水 避難するよう指示		1		
21:22	袋田地内消防団車両救出 救助1出動				
21:29	池田地内アパート要救助者あり 広報2出動				
21:32	救助作業 久野瀬冠水している道路にライトを点けたままの車両 要救助者は不明 救助1・救急1出動				
	要救助者なし確認				
21:40	前冥賀地内倒木 車両通行不可				
21:58	大生瀬から内大野 弓取峠通行止め				
21:59	三ヶ掛地内 立神側からの土砂崩れ通行止め				
22:08	久慈川にかかる橋が通行不可となるおそれ 救急隊1隊4名 常陸大子駅に配備				
22:12	内大野地内 U字溝から水が家の中に入ってきている 土のうでの対応不可 未出動				
22:21	西金地内国道 118号冠水				
22:34		道の駅調整池のポンプが浸水し そうなのでポンプで排水してほしい（建設課依頼）			
22:35	矢田地内住宅1軒 救助依頼 広報1出動				
22:51	南田気地内住宅1軒 床上浸水し避難できない 広報2出動		1		
22:56	役場前交差点から常陸大子駅まで冠水通行不可				
22:58	南田気橋冠水				
23:00	矢田岩花地内 増水のため救助要請 支援1出動				
23:00	泉町地内店舗併用住宅 腰まで水につかっているため救助要請 救助1出動		1		

### 第3節 救助・救援活動

23:16	大生瀬トンネル東側、内大野川土砂崩れによる片側通行				
23:23	救助要請 矢田地内アパート 玄関ドアが開かない ポンプ1 出動				
23:38	救助要請 池田TAIRAYA前 濁流で車の屋根の上で救助要請 タンク1 出場				
23:38	救助要請 下津原地内住宅 玄関前に水が押し寄せ脱出不能 未出動				
<b>【13日(日)】</b>					
0:00	救急要請 保内郷MC薬局前に94歳男性 救急2 出動				
0:07	救助要請 大子小久慈地内アパート 2階まで浸水しているため 脱出不能 未出動 ~3:05		1		
0:12	岩佐医院 3階に避難、近隣住民は住宅の2階に避難		1		
0:15	池田TAIRAYA 電柱につかまり男性2名救助要請 タンク1 対応				
0:20	小久慈地内 屋根の上に数名居るとの情報 救急1から連絡		1		
0:31	救助要請 池田松沼地内住宅 床上浸水のため 未出動(避難指示)		1		
0:35	大子地内 1名救助要請 未出動(2階に避難指示)				
0:51	役場付近 濡れている救急要請 けがなし 未出動				
1:24	南田気地内住宅1軒 自宅が浸水し2階に避難		1		
1:24	慈泉堂病院で電源が使用不能 受入不可				
1:40	救助要請 松沼地内 84歳床上浸水 支援2 出動		1		
1:49	矢田地内アパート 1名救助要請 未出動 ~3:26 ポンプ1 出動				
1:52	消防庁舎内断水				
2:11	東京電力から町内の停電情報あり				
2:13	消防庁舎内断水復旧				
2:44	救急要請 保健センター 45歳男性 右足切創 気分不快				
3:05	小久慈地内 救助要請 救助1・支援1・広報1 出動				
3:40	慈泉堂病院に発電機1台 延長コード2本貸出し				
8:00		9分団長から 関東商工以南 床上1 床下2 冠水1か所	1	2	

### 第3節 救助・救援活動

8:53	池田地内 道路上水没車両に 2名乗車している 救助1・救 急1 出動 (不従事)				
	車内からは脱出していた				

#### 救助要請件数

○要請件数 26 件

○出動件数 18 件

時間	要 請 内 容	対応状況
20:37	矢田地内 要救助者大人1名、子ども2名	①R1 出動
20:46	浅川敷地橋付近車両河川に落下の危険、運転者いない	未出動
21:00	池田 TAIRAYA 付近 要救助者1名	②広報2 出動2名
21:15	矢田地内 要救助者4名	③出動、救出完了
21:22	袋田地内消防団車両救出	④R1 出動
21:32	久野瀬地内国道118号車両水没 要救助者なし	⑤R1、A1 出動 不従事
21:29	池田地内アパート 要救助者あり	⑥広報2 出動、救出完了
22:12	内大野地内住宅1軒 避難指示	未出動
22:35	矢田地内住宅1軒 3名救助要請	⑦広報1 出動
22:51	南田気地内住宅1軒 救助要請	⑧広報2 出動
23:00	矢田岩花地内住宅1軒 救助要請	⑨支援1 出動 救出完了
23:00	泉町地内店舗併用住宅 救助要請	⑩R1 出動
23:14	建設課 救助要請	2階避難指示 未出動
23:23	矢田地内アパート 玄関ドア開口不能	⑪P1 出動
23:38	池田 TAIRAYA 前 濁流 車両屋根に要救助者	⑫T1 出動
23:38	下津原地内 1名避難困難	未出動
0:00	保内郷MC付近 94歳男性車内閉じ込め 警察から	⑬A2 出動
0:07	小久慈地内アパート 2階浸水脱出不能	⑭未出動 3:05 出動
0:15	池田 TAIRAYA 電柱につかまり男性2名要救要請	T1 対応
0:31	池田松沼地内住宅 床上救助要請	未従事、避難指示

### 第3節 救助・救援活動

0:35	大子地内 1名救助要請	未従事、2階避難指示
0:51	役場付近 濡れている救急要請 けがなし	けがなければ対応不可
1:40	池田松沼地内 84女性 床上浸水救助要請	⑮支援2出動
1:49	矢田地内アパート 1名救助要請	⑯未出動 3:26P1 出動
3:05	小久慈地内 救助要請	⑰R1、支援1、広報1 出動
8:53	池田地内 道路上水没車両に2名乗車している 車内からは脱出していた	⑱R1、A1 出動 不従事
	要請件数 26件	出動件数 18件

#### 消防団の出動件数

出動期間	大雨洪水注意報発表	10月12日	6時20分
	大雨洪水警報発表	10月12日	10時18分
	水防出動命令	10月12日	9時36分
	水防活動	10月12日	9時36分～13日5時00分
	水防活動計		8時間24分
	災害処理活動	10月12日	9時36分～17日12時40分
	二次災害防止活動	10月13日	5時00分～17日12時40分
	合計	4日	6時間20分
出動者数	・水防活動		
	全域	10月12日、13日	延べ 492名
	下野宮地区	10月12日	延べ 26名
	池田地区	10月12日	延べ 5名
	相川地区	10月12日	延べ 6名
	黒沢地区	10月12日	延べ 16名
	・災害処理活動	延べ	250名
	・二次災害防止活動	延べ	287名
・出動延べ人数(合計)	延べ	1,082名	
・水防資器材	土のう	500袋	
効果	想定被害防止額		
	田	0.25ha	500千円
	家屋	2戸	10,000千円
	その他		
	人命救助	3名	(水没車両から2名、孤立者1名)

## 医療救護活動

### 救護所の設置

5医療機関が被災したことから、町全体の診療体制を補うため、県及び県災害コーディネーター（医師）主導の下に救護所を設置しました。

#### ○開設時間

10月15日 13:40～17:00  
 10月16日 9:00～12:00、  
 ～27日 13:00～16:00  
 ※10月25日のみ9:00～12:00

#### ○設置場所 保健センター



救護所内の様子

#### ○診療人数

設置日	診療人数	担当医療機関
10月15日	22人	水戸・古河赤十字病院
10月16日	35人	水戸・古河赤十字病院
10月17日	19人	水戸赤十字病院
10月18日	22人	水戸赤十字病院
10月19日	13人	古河赤十字病院
10月20日	11人	古河赤十字病院
10月21日	9人	水戸医療センター
10月22日	4人	水戸赤十字病院
10月23日	5人	水戸済生会病院
10月24日	2人	龍ヶ崎済生会病院
10月25日	2人	県立中央病院
10月26日	7人	日製ひたちなか総合病院
10月27日	1人	筑波大学附属病院
延べ13日	延べ152人	

#### 在宅被災者への保健活動

在宅被災者への健康調査・健康管理、保健指導について、県災害派遣精神医療チーム（DPAT 3人）、県派遣保健師（10人）、市町村派遣保健師等（6市町村、9チーム、22人）の援護を受けて実施しました。保健活動の際は、あわせて医療情報の提供、消毒薬の配布等を実施しました。

○活動期間 10月17日～20日

○活動内容

- ・避難行動要支援者（浸水地域外含む。）、認知症がある者への家庭訪問 63件
- ・65歳以上のみの世帯、乳児世帯への家庭訪問 169件
- ・乳幼児世帯へ電話による保健指導 105件

#### 避難者の健康管理

避難所（太子研修センター）の避難者に対し、10月16日～11月27日の毎日、保健師、管理栄養士による健康チェック、健康相談、保健指導を実施しました。

県作成の「避難所感染対策の手引き」、「茨城県災害時保健活動マニュアル」に基づき、『避難所別感染症発生状況報告書』により避難者の健康状態を上記同期間、毎日保健所に報告しました。鼻水、咽頭痛、咳等の症状がある者が毎日1・2名みられましたが、感染症の発生なく閉所に至りました。

同所に救急用品を配備するとともに、掲示物、チラシの配布にて健康管理、感染予防の啓発を行いました。



最終的な避難所となった太子研修センター

# 給水活動

## 給水活動（直営）

期 日	断水戸数	通水率	班数	人数	台数	活動内容
10月13日	7,956戸	17.1%	5	10人	5台	巡回給水 袋田病院 1t 拠点給水 北田気集会所 500L 袋田コミセン 500L 下小川コミセン 500L 湯沢集会所 500L 上小川コミセン 1t 宮川コミセン 1t
10月14日	7,294戸	24.0%	5	10人	5台	巡回給水 袋田病院 1t 拠点給水 北田気集会所 500L 袋田コミセン 500L 下小川コミセン 500L 湯沢集会所 500L 上小川コミセン 1t 宮川コミセン 1t 生瀬コミセン 1t
10月15日	3,338戸	65.2%	2	2人	2台	巡回給水 (2t) 袋田病院 サングリーンピア 上小川小学校 南中学校 拠点給水 上金沢入口 1t 南田気集会所 500L 袋田龍泰院前 1t 生瀬コミセン 1t 小生瀬下区集会所 1t 上小川コミセン 1t 下小川コミセン 1t 湯沢集会所 500L
10月16日	2,298戸	76.1%	2	2人	2台	巡回給水 (2t) サングリーンピア 上小川小学校 南中学校 拠点給水 生瀬コミセン 1t 小生瀬下区集会所 1t 上小川コミセン 1t ファミリーマート 1t 下小川コミセン 1t 滝倉集会所 500L 湯沢集会所 500L



#### 第4節 応急対応

10月17日	1,481戸	84.6%	1	2人	1台	巡回給水 (2t) サングリーンピア 上小川小学校 南中学校 特別支援学校 滝倉戸別訪問 500L 湯沢戸別訪問 500L 拠点給水 下野宮東区集会所 1t 外大野高薮バス停 1t 上小川コミセン 1t ファミリーマート 1t 下小川コミセン 1t 湯沢丁字路 1t
10月18日	677戸	92.9%	1	2人	1台	巡回給水 (2t) サングリーンピア 上小川小学校 南中学校 特別支援学校 滝倉戸別訪問 500L 湯沢戸別訪問 500L 拠点給水 上小川コミセン 1t ファミリーマート 1t 下小川コミセン 1t 湯沢集会所 1t
10月19日	301戸	96.9%	1	2人	1台	巡回給水 滝倉湯沢戸別訪問 500L 拠点給水 下小川コミセン 1t 湯沢集会所 1t
10月20日	45戸	99.5%	1	2人	1台	巡回給水 滝倉湯沢戸別訪問 500L 拠点給水 湯沢集会所 1t
10月21日	30戸	99.7%	1	2人	1台	巡回給水 滝倉湯沢戸別訪問 500L 拠点給水 湯沢集会所 1t
10月22日 ～27日	1戸	100.0%				応急ポンプにて給水



大子浄水場、中央公民館、袋田コミセンに給水所設置 ※

## 第4節 応急対応

### 浄水場復旧工事

期 日	班数	人数	活動内容
10月12日	3	6人	取水確保、塵取り、高濁度浄水停止
10月13日	6	9人	被害状況の把握、各浄水場電気設備点検、氾濫土砂撤去 大子浄水場 浄水作業再開
10月14日	4	9人	大子浄水場 給水開始下野宮、川山、町付、北田気 生瀬浄水場 仮設取水ポンプ運転 頃藤浄水場 電気設備復旧 西金浄水場 電気設備復旧
10月15日	5	11人	大子浄水場 袋田方面給水開始 生瀬浄水場 浄水作業開始給水再開 頃藤浄水場 場内清掃、電気設備修理 西金浄水場 電気設備復旧・ポンプ等資材調達 上金沢浄水場 取水口土砂撤去 左貫浄水場 取水口土砂撤去 蛇穴浄水場 取水口土砂撤去
10月16日	5	11人	大子浄水場 松沼橋キャップ止め、林橋仮設管設置、南 田気仮設管設置 生瀬浄水場 高柴方面給水再開 頃藤浄水場 電気設備復旧作業、浄水再開 西金浄水場 電気設備復旧・ポンプ等資材調達
10月17日	5	11人	生瀬浄水場 外大野下野宮方面給水再開、給水開始 頃藤浄水場 電気設備復旧浄水再開 西金浄水場 電気設備復旧・ポンプ等資材調達
10月18日	2	8人	生瀬浄水場 下野宮方面給水再開 頃藤浄水場 給水再開 西金浄水場 電気設備復旧、浄水作業再開
10月19日	2	4人	西金浄水場 給水再開、湯沢仮設管準備
10月20日	2	4人	湯沢地内仮設管設置、給水開始
10月21日	1	2人	湯沢第一加圧機場より給水再開、末端まで給水完了
10月22日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動
10月23日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動
10月24日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動
10月25日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動
10月26日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動
10月27日	1	2人	湯沢給水管調査、1件給水活動

## 家屋等の消毒

---

### 消石灰と消毒液の配布

家屋等の消毒のため、消石灰と消毒液の配布を行いました。

○開始日 10月15日

○配布時間 8:30～17:00（当初は9:30～17:00）

11月16日から10:00～17:00

○配布場所 町民課（当初は旧役場第一分室会議室入口付近）

11月16日から宮川グラウンド



消石灰の袋詰め（旧役場）



床板を剥がして消石灰の散布（大子地区） ※

## 入浴の支援

### 森林の温泉の無料開放

台風災害からの早期復旧に資するため、被災により自宅の入浴施設が使用できない方や災害ボランティアに対し、森林の温泉を無料開放しました。

○期 間 10月13日～令和2年3月31日（休館日を除く。）

○利用実績

期 間	大 人	高 齢 者	子 供	ボランティア
10月13日～31日	5,538	856	593	647
11月1日～17日	3,246	784	182	439
11月18日～30日	246	41	29	226
12月1日～19日	200	17	22	110
12月20日～31日	95	2		85
令和2年 1月1日～19日	36			42
1月20日～31日	14			30
2月1日～19日	46		3	8
2月20日～29日	30			7
3月1日～19日	78			
3月20日～31日	42			
合 計	9,571	1,700	829	1,594

### 【利用料金（参考）】

- ・土日祝日 大人1,010円、高齢者500円、子供500円
- ・平 日 大人710円、高齢者350円、子供350円
- ・夜 間 大人500円、高齢者250円、子供250円



森林の温泉

### 関所の湯入浴料に係る支援

森林の温泉の無料開放に準拠し、被災者や災害ボランティアに対し、無料・半額対応を実施する袋田食品株式会社様関所の湯の入浴料について支援しました。

○支援額 1人につき100円

○期間 10月13日～26日

○利用実績 1,654人

#### 【施設における入浴料の対応（参考）】

- ・災害ボランティア 無料
- ・被災者 半額

## 物資、義援金による支援

### 支援物資の提供

発災直後から町内外の多くの皆様から支援物資の提供がありました。支援物資の保管拠点として、文化福祉会館まいんのホワイエを利用しました。

また、音楽グループ「MAN WITH A MISSION」様、永寶株式会社様から被災者に対する暖房器具、電化製品寄贈の申し出があり、対象者に配布しました。

期 日	支 援 物 資
10月13日	カロリーメイト6箱
	水40箱、茶20箱
	水4箱、パン30個、バナナ10本、給水タンク（水入り）2個
	水1箱
	おにぎり、パン
10月14日	パン400個
	水8箱、タオル10枚
	α米3,000食、水5,000本
	軍手11組、ウェットティッシュ8個、雑巾20枚、うがい薬13個、ハイター5個、デッキブラシ5個、ブラシ16個、スポンジ10個 ほか
	役場内駐車場清掃（作業員1人、グレーダー1台）
	カップ麺各種1,008個
	非常食990個、カンパン360食、α米2,700食、水5,040本
	味噌汁
	茶1箱
	茶菓子10袋、茶1箱、栄養ドリンク1箱
	栄養機能食品30本
	ローリータンク、資材の申出
10月15日	軍手480組
	高圧洗浄機1台、スクレーパー3本、ローリータンク1個
	スポンジマットレス22枚、防水布2本
	ヤクルト200本、水5箱
	水5箱
	OS-1 6箱
	麦茶480本、紙パック茶441本
	おにぎり、弁当
	豚汁
	栄養ドリンク2箱
LANケーブル ほか	
10月15日～20日	救護所の支援
10月15日～30日	水のタンク貸出
10月15日～11月29日	災害により発生した泥の仮置場におけるブルドーザーによる押土作業（オペレーターの人件費、重機損耗費等の無償提供）

## 第4節 応急対応


10月16日	水 20 箱
	マスク 600 枚、アルコール消毒液 2 本
	たこ焼き
	箱ティッシュ、毛布 ほか
	栄養ドリンク 1 箱
	カップ麺 2 箱
	車無償貸与
	パン
	衣類 70 枚
	箱ティッシュ 30 箱、トイレトペーパー9 袋 ほか
	水 23 箱、雑巾
	土のう袋 200 枚、ブルーシート 11 枚、水 36 本、タオル ほか
	りんご 5kg
	箱ティッシュ 120 個、トイレトペーパー324 ロール
	水
	マスク 900 枚、消毒液、茶 430 箱
	爽健美茶 2,400 本
	ポカリスエット 2 箱、紙コップ 5 本、カロリーメイト 4 箱
	土のう袋 600 枚
	マスク 500 枚、サインペン ほか
	バスタオル 300 枚、タオル 700 枚
	衣類 1,000 着
	チオビタドリンク 600 本
おにぎり、弁当	
トイレトペーパー18 個、箱ティッシュ 120 個	
水 9 本	
物資の支援	
10月16日～ 11月18日	新聞
10月17日	カップ麺 5 箱、麦茶 2 箱
	タオル 200 枚
	軍手 300 組
	缶詰 500 個、簡易トイレ 50 個、保温ブランケット 50 個、ホッカイロ 500 個
	衣類 1,000 着
	ブルーシート 2 枚、土のう袋 100 枚
	OS-1 10 箱、ゼリー
	野菜もしっかりビーフカレー3kg 24 個
	マットレス 50 枚
	スコップ ほか
	タオル、飲料水 192、インスタントご飯 198
	コーワライティングシート
	トイレトペーパー20、箱ティッシュ
	茶 240 本
	水 240 本
	てみ 5、角スコップ 5、スクレーパー5、デッキブラシ 5、足洗たらい 5
	消毒液、掃除用具、ヘッドライト
カーペット 100 枚	

## 第4節 応急対応

	歯ブラシ、歯磨き粉、液体歯磨き 1,000 個
	リポビタミンD 40 箱
	たこ焼き、豚汁
	カレー
	おにぎり、りんご
	福祉車両（キャラバン1台）貸与の申出
	福祉車両貸与の申出
	水2箱
	茶1箱、パン
	水9箱、ごもくごはん7箱、おにぎり（非常食用）5箱、軍手・タオルセット2箱、デッキブラシ11本、角スコップ6本
10月17日～ 11月15日	複合機2台 無償貸与
10月18日	カセットコンロ 288 個、ガス 288 個、水 960 本、非常用コップ 120 個
	デッキブラシ ほか
	軍手タオルセット 56
	バスタオル ほか
	タオル 200 個、ウェットティッシュ 200 個
	チョコレート 20 箱
	ホッカイロ 60 個、タオル 30 個
	ヘッドライト 300 個
	ポリ袋 ほか
	手袋 200 個
	タオル 1,000 枚
	掃除用手袋 300 枚
	マスク 20,000 枚
	カレー
	弁当
	栄養ドリンク 200 本
	栄養ドリンク 12 本
	奥久慈しゃもの卵 20 パック
	栄養ドリンク 84 本、栄養食品 72 袋
水 1 箱	
「改訂 2019 年版介護報酬ハンドブック」5 冊	
10月19日	役場本庁舎 地階高圧洗浄
	栄養ドリンク 4 箱
	水 1 箱
	カロリーメイト 144
	カップ麺ほか
	ドリンク 8 箱
	サツマイモ 10 箱
	はるオンパックス 1 箱
	「災害にあったときに」200 部
	茶（パック）4,800 本
	ハンドアルコール消毒剤 336 本
	トイレトペーパー324 ロール
	タオル



## 第4節 応急対応

	饅頭、おにぎり	
	茶1箱、カップ麺1箱	
10月19日～ 11月30日	スマートフォン2台 無償貸与	
10月20日	せんべい4缶	
	栄養ドリンク25本	
	古着ほか	
	ボランティア用資機材	
	ヘッドライトほか	
	カイロ6、ハイター19本 ほか	
	水158本	
	土のう200	
	りんご6箱	
	マスク4,000枚、カイロ480個 ほか	
	お菓子ケース1	
	水72本、ティッシュ30箱、カップ麺24食	
	マスク	
	栄養ドリンク、カイロ	
	カツサンド	
うどん、まんじゅう		
焼きそば		
土のう袋300枚		
10月21日	電子レンジ2個	支援物資集積所となったまいんホワイエ
	水5箱	
	茶1箱	
	土のう袋800枚	
	おやき300個	
	軽トラック ほか	
	りんご4箱	
	梅ジュース、梅ゼリーの申出	
	お味噌汁の素の申出	
	水の申出	
	化粧水(雪澄500ml) 20本	
	けんちんうどん100	
	マドレーヌ	
	りんご3kg	
	栄養ドリンク30本	
菓子折り1箱		
10月22日	タオル6枚、カイロ30個	
	水の申出	
	カップ麺3箱	
	ハンマー6個、バール6個、土のう400個	
	ストーブ ほか	
	そば150束	
	ブルーシート、手袋、ビニール手袋	
	土のう袋850枚	
	饅頭30個	

## 第4節 応急対応

10月23日	20ポンジューズの申出
	ボランティア 103人
	高圧洗浄機1台、噴霧器2台
	タオル 943枚
	デッキブラシ50本、手袋70個、マスク120枚
	靴(ケアシューズ) 12足
	タオル2箱
	水10箱、栄養食品5箱
	雑巾・タオル7箱
	カイロ18箱、土のう2袋
	作業服
	タオル6袋、土のう袋500枚、水16箱
	菓子
高圧洗浄機ケルヒャーK2 1台	
10月24日	マスク400枚
	オスバン液100本、速乾性手指消毒剤100本
	避難所等での面談による無料相談
	災害の早期復旧に向けた情報共有サービス (Handbook Studio、Platio) 無償提供
	タオル100枚
	使い捨て防じんマスク240枚
	マスク100箱、ハンドクリーム15本
	トイレットペーパー5袋、キッチンペーパー3袋、ティッシュ3箱、カイロ3箱、タオル1箱、消毒液2箱、土のう袋4袋
	ティッシュ200束、タオル11枚
	もつ煮込み200食
しゃものつくね	
10月25日	レドックスター
	介護ウェットティッシュ29個
	クッキー11箱
	水2箱
	マスク6,000枚、手指消毒剤600本
10月26日	高圧洗浄機用ホース3本
	ランドセル1個
	マスク800枚、からだふき24袋
	グローブ3箱、マスク1箱
	ラーメン13箱、ウエス1箱、土のう2箱
	りんご14箱
	バスタオル10、床パット10、枕カバー10、下着10
保鮮袋2箱	
10月27日	ボランティア 約30人
	役場内ロードスイーパー清掃(作業員2人、2tダンプ1台)
	土のう袋
	肩掛け半自動型噴霧器4台
10月28日	茶29箱
	バナナ
	タオル300枚
	タオル1袋

## 第4節 応急対応

10月29日	サージカルマスク 100 枚、ボディータオル 50 枚
	土のう袋 4,000 枚、紙コップ 6,000 個
	石鹼 7,500 個
	栄養食品 12 箱
	鍬 5 個、ドライワイパー 9 個、バール 8 個
	噴霧器 2 箱、ホッカイロ 1 箱、消毒剤 2 箱、ハンド消毒 5 箱、鉛筆 2 箱
10月30日	タオル
	ストーブ 1 台
	てさし
10月31日	作業服 ヘルメット 3 個
	栄養ドリンク 50 本
	栄養剤 50 本
	菊鉢物（観賞用） 1 鉢
11月1日	ボールペン、タオル
	雑巾 1 箱、タオル 2 箱、カイロ 1 箱
11月2日	タオル 1 箱
	毛布 10 枚、タオル、マスク 6 箱、カイロ 5 箱、上着、手袋
	貼るカイロ 40 枚
	菓子 2 袋、ウェットティッシュ 1 袋、フェイスタオル 2 枚、雑巾 6 枚、軍手 3 組、靴下 2 組、ソフトタオルペーパー 1 セット、ライトニングケーブル 1 本、単 3 電池 4 本、単 3 電池充電器 1 個、ゴミ袋 4 セット、絆創膏 1 箱、マスク 1 箱
	お茶 168 本、缶詰、カップ麺 10 箱、ティッシュ、トイレットペーパー
11月3日	カレー
11月4日	焼きそば
11月5日	タオル・バスタオル 10 箱
	あめ 14 袋
	ストーブ 10 台
11月6日	無償作業（被災した地域、11月分）
	タオル 2 箱
	土のう袋 50 枚
11月7日	雑巾 100 枚、土のう袋 200 枚
11月8日	雑巾
11月9日	栄養ドリンク 500 本
11月10日	かごコンテナ白河深花園 25
11月11日	事務机 35 個、椅子 35 個、会議用テーブル 15 個、会議用椅子 30 個
	電気ストーブ 7 台
11月12日	衣類 51 着
	チョコレート 1,340 個
	土のう袋 8,000 袋
11月13日	タオル、セーター
	花
11月14日	片袖机 4 台、シュレッダー 1 台、ホワイトボード 1 台
	土のう袋 100 枚
	栄養食品 6 箱
	ガステーブル 4 台、空気清浄機等 16 台、食器洗い乾燥機 2 台、ヒーター 2 台
11月15日	軍手 9 束
	マスク 120 枚、軍手 4 束、ビニール手袋 2 箱

## 第4節 応急対応

	スマートバッテリー10、小物入れ10、手首メモ10、LEDライト10、手ぬぐい20、タオル114
11月16日	消毒液9箱 除菌シート2箱、大判濡れタオル1,400枚、キッチン泡ハイター18本
11月18日	奥久慈じゃもの卵20パック
11月18日～22日	3人 災害対応車両支援 (2t プレス車)
11月18日～22日 /25日～29日	3人 災害対応車両支援 (2t プレス車)
11月19日	栄養食品10箱
11月20日	ノート、筆記用具などの未使用学用品13箱 土のう袋2,000枚 ホットドック、もつ煮
11月23日	カレー
11月25日～29日	3人 災害対応車両支援 (2t プレス車) 3人 災害対応車両支援 (2t プレス車) 3人 災害対応車両支援 (4t パッカー車) 3人 災害対応車両支援 (2t プレス車)
11月26日	栄養食品10箱 雑巾50枚
11月29日	水332本、カップ麺10箱、菓子10箱、カレーうどん4箱
12月2日	生活用品セット15個
12月5日	毛布2枚 栄養食品
12月6日	オールインワンジェル300個
12月11日	ファンヒーター300台
12月12日	栄養食品
12月17日	栄養食品
12月18日	ファンヒーター200台、ブルーバーナー30台 枕5個、衣類20着、靴下200足
12月20日	冷凍冷蔵庫10個、全自動洗濯機10個、オーブンレンジ10個、掃除機16個
12月22日	化粧水420個、石けん240個



支援物資の搬入 (旧役場)



暖房器具の配布 (旧役場)

災害義援金

町内で被災された方々を支援するため、義援金を受け付け、義援金配分委員会の決定を経て公平に分配しました。

○受付期間 10月23日～令和2年3月31日

○受付窓口 福祉課窓口、銀行振込

○実績

・件数 163件

・金額 188,312,266円

【内訳】 大子町 9,491,699円

茨城県 178,820,567円

○配分対象 被災者生活再建支援金の受給者

○配分状況

被災区分	世帯数	配分額	合計額
全壊	23	973,187円	22,383,301円
大規模半壊	92	486,593円	44,766,556円
半壊	245	486,593円	119,215,285円
合計	360		186,365,142円

【最終分配】

被災区分	世帯数	配分額	合計額
全壊	23	9,805円	225,515円
大規模半壊	90	5,217円	469,530円
半壊	240	5,217円	1,252,080円
合計	353		1,947,125円

### 災害見舞寄附金

台風による当町の災害に際しまして、リスカ株式会社様より10月17日に頂戴いたしました1億円のご寄附を始め、多くの皆様からご支援をいただきました。

○実績（令和5年3月31日現在）

- ・件数 127件
- ・金額 148,428,387円

### ふるさと大子応援寄附金（災害分）

ふるさと納税（ふるさとチョイス、楽天市場、自治体受付）を通じて、多くの皆様からご支援をいただきました。

○実績（令和2年3月31日まで）

- ・件数 1,257件
- ・金額 16,697,259円

# り災証明

## 住家のり災証明

台風により家屋損壊などの被害にあわれた方に対し、り災証明書又は被災届出受理証を交付しました。原則即日交付で対応し、り災調査が未完了の場合は、受付を行い、後日郵送としました。

○交付開始 10月21日

○交付時間 9:00～17:00

○申請場所 旧役場第2分室（旧農林課）

○申請・発行件数

区分	全体	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
居住者	439	23	94	264	58
所有者	105	18	11	66	10



町職員と応援職員による家屋調査（大子地区）



り災証明書の臨時発行窓口（旧役場第2分室）

### 事業者に対するり災証明

店舗、工場、事務所等の事業所及び事業用設備等に被害を受けられた事業者の方に対し、事業所用のり災証明書を交付しました。

○対象 店舗、事業所、工場等の建物（住宅を除く。）や設備、資材、商品等

○受付開始 10月28日

○申請場所 観光商工課

○申請件数 184件

#### 【内 訳】

大子84、池田14、上岡1、山田1、下金沢1、下野宮3、川山3、矢田16、  
小生瀬2、高柴1、内大野2、袋田17、下津原5、久野瀬2、南田気5、  
北田気9、頃藤13、大沢1、西金1、盛金3

○発行件数 503件



## 給付金や税の減免による支援

### 被災者生活再建支援制度

住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対し、被災者生活再建支援金を支給しました。

#### ○支給額

次の2つの支援金の合計（世帯人数が1人の場合、各該当金額の4分の3）

#### 【住宅の被害程度に応じて支給する支援金（基礎支援金）】

	住宅の被害程度		
	全壊	大規模半壊	半壊
支給額	100万円	50万円	25万円

※半壊の場合は、原則として基礎支援金のみ

#### 【住宅の再建方法に応じて支給する支援金（加算支援金）】

	住宅の再建方法		
	建設・購入	補修	賃借（公営住宅を除く。）
支給額	200万円	100万円	50万円

#### ○申請期間

災害のあった日（10月12日）から13か月の間

#### ○支給実績

#### 【大規模半壊以上（国支援）】

- ・世帯数 132世帯
- ・支給額 165,125,000円

#### 【半壊世帯（県+町支援）】

- ・世帯数 232世帯
- ・支給額 52,312,500円

### 大子町災害見舞金

町内で被災された世帯の世帯主の方に対し、町独自の見舞金を支給しました。

#### ○見舞金の額

- ・全壊の場合 20万円
- ・半壊又は大規模半壊の場合 10万円
- ・床下浸水で修繕費用が10万円以上必要な場合 2万円

#### ○支給実績

##### 【令和元年度】

- ・件数 全壊22件、大規模半壊323件、一部損壊7件
- ・支給金額 36,780,000円

##### 【令和2年度】

- ・件数 大規模半壊1件、半壊2件、一部損1件
- ・支給金額 320,000円

### 生活福祉資金（緊急小口資金）の貸付

台風により被災した町内に住所があり、当座の生活費を必要とする世帯に貸付を行いました。

○貸付金額 上限10万円（ただし上限20万円の場合あり）

○受付期間 11月6日から当分の間

○申込窓口 大子町社会福祉協議会

#### ○貸付実績

- ・件数 11件
- ・貸付額 1,500,000円

### 農業用施設・機械の取得・修繕等の支援

台風により被害を受けた農業用施設・機械の取得・修繕等を支援しました。

#### ○支援対象

- ・農産物の生産に必要な施設又は生産した農産物の加工に必要な施設及びその附帯施設の再建・修繕
- ・農業用機械及び生産した農産物の加工に必要な機械の取得・修繕
- ・倒壊した農産物の生産に必要な施設の撤去

## 第4節 応急対応

### ○支援額

事業費×10分の3以内

### ○支援実績

- ・件数 145件（対象者 35件）
- ・支援総額 39,247,600円

### 税の減免

台風により著しく損害を受け、生活が困窮する方に対し、被害状況に応じ町税・保険料等の減免、徴収猶予又は納付猶予を行いました。

#### ○町民税

#### ○固定資産税

#### ○国民健康保険税及び後期高齢者医療保険料

#### ○国民健康保険及び後期高齢者医療保険一部負担金（自己負担額）

#### ○国民年金保険料

#### ○介護保険料

### 水道料金の減免

台風により被災された水道使用者の方に対し、条例に基づき水道料金の減免を行いました。

### ○減免額

- ・り災証明書の交付を受けている場合

11月又は12月に検針を行った水道料金（2か月分）を1回に限り減免

- ・事業所用のり災証明書の交付を受けている場合

11月又は12月に検針を行った水道料金（2か月分）について、過去3回分の水道使用量の平均を超過した分の料金を1回に限り減額

## 生活必需品の支援

### 生活必需品の給与（災害救助法）

住宅が一定の被害（全壊、半壊又は床上浸水）により、生活上必要な被服、寝具その他日用品等を喪失した方に対し、基準額の範囲内で生活必需品の給与を行いました。

○支給期間 令和2年1月27日～2月5日 ※土・日は除く。

○支給時間 9：00～17：00

○支給場所 旧役場地階印刷室

○給与実績 191世帯

品名	個数	品名	個数
寝具	234	茶碗	118
やかん	87	小皿	122
両手鍋	104	お椀	121
片手鍋	92	コップ	109
フライパン	113	箸	97
包丁	96	炊飯器	100
まな板	96	ガスコンロ	12



### 学用品の給与 寝具、日用品、食器等の生活必需品（旧役場地階印刷室）

台風被害により学用品を失った児童・生徒に対して、教科書や教材、文房具、通学用品を支給しました。

○対象者 ・だいが小学校 1名 ・上小川小学校 2名

## 災害廃棄物の処理

### 浸水ごみの受入れ

浸水被害によって発生したごみの受入れを行いました。

#### ○受入場所

仮置場名称	面積 m <sup>2</sup>	設 置	搬入終了	搬出終了	原型復旧
役場西側駐車場	2,500	10.13	10.14	11.2	11.7
旧下野宮保育所	780	10.14	10.14	R3.2.9	R3.2.9
中央公民館	6,400	10.14	12.6	R2.3.25	R2.3.25
宮川グラウンド	5,400	10.17	R3.3.19 ※1	R3.3.31	R3.3.31
下津原 ※2	1,750	10.13	10.14	R3.2.8	R3.3.15

※1 12月7日から被災した家屋等の解体がれき類（家屋等の全部解体によるもの。り災証明書等の提示）の受入れ。一般の受入れは1月30日まで。以降、家屋の公費解体の受入れ

※2 自然発生したもの

○受入時間 10:00～17:00（当初7:00～18:30）

12月7日から火、木、土、日の10:00～16:00

○搬入台数 宮川グラウンド

10月17日～令和2年1月30日 延べ5,653台

※最大 10月20日 560台

#### ○分別区分

たたみ、ふとん、大型ごみ（ソファ、マットレスなど）、木製家具・木くず、金属類、可燃ごみ（プラスチック類、衣類など）、石膏ボード、ガラス・陶磁器、瓦、小型家電、家電4品目（テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン）

※燃えるごみについては、環境センター（8:45～11:00、13:10～16:00）に直接持ち込み

第4節 応急対応



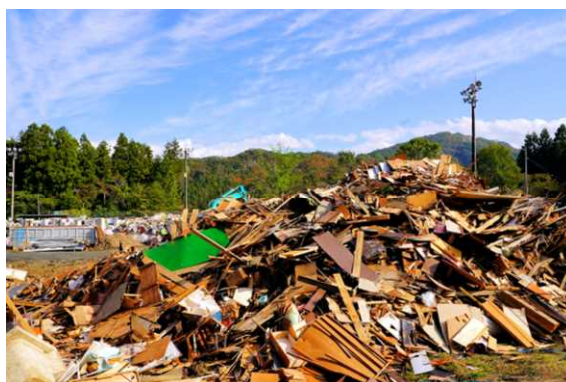
旧役場西側駐車場（大子地区）



旧下野宮保育所（下野宮地区）



中央グラウンド（池田地区） ※



宮川グラウンド（川山地区） ※



台風直後に自然的に発生した浸水ごみ仮置場（下津原地区） ※

### 損壊した家屋の解体・撤去（公費解体）

台風により損壊した家屋（半壊以上）について、生活環境の保全及び被災者の生活再建支援を目的とした災害廃棄物等処理事業（公費解体）を実施しました。

○対象家屋 全壊、大規模半壊、半壊のり災証明書（事業所用を除く。）が発行された専用住宅又は住居面積50%以上の併用住宅

（借家、貸家又はアパート等は対象外）

○費用 解体及び撤去費用は町が全額負担

○申請期間 令和2年2月1日～令和3年1月10日

○実績 公費解体 62件（全壊13、大規模半壊19、半壊30）

自費解体 10件（全壊4、大規模半壊3、半壊3）

※費用償還額 12,913,400円

## 堆積土砂の除去

### 堆積泥の除去

茨城県建設業組合大子支部様や商工会様、災害ボランティアのご奉仕により堆積泥の除去が行われました。



災害ボランティアによる泥の除去作業（北田気地区） ※

### 泥の受入れ

土のう袋に入れられ、住宅等から搬出された泥の受入れを行いました。

#### ○受入場所

10月15日～ 創造の森

10月17日～ 稲荷山トンネル（大子側、アップルライン頂上付近）

10月21日～ 川井木材付近河川区域内

○受入時間 9：00～17：00



川井木材付近河川区域内 ※



## 交通手段の確保

### 臨時無料巡回バスの運行

公共交通空白地域において、台風による浸水被害を受けた住民の通院・買い物等に係る交通手段を確保するため、病院・商業施設がある地域まで送迎する無料巡回バスを運行しました。

- 対象地区 南田気、下津原、袋田駅周辺、袋田・大子地区仮設住宅
- 運行ルート 南田気～下津原～袋田駅前～袋田地区仮設住宅～中心市街地～大子仮設住宅～池田（商業地域）
- 運行日 毎週月・金曜日（祝日運休）
- 運行本数 午前午後各1往復
- 運行期間 令和2年1月27日～3月31日（運行日数：17日）

### 町営駐車場の無料開放

台風の浸水被害により混乱がみられる中心市街地において、早期復旧に向けた各種事業を推進するため、大子駅前駐車場を無料開放しました。

- 対象者 土砂や漂着物の撤去作業、防疫活動など被災者支援を行うことを目的に来町する方
- 期間 10月13日～11月1日



大子駅前駐車場

## ボランティア活動

### 大子町ボランティアセンターの開設・運営

社会福祉法人大子町社会福祉協議会において、町からの要請に基づき、大子町災害ボランティアセンターを開設し、ボランティアの募集を行い、被災者の支援を行いました。

○開設期間 10月15日～令和2年1月5日

※1月6日から名称を「まいんボランティアセンター」に変更して、継続して支援を必要とする方のためのサービスを継続

○場 所 文化福祉会館まいん（大子722-1）

○運営体制

・スタッフ

町社会福祉協議会職員 16名

町内の防災士 1名

その他茨城県社会福祉協議会、県内11の市町村社会福祉協議会、日赤防災ボランティア、一般ボランティア、地域おこし協力隊、県職員、町議会議員、役場退職者、大子町振興公社

・班 編 成

ニーズ班、受付班、マッチング班、車両班（ボランティアの送迎）、資機材班、運搬班（ゴミ集積所への運搬作業）、本部

・受付時間 9:00～12:00

・活動時間 9:00～15:00

・参加条件 県内外から参加可

ニーズ件数・活動内容等、状況に応じて調整

○ボランティア活動者数

延べ4, 163人

※もっともボランティアが活動した日 10月20日 558人

○ニーズ受付件数（依頼数）

・受付件数 719件

・活動件数 660件

## 第5節 ボランティア活動

### ○主な活動（支援）内容

#### ①自宅内を優先した支援

濡れた畳や家財の撤去、ゴミ集積所への運搬、室内・床下の泥出し

#### ②庭や家庭菜園等の泥・漂着物の撤去作業

#### ③地域ニーズ 共有地の泥や漂着物の撤去

#### ④室内の清掃

#### ⑤手つかずの家の復興支援

### ○訪問活動（ローラー）

- ・開 始 11月15日～
- ・対 象 被災された全世帯 580世帯
- ・訪 問 者 支援社協、外部支援者 等
- ・内 容 家屋の復興状況の確認、新たなニーズの聞き取り、生活支援ニーズの聞き取り、情報提供

### ○外部からの支援

- ・家屋修繕講習会
- ・ぬくもりサロン
- ・被災者へのお知らせ 等



まいんに集まったボランティア



マッチングの様子

## 第5節 ボランティア活動



作業に必要な資機材の配付



ボランティアによる送迎



床下の泥出し作業



浸水した家財の搬出作業

### NPOやボランティアによる被災者支援

茨城NPOセンター・コモンズ様から被災者同士が情報交換ができる機会、気持ち安らげる機会として、家屋の消毒方法講座や足湯・マッサージなどの提供をいただきました。

その他、多くのボランティア、企業、学校の皆様から炊き出しや奉仕作業の提供をいただきました。

## 要望活動

### 国、JR等への要望活動

期 日	場 所	要 望 内 容
10月18日	常陸太田市役 所ほか	赤羽一嘉国土交通大臣への被災状況説明及び国県市町との意見交換会（梶山弘志衆議院議員、大井川和彦県知事、石井邦一県議、西野一県議、高崎進県議、大子町長、常陸太田市長、常陸大宮市長、県土木部長）
10月23日	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社	水郡線の早期復旧に係る要望（大子町長、那珂市長、常陸大宮市長）
10月30日	東日本旅客鉄道株式会社本社	水郡線の早期復旧に係る要望（茨城県水郡線利用促進会議、大井川和彦県知事、大子町長）
	常陸太田市役所	梶山弘志経済産業大臣への要望書提出及び県知事・市長等との懇談会（梶山弘志経済産業大臣、大井川和彦県知事、大子町長、常陸太田市長、常陸大宮市長、那珂市長）
11月14日	国土交通省	国土交通省への国道118号（水戸・大子間）改修期成会による国道118号の整備促進要望（豪雨による通行止め被害防止、「袋田バイパス」などのダブルネットワークの構築に資する道路整備等の国土強靱化に必要な予算の拡充・増額）（水戸市長、那珂市長、常陸大宮市長、大子町長）
11月19日	国土交通省・同関東地方整備局	梶山弘志経済産業大臣、岡田広参議院議員への台風第19号豪雨災害に関する緊急要望（茨城県、大子町長、常陸太田市長、常陸大宮市長、那珂市長）

**第6節 要望活動**

11月21日	環境省	環境省への一般廃棄物処理施設（衛生センター）の早期復旧に係る要望（大子町長、生活環境課長、石井邦一県議、宇野善昌副知事（秘書課・廃棄物対策課随行）、梶山弘志経済産業大臣政策担当秘書、上月良佑参議院議員、岡田広参議院議員）
11月28日	国土交通省・同 関東地方整備 局	国土交通省への久慈川改修期成同盟会による久慈川改修促進及び台風第19号による復旧に関する要望（常陸大宮市長、日立市長、常陸太田市長、那珂市長、大子町長、東海村長）
12月23日	厚生労働省	厚生労働大臣への台風第19号による水道施設の復旧に関する要望（水戸市上下水道局管理者、同市上水管理事務所長、大子町長、水道課長）



# 第4章

## 災害復旧・復興



安全な高台に移転した大子町役場



# 住まいの確保・再建支援

## 応急仮設住宅の提供

台風災害により住宅が全壊・流失、大規模半壊又は半壊の被害を受け、居住する住宅がない方に対し、応急仮設住宅を提供しました。

○提供住宅

仮設住宅	構造	所在地	間取り	戸数
大子地区	鉄骨造平屋建 (プレハブ)	大子 442 - 1 だいが小学 校体育館西側駐車場	3K	2
			2DK	6
			1DK	2
袋田地区	鉄骨造平屋建 (プレハブ)	袋田 1334 袋田小学校体 育館東側プール跡地	3K	1
			2DK	4

○入居期間 住宅完成の日（12月2日）から最長2年間

※最終退去日 令和3年11月1日

○募集期間 11月13日～20日

○入居世帯

- ・大子仮設住宅 9世帯（21人）
- ・袋田仮設住宅 3世帯（3人）



大子仮設住宅（だいが小学校敷地内）



袋田仮設住宅（袋田小学校敷地内）

### 町営住宅への入居支援

被災して居住する住宅がない方への支援として、町営住宅の一時提供を行いました。

- 提供住宅 アメニティ本町、池田住宅、磯部住宅、えのき台住宅、内大野住宅、  
ふくろだ駅前住宅、北田気住宅、上小川住宅
- 入居開始 11月26日 ※措置終了日 令和3年4月30日
- 入居世帯 16世帯（34人）

### 民間住宅の借上げ

被災して居住する住宅がない方への支援として、民間の賃貸住宅を借り上げ、みなし仮設住宅として提供しました。

- 借上げ型 2世帯（6人） ※最終退去日 令和3年12月24日
- 家賃補助 10世帯（23人）
- 補助額 4,498,677円（令和2年12月まで）

### 住宅の応急修理

台風災害により住居が全壊、大規模半壊、半壊又は一部損壊の被害を受け、そのままでは居住できない方に対し、大子町が住宅の応急修理を行いました。

#### ○修理対象

屋根等の基本部分、ドア等の開口部、上下水道等の配管・配線、トイレ等の衛生設備等の日常生活に必要欠くことのできない部分であって、緊急に応急修理を行うことが適当な箇所

#### ○限度額

1世帯当たり59万5千円（全壊、大規模半壊、半壊）

※一部損壊の場合、1世帯当たり30万円

#### ○実績

##### 【令和元年度】

- ・件数 183件
- ・工事依頼額 100,385,400円（自己負担額61,238,969円）

##### 【令和2年度】

- ・件数 14件
- ・工事依頼額 7,589,248円（自己負担額9,779,581円）

## 生活インフラの整備

### J R水郡線第六久慈川橋梁の復旧

被災したJ R水郡線「袋田駅ー常陸大子駅」間の第六久慈川橋梁は、令和3年3月に約1年半の急ピッチの復旧工事を終え、同月27日に全線運転再開となりました。

令和4年3月には、全線開通1周年イベントが常陸大子駅周辺で開催され、多くの鉄道ファンや家族ずれで賑わいました。

#### ○復旧概要

- ・トラス構造で強化
- ・橋脚を6基→1基とし、増水時の水流負荷を大幅に低減



トラス橋に架け替えられた第六久慈川橋梁（袋田地区）

### 大子町衛生センターの建替

大子町衛生センター（し尿処理施設）は、台風により甚大な浸水被害を受け、施設の機能が全停止となりました。国による財政支援を受け、現在の衛生センターの背後地（敷地内）を高く造成工事を施して新設することになり、越水による再被害のリスクを回避できることになりました。

なお、復旧までの間、近隣自治体の協力の下、し尿汚泥や浄化槽汚泥の処理を委託しています。



現施設の背後地に建替中の衛生センター（南田気地区）

### コミュニティFM演奏所の高台移転

台風災害で浸水被害を受けたコミュニティFM演奏所について、再度の浸水被害を避け、災害時の情報伝達手段を確実に確保するため、高台にあるだいが小学校隣接町有地に仮設演奏所を設置し、令和2年5月28日に移転しました。

○新しい所在地 大子457-2



プレハブによる仮設演奏所（だいが小学校隣接地）

## 公的サービスの復旧・機能回復

### 仮設庁舎等への移転

旧役場分庁舎には、農林課、農業委員会事務局、生活環境課、地域包括支援センターの3課1所がありましたが、台風の被害から執務環境の復旧が困難となりました。

早急に仮設庁舎の必要性に迫られたことから、中央公民館の駐車場にプレハブを調達・設営し、令和元年11月18日に農林課、農業事務局、生活環境課が本庁舎から移転しました。また、地域包括支援センターについては、保健センターに移転しました。



プレハブによる仮設庁舎（中央公民館駐車場）

### 大子町役場新庁舎への移転

旧役場は、築60年が過ぎて現地建て替え計画が進んでいましたが、久慈川と押川の合流地点近くにあり、台風で庁舎の一部が大きな浸水被害を受け、旧庁舎から東南に約1キロ離れた高台に位置する旧東京理科大学大子研修センターグラウンド（北田気）に移転が決定しました。令和4年7月末に完成し、同年9月20日から新庁舎での業務を開始しました。

安全な高台に移転し、防災機能を有する新庁舎については、災害対策本部としての機能を十分に維持・発揮できるようになり、また宿泊施設と防災倉庫を持つ隣の大子町営研修センターと連携する形で有事の際の防災拠点の一つとなりました。

# 治水対策

## 久慈川緊急治水対策プロジェクトの推進

令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した久慈川水系において、国、県、市町村が連携し、「久慈川緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

久慈川上流の県管理区間となる大子町では、国が権限代行により河道掘削、堤防整備等の治水対策を進めています。

### プロジェクトの概要

- 全体事業費 約647億円（国：約631億円、県：約16億円） ※297億増
- 災害復旧 約112億円（国：約97億円、県：約15億円）
- 改良復旧 約535億円（国：約533億円、県：約2億円）
- 事業期間 令和元年度～令和8年度 ※2年延長
- 目 標 令和元年東日本台風洪水における本川からの越水防止
- 対策内容

#### 【河道・流域における対策】

河道掘削、堤防整備、霞堤整備等

#### 【土地利用・住まい方の工夫】

- ・浸水が想定される区域の土地利用制限（災害危険区域の設定等）
- ・家屋移転、住宅の嵩上げ（土地利用一体型水防災事業、防災集団移転促進事業等）
- ・高台整備等

#### 【ソフト施策】

- ・越水・決壊を検知する機器の開発・整備
- ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置
- ・ダム操作状況の情報発信
- ・令和元年東日本台風の課題を受けたタイムラインの改善
- ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
- ・防災メール、防災行政無線等を活用した情報発信の強化
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施等

### 堤防の嵩上げ・河道内の土砂掘削

令和2年1月にまとめられた「久慈川緊急治水対策プロジェクト」により、久慈川の治水対策が進められています。

久慈川及び支流の堤防整備については、用地買収を伴わない区間が先行的に進められ、大子工区ではおおむね8割強が完了しています。残る区間についても、土地の取得状況に応じて工事が進められていきます。



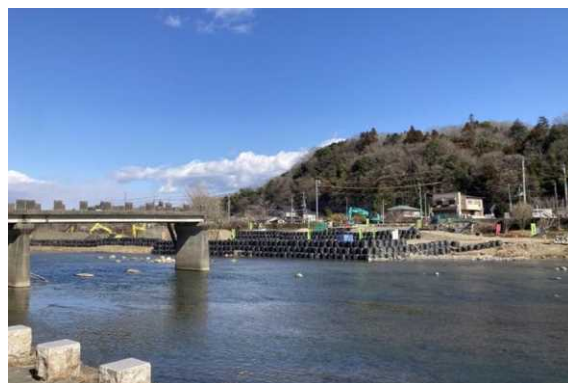
押川堤防の嵩上げ工事（旧役場付近）

### 松沼橋等の架替

松沼橋については、橋の高さが必要な堤防の高さよりも低く、増水した久慈川の流れを阻害するため、上流側への架替工事を実施することになりました。

令和4年2月1日から全面通行止めとし、架替工事に先立ち旧橋の解体が進められています。順次、新橋の下部工、上部工と、左岸の国道118号との接続工事が実施されます。

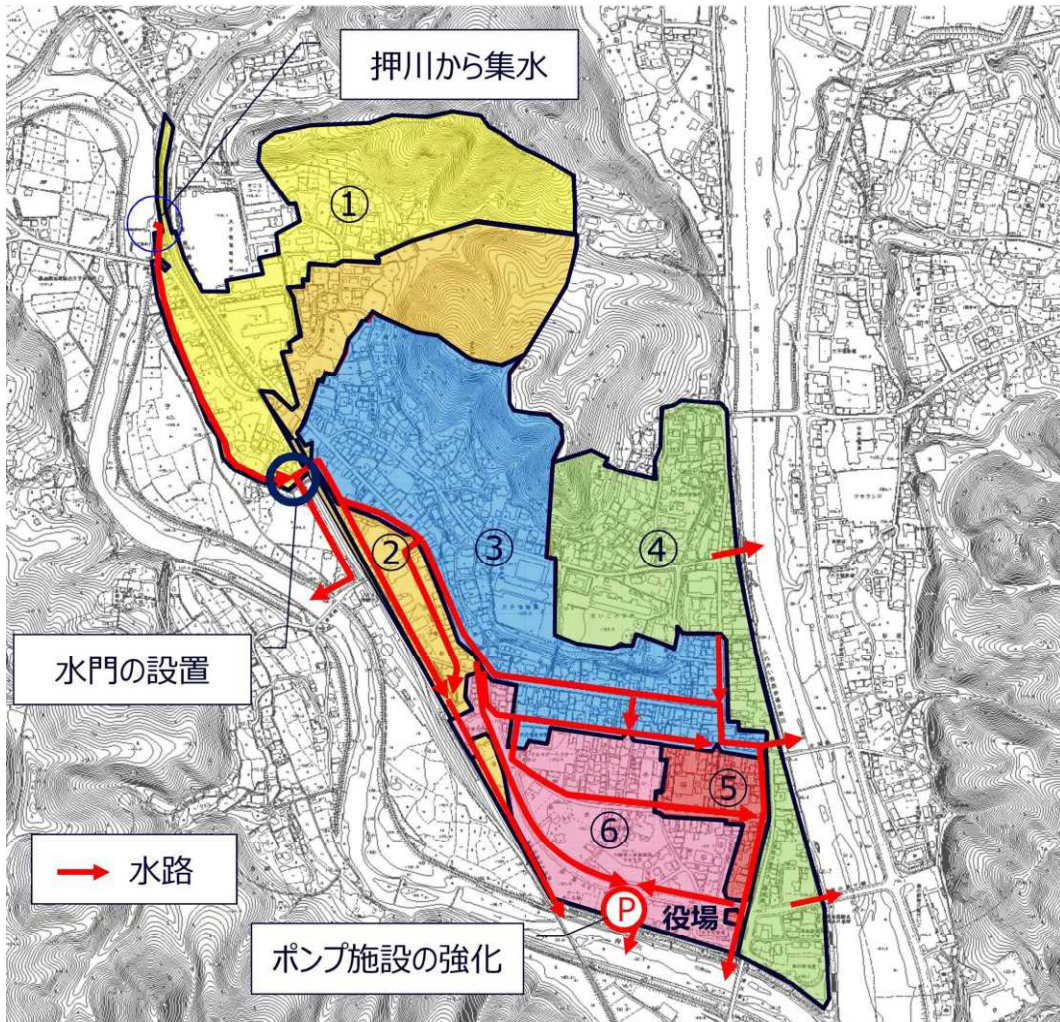
また、南田気橋についても、同様の理由により架替工事が予定されています。



新橋の下部工

### 中心市街地の内水対策

令和3年3月にまとめられた「大子まちなかビジョン」に基づき、区域内にある排水施設の能力強化と水路の改修を実施することで、住民の安心安全を確保し、災害に強いまちづくりを推進します。



計画のイメージ（大子まちなかビジョンから）



排水ポンプ車の導入



## 地域の防災・減災体制の強化

### 自主防災組織の育成

令和元年東日本台風での被災経験を活かして、自助・共助の考え方に基づく町内64団体ある自主防災会の育成を行っています。

○支援内容

- ・活動補助金の交付
- ・防災訓練への防災担当、消防職員・消防団員の派遣
- ・活動マニュアルの作成



自主防災会主体による防災訓練



活動マニュアルの作成

### 防災士の養成

災害時等に自助・共助・協働が効果的に機能するため、地域の防災リーダーとなる防災士（日本防災士機構認証）の養成に取り組んでいます。

○目標 各自主防災会に1名以上配置



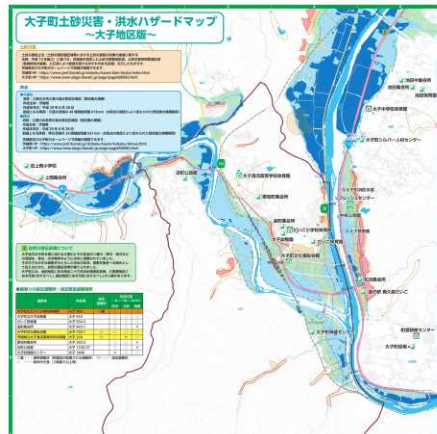
普通救命講習（心肺蘇生）

## ハザードマップ、マイ・タイムラインの周知・活用

災害時の迅速な避難行動に資するようハザードマップ、マイ・タイムラインの周知・活用などの事業に取り組んでいます。

ハザードマップは、従来の課題を踏まえて、地図面の細微化、大型化したものに更新しました。

マイタイムラインは、洪水浸水想定区域の全世帯作成を目標としています。



ハザードマップ



マイ・タイムライン

## 行政の災害対応力の強化

### 指定避難所の見直し

指定避難所29か所のうち12か所を「基幹避難所」と位置付け、地域の災害対応拠点として、災害時の町職員の常駐及び計画的な物資の備蓄を行うものとなりました。

地区	施設名	洪水	土砂	地震	備考
大子	だいが小学校体育館	○	○	○	
池田	大子中学校体育館	○	○	○	
依上	依上小学校校舎	○	○	○	浸水0.5m未満、3階建
佐原	佐原コミュニティセンター	○	○	○	
黒沢	黒沢コミュニティセンター	○	○	○	
宮川	宮川コミュニティセンター	○	○	×	昭和51年築
	森林の温泉	○	○	○	泉荘、のどか避難先
生瀬	生瀬コミュニティセンター	○	○	○	
袋田	袋田地域防災センター	○	○	○	2階建
	大子町営研修センター	○	○	×	
上小川	上小川小学校体育館	○	○	○	
下小川	旧西金小学校体育館	○	○	○	

### 防災倉庫の整備

大子町営研修センターと地域の基幹避難所に防災倉庫を整備し、災害時に必要となる非常食、水、資機材の備蓄を行っています。



大子町営研修センター防災倉庫

### 袋田地域防災センターの整備

令和元年東日本台風の際に袋田地区の避難所であった袋田コミュニティセンターに水が迫ったことから、新たに安全な場所に袋田地区の基幹避難所として整備し、令和3年8月10日に供用を開始しました。

○所在地 袋田1329-3（旧袋田分館跡地）

○敷地面積 554.66㎡（約168坪）

○延床面積 198.74㎡（約60坪）

○主要設備

- ①避難室 洋間4室（50人収容可）
- ②非常用発電機
- ③雨水利用装置
- ④かまどベンチ
- ⑤その他の設備（調理室、多目的トイレ、ユニットシャワーなど）



八溝杉を使った木造2階建ての外観

### 災害情報伝達手段の整備

緊急告知FMラジオのほか、大子町公式アプリなどプッシュ型の伝達手段を活用し、伝達手段の多重化・多様化に取り組んでいます。



携帯アプリ「大子町アプリ」

## 中心市街地の振興

### 大子まちなかビジョンの策定

大子町では、令和元年東日本台風の被害等に伴う新庁舎の高台移転など災害に強いまちづくりや人口減少・少子高齢化の進展、まちなかでの空き家や空き地の増加等により賑わいのあるまちづくりが必要となっています。令和3年3月に、中心市街地周辺（まちなか）のこれらの課題を解決するため、今後の施策の内容や整備の方向性など、まちづくりの新たな指針となる「大子まちなかビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、「防災力のあるまちづくり」、「賑わいのあるまちづくり」及び「周辺と連携したまちづくり」を方針に掲げ、災害に強く、町民が安全で安心して暮らせる環境づくりと交流人口の拡大や賑わいづくり、駅や役場、道の駅などの拠点間の連携強化を図ることを目標としています。



### 「大子まちなかビジョン」における施策

#### ①大子町役場の移転・新庁舎建設

#### ②旧役場跡地の防災拠点化（跡地活用方針）

旧役場跡地について、道の駅奥久慈だいの第2駐車場として整備するとともに、堤防の嵩上げと河道の流下能力の向上を図り、旧役場跡地の一部を国道461号と合わせて嵩上げを行い、広域的な防災拠点として活用します。

#### ③道の駅奥久慈だいの防災機能強化（防災道の駅）

県北地域における広域防災拠点として、既存の道の駅について土砂災害特別警戒区域に対する対策を行うとともに旧役場跡地の一部整備予定の第2駐車場との一体的な利活用を図り、防災道の駅として必要な各種機能・施設・体制を整えます。

#### ④河川改修

堤防の嵩上げと河道掘削により、河道の流下能力の向上を図ります。

### 第3節 賑わいの再生

#### ⑤治水対策の推進

まちなかの治水対策は、水路の改修により、集水区域の雨水6区分で分散処理することや区域内にある既存のポンプ施設の能力強化を図ることにより、災害に強い地域を目指します。

#### ⑥橋梁の整備（国道461号湯の里大橋）

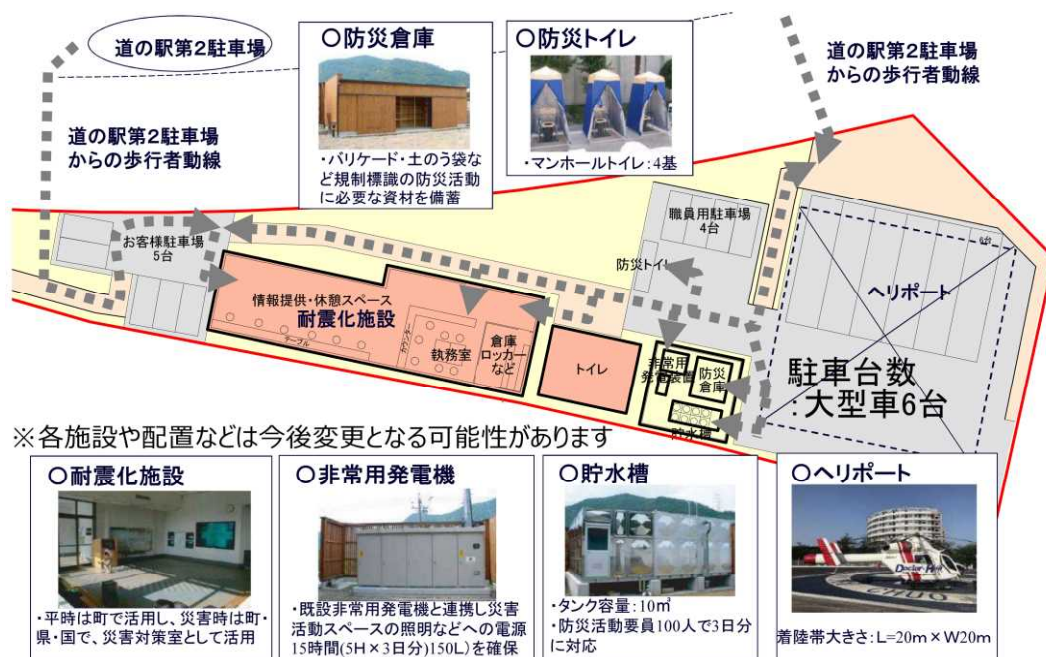
国道461号湯の里大橋の耐震補強とデザイン化を進めています。

### 防災道の駅の整備

令和3年6月11日に、道の駅奥久慈だいが国土交通省から全国初となる39駅の広域的な防災拠点となる「防災道の駅」の一つに選定されました。

防災道の駅の整備に向け、旧役場跡地の嵩上げとともに、防災施設や賑わい施設の配置等について、県と町で協議を行い、設計・検討を進めていく予定です。

併せて、中心市街地の排水対策のため、旧役場跡地において、排水ポンプや調整池などの排水処理施設の整備に向けた設計・検討を進めていく予定です。



防災道の駅のイメージ（大子まちなかビジョンから）



## 第5章

# 被災者の証言



台風第19号の被災体験を語り合うワークショップ(袋田地域防災センター)



# 水郡線を復旧し沿線を元気に

JR東日本水郡線統括センター 高橋利一さん

---

## 運休の判断

かなり大きな台風、雨を伴う、風も強いということで、水郡線は前日の10月12日15時をもって全ての列車の運転を打ち切るという判断をいたしました。お客様の安全や命を預かるという職種においては安全運行が第一でしたので、前日12日の15時30分で運転中止、また台風が直撃すると予想されました13日も始発から全て列車の運転を取りやめ、バス代行も一切行わないということで、ご迷惑をかけたと思うんですが、これは事業者として正しい判断だったと思っております。

## 過去の水害を活かした対策

13日の朝方に、第六久慈川橋梁を見に行きました。橋梁が崩落しているのは確認できたのですが、落ちた橋げたがない。水かさが上がって橋げたが川の中にもぐっていたという状況だったというのは特別に印象にあります。橋げたが7基流されており、その橋げたを支える橋脚も6脚あったんですが4脚が流されて、横たわっている状態でした。

水郡線の車両ですが、幸いにして一切の被害がありませんでした。北陸新幹線の長野の方で台風とか河川増水で新幹線車両が水没したときの教訓を生かしまして、水戸駅の方に回送させたり郡山に持って行ったりということで、全ての車両を疎開させました。

ただ通信手段は被害を受けました。今どういう状況なのか、正確な状況や情報を取ることや、水戸の災害対策本部の方で、どういう考えとか動きをしているのかっていう情報を得るのがものすごく苦労したと覚えています。

## 線路が切れたことによる弊害

橋梁が崩落したということで、水郡線は袋田から水戸よりの線路と、常陸大子から郡山の方と、2つにわかれてしまいましたので、個別の車両の整備の点検にもものすごく支障をきたしました。また（疎開させた）車両は線路がつながっていればまた戻せばいいんですが、線路が切れてしまったため、例えば常陸大子・郡山間の車両が足りない。一方、水戸・袋田間の方については車両が余ってしまうというアンバランスな輸送提供になって

しまいました。そのため、常磐線でいわきを回して、そこから磐越東線を経由し郡山まで戻して、郡山から水郡線で大子に戻す、といった経験したことないような調整をしたなっという記憶があります。

あとは、車内のトイレです。トイレの汚物処理は常陸大子の施設で行っております。線路がつながっていませんでしたので、汚物の処理ができず、トイレが使えませんっていうのもかなり続きました。どうしても我慢ができないお客様は駅に止めて駅のトイレをご案内したり、バキュームカーを持ってきて、車両に直接繋いで汚物を抜いたり、あとは常磐線の勝田の車両基地を借りて処理をしたり、少しでもお客様にご迷惑をかけないように対策をとっております。

### 水郡線の早い復旧を目指す

ある程度、雨や風もおさまりまして、設備等の緊急点検を行いました。1年6か月、橋の崩落の復旧工事を進めまして、令和3年の3月27日に全線運転再開しました。地域の足ということで、一刻も早い復旧というのが事業者としては当たり前と思うところなんです。みんなで思っていたのは、水郡線が運転再開することで、皆さんを元気づけられればっていう気持ちです。不眠不休の復旧作業というのが続いたなっという風に思います。

### 協力して復興へ

新型コロナウイルスもありまして、お客様の数は全然戻ってないです。水郡線をこれから未来にわたって残していくというのは私たち事業者の責務になりますので、今の内からできること、取り組むことがあるはず。つくづく思っています。JR東日本単体だけでは、難しいので、沿線の皆様や同じ交通事業者、そういった方と連携を組んで1+1は2じゃなくて3になるとか4になるとか、沿線のみんなが手を取り合って、そのエリアを元気にする、活性化していけば、自然に水郡線の利用者だって増えるだろうと思います。

これからも地域のみなさまと極力連携を取り合って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



被災後の水郡線第六久慈川橋梁

# 全国からのボランティア

益子さや子さん



## 自然豊かな大子

大子町は自然が多く町の面積の8割が山林です。茨城県一高い八溝山に鮎釣りができるほど綺麗な1級河川の久慈川が町の中心を北から南に流れています。山が多ければ土砂災害の危険性が高くなるし、町の中心地を川が流れれば水害で生活拠点にダメージを受ける事は想像がつきます。

## ボランティアが必要とされた

令和元年台風の水害の時、私は大子町社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターで活動をしました。電話によるボランティア依頼の受付や申請書の整理・現地地図の作成などです。土地勘が無い町外の社協職員さんのフォローをさせていただきました。

実際の被害件数から見てもボランティアセンターへのニーズ依頼件数は最初は少なかったと思います。町民への災害ボランティアセンターの認知度の低さも在りますが「人は頼らず自分たちで何とかするんだ」と頑張っていた人がとても多かった事を知った時は驚きと悲しい気持ちになりました。

## 壁をぶち破るほどの水の勢い

大子町での浸水被害の件数は約500件でした。大子町に限らず県内外でも多くの住宅に被害が出ましたが、上流と下流では浸水被害にも特徴があるらしいですよ。大子町の様に上流地域だと兎に角水の勢いが凄いらしく、被災した人の話しでは表から流れ込んで来た水が裏の扉や壁を破壊して出て行ったと聞かされた時は言葉が出ませんでした。

特徴はもう一つあり、水嵩が一気に上がり一気に下がる事です。浸水家屋の床下に溜る泥の量が下流地域よりも比較的少ないとボランティアさんが教えてくれました。

## ボランティアの方がたくさん来てくれた

町外の社協の職員さんが2～3名ずつ交代で大子まで毎日通い災害ボランティアセンター運営の応援に入ってくれていました。また私が所属する日本赤十字社茨城県支部の防災

ボランティアリーダーの皆さんも連日、センター運営の手伝いに県南・県西からもかけつけていただいたこと本当に心強く感じました。資材置き場の管理をやってくださいました。全国から届いた物をボランティアさんに貸し出して作業をしてもらいます。泥汚れを洗い、翌日の作業に少しでも早く出掛けられる様に置き場の整理をやってくださいました。

勿論、町内外からもボランティア活動に参加してくれた人、貴重な休みをボランティア活動に充ててくれた人、そして運動部の仲間と来てくれた高校もありました。活動の後半は高齢のボランティアさんから小学生や女性の団体も家財品の運びだしの後の清掃作業に活躍いただき大変助かった事を思い出します。

### 伝えていくこと、備えること

やっぱり自然の災害・水害って起こってしまうと町中が本当に大変になります。今回の様に町役場が水没したため限られた職員数で現地調査や役場の片付け作業や窓口のお客様対応といっぱいいっぱい仕事でこなしていた様子を思い出しますよ。

私は防災士として水害後、何度か講演活動をする機会がありました。そんな時は先ず冒頭で大子町の紹介と水害の様子を伝える様にしています。自分たちが経験したことは、語り伝える事で次への備えに繋がって欲しいからです。

### 災害を自分事として捉えてほしい

近場でボランティア活動の機会があれば参加することをお勧めします。現地で見たり聞いた事はきっと何らかの形で影響があるはずだからです。

今はネットの普及でその場所へ行かなくても、直接会わなくても情報を手に入れることが出来ますがリアルに災害を見たり聞いたりする事で今起きてる災害を自分事として捉えてほしいです。

# 水害の記憶を後世へ

久野瀬在住 益子恭平さん

---

## 車が通らずいつもと違う夜

私の家は国道118号に面しており、久慈川より約100メートルほどの距離にあります。台風19号の当日夜10時過ぎ、車の通行音がなくなり静かな為窓を開けましたところ、家の前の小川が満水状態でした、久慈川の異変を感じ家族を起こし避難することとしました。

車で避難する時には国道も冠水が始まりかけておりました。避難先JR袋田駅わきのコミュニティセンターを考えましたが、明治23年の久慈川洪水で現在の駅周辺は水没したことを聞いておりましたので、高台の知人の家に避難いたしました。

自宅は建て替え前、茅葺屋根の高床式で小さな子が歩けるほどでした。それは過去の洪水対策だったのではないかと思います。現在の家は一般的な土台の高さのため、今回床上浸水となってしまいました。

## 大子町には3つの災害伝承碑

「可恐（おそるべし）の碑」と呼ばれている石碑が大子町に3つあります。これらの碑は明治23年8月7日に発生した久慈川の大洪水の状況を後世に伝えるため建てられた石碑です。1つは袋田駅近く、2つ目は久野瀬諏訪神社脇、3つ目は池田地区の国道118号脇にあります。

袋田駅近くの碑には「可恐」の題名と近辺の被害状況が刻まれ、久野瀬諏訪神社脇の碑には洪水が石碑のところまで到達したことと久慈川の増水量が刻まれおり、池田の碑には洪水の状況や被害内容が詳しく刻まれております。久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑は洪水到達地点に現在もありますが袋田駅近くの碑はJR水郡線開通工事の為、約10メートルほど高い現在の位置に移動したと聞いております。

台風19号の洪水到達点が久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑とほぼ同じですので洪水による久慈川の増水量は同規模であったと考えられます。

## 伝承碑は忘れられていた

これらの石碑は令和元年の台風19号による洪水が発生するまで忘れられ、明治23年の洪水より100年以上が過ぎ地元の人達に伝えられる事はなくなっていました。明治23年の洪水浸水家屋は250軒、台風19号による浸水家屋は588軒と倍以上ですがこの違いは人口が大幅に増えたこともあります。洪水の被害を受けた地域に新たに家を建てた方が多くいたことも大きな原因だったと思います。洪水被害の伝承がされなくなると同様な被害が繰り返されることとなるわけです。

## 被害を後世へ

「可恐の碑」は明治23年の洪水被害を後世に伝えるために建てられたにもかかわらず台風19号では教訓とはなりません。台風19号の被害が明治23年の洪水と同様の大きな被害をもたらしたことで改めて見直されることになりました。また、国土地理院の自然災害伝承碑に掲載されたことで現在は見学に訪れる方が時々おられます。

久野瀬諏訪神社脇の「可恐の碑」と同位置に台風19号の被害を刻んだ新しい「可恐の碑」を建立いたしました。今後も災害伝承として守っていきたいと考えております。

また、上記の3つの石碑のうち袋田駅近くの碑は現在、元の位置にはありませんので今後元の位置と推定される場所に移動したいと考えております。



久野瀬諏訪神社にある明治23年の可恐の碑と  
台風第19号の碑

# 牛のことを考えて避難は難しい

矢田在住 益子賢さん 益子隆嗣さん

---

※音声記録がないため、聞いた内容をまとめさせていただきました。

## 益子賢さん

### 水害の多い土地

父親がしていた酪農を引き継ぎ、50年間酪農をしています。

当日は雨はそれほど降らなかったです。自宅近くは川幅が狭いため、何度か水があふれているものの、床上まで来たのは今回が初めてです。

### 牛を落ち着かせるために牛舎で一晩

当日は午後から台風に向けて牛舎で準備をしていました。夜7時頃、一気に水が来ました。いつも川岸のブロックで水の量や上がり方を見ているのですが、今回は1時間で1m上がりました。牛を落ち着かせるため牛舎にいましたが、水は牛舎で1m80cmまできました。牛舎が水圧で強く揺れました。牛は犬かきのように首を出して水に浮いていましたが、そのうちサッシが割れて水とともにゴミが流れてきました。牛はゴミが顔に当たって嫌がりますが、下を向くと水に浸かってしまいます。当時牛は28頭いて、8頭が死亡しました。一頭は水に流されて見つかっていません。

近所の人から呼んでくれて、朝4時頃、消防が救助に来ました。牛たちは水が来ると嫌がって暴れるのですが、私がいると落ち着くので、避難するつもりはありませんでしたが、消防の人のボートで一度離れました。

水の引きは早かったです。自宅は水びたしになりましたが、牛舎の対応が優先なので、自宅は親戚に任せて牛舎の片づけをしました。水が来る直前に搾乳をしたため、乳房炎になる牛はいませんでした。

## 益子隆嗣さん

### 避難が難しい

今回は水の上がり方が速く、牛の避難はできませんでした。トラックの手配や人員不足という問題があります。

当日、家族（奥様とお子さん）は避難しましたが、私は父親と牛舎に残りました。自宅は川のそばで、川の階段が1 2段あるので台風のときはいつもその数で水位を見ています。家族が避難するときにはすでに道路が冠水していて、どこが道かわからない状態でした。いつもの記憶と勘で車を運転して避難しました。

牛は水を怖がって暴れるので、私が声をかけて落ち着かせました。普段世話をしているので、声をかけると牛も安心して落ち着きます。はじめは足首くらいでしたが、どんどん水が増えるにつれ、柵に1段ずつ上がり、最後は梁に上りました。牛は犬かきのような状態で浮いていました。丸太が流れてきて牛舎にあたり揺れました。そのうちサッシが割れて、ごみが水と一緒に入ってきました。朝4時頃に消防に救助され、4時半ころ戻ったら水はほぼ引いていました。

### 被災後は親戚や酪農仲間の力を借りた

補助金申請のために片付け前に写真を撮りました。被災の次の日からは酪農仲間が来て、片付けを手伝ってくれました。そのため牛舎は1週間で再建できました。ただ古い牛舎はまだ片付けができていません。

自宅を新築して1年半でした。今も外壁に水の跡が残っています。外の蔵は水で流されて位置が変わっていました。床下は、常総市での浸水後の子供への健康被害の例を聞いて、リフォームをしました。2階は無事だったので、避難所へは行かず、片付けの間は2階で生活しました。1階は使えないので、お風呂は温泉、洗濯はコインランドリー、食事はパンやカップラーメンでした。お金がたくさんかかったし、パンやカップラーメンはたくさん食べたのでもう食べたくないです。

水害の時は川の内側にたくさん竹が生えていて、流れが悪くなっていました。堤防の計画がありますが、この辺りはまだ先ようです。ただ、堤防が完成した後、もし水が入ったら今度は出ていくところがなくなるのではないかと心配も残ります。また水が来たらこの辺りは人がいなくなるのではないのでしょうか。私も酪農は止めるかもしれません。



水が引いた後の牛舎内



サッシの割れた牛舎



# 水害により意識の変化も

大子在住 吉原和伸さん



## 水害の前後で変わったこと

当時、ここは目の前が久慈川で、まさに被害があつて半壊扱っていかうか、床上もう60cmぐらいまでいっちゃつて。それで本当に復旧作業でしばらくかかったんですけども。やっぱり生まれて初めてのことがつたんで。今まで本当に他人事だと思つてたんですよ。だからそこで1つ、誰でも起こるんだなつて、意識の変化。あともう1つは、全部流されちゃつたんですよ、思い出のアルバムとかレコードとか。ここの2階に残つてるもの以外全部。レコードは、私200枚ぐらいコレクションとしてあつたんですけど、全部。それで当時はショックだつたんですけど、逆に断捨離じゃないけど、もうそういうものいらないうつていうやっぱり自分の中で、積み重ねじゃなく積み減らしたことで、何か見えてきたというか。別にそんなのなくても、そういうような意識は出ましたね。やっぱり失つたことで、逆に言つたら身軽になつたというかですね。

ここつて中古で買つたんですけど、前住んでた方が2回、水害にあつて、水戸に家買つて、ここをぶつ壊して。そのときの教訓で1階部分を上げたんです。隣はもう住んでないんですけど、あそこも全部、ここ本当に湖みたいになつちゃつたんですよ。だから60cmで済んだんですけど、もし1階部分をそのままだつたらここも駄目。

## 被害後の片付け

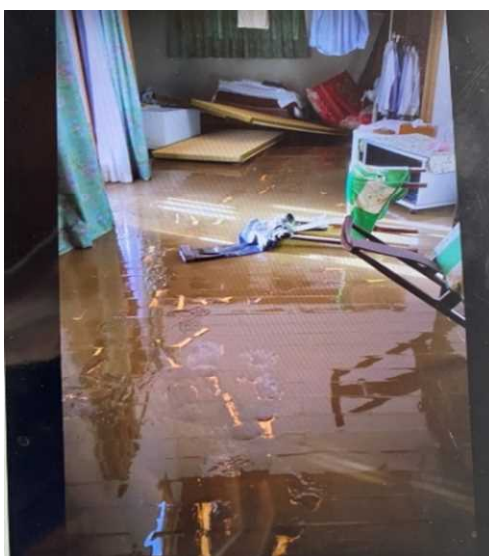
ボランティアの方も来てもらったんですけど、もう私のところはいいからと。私の方は良い方なんですよね、みんな2階全部いっちゃつてるから。別のところ行つてもらつて、1人で(片付けをした)。10月12日に水害で、結局年末まで。お風呂も全然入れなかつたから、町の方で温泉あるんですけど、あそこ無料で開放してくれてたんで、毎日温泉通つて。あとね、洋服、下着。それも役場の方で無料でボランティアの方が、下着とか支給してくれて助かりましたよ。

### 今後の大子町に期待すること

やっぱり今の若者の方は芸術とか、そういうのでいろいろいらっしゃってるんで、だから若い人が何か成長できる場所を。もう大子駅も廃線になるとかあるじゃないですか。そういうことよりも（若者に力を入れてほしい）。

### 占いで地域おこしを

大子町の最初の地域おこし協力隊です。占い師になって10年目が平成26年で。10年目だから、何かちょっと変えたいと思って。で、地域おこし協力隊に占いで町おこしみたいな企画出したら大子町だけ唯一採用されたんです。それで平成26年からお世話になって。協力隊のときは平日はわさびの復活作業をして、土日はカフェで占い。で、平成29年に任期終わってここ買ったんですよ。



ご自宅の様子

# 早めの避難を決断

老人保健施設やすらぎ 金澤邦芳さん

---

## あっという間に水が流れ込んできた

台風19号、南東からかつてない猛烈な台風が12日夜半に日本列島を襲いました。当施設は2階建ての建物ですから、まずは1階の利用者を早めに2階に避難させた方が良いのではないかとということで、午後2時に1階の利用者を全て2階に運びました。

久慈川が氾濫したのが午後8時頃、駐車場にじわじわじわと押し寄せてきたのが11時半頃。「2階から駐車場見たらどんどんどん水が流れてきました。20分ぐらい。あっという間ですよ。施設の中に水が流れ込んできちゃいました。恐ろしくなりました」っていうのを夜勤の職員が言っていました。それから浸水した時点で停電になっちゃいました。エレベーターも使えなくなり、それから階段や通路にあるドアが水圧で動かなくなり、それでだいぶ職員がおっかなくなっちゃったって言ってましたね。それで、うちの方のいろんな受電設備の機器が水没しちゃったんですね。それで停電になった。それから受水ポンプも浸水しちゃいまして、使えなくなって水が供給できない。電気も供給できない、水も供給できないで、あらゆるものが不足していった。

## 早めの避難が重要

利用者には幸い人的被害がありませんでした。早めに避難させた方がいいです。夜中の夜勤者は4名しかいませんから、避難が遅れてたら人的被害が出たんじゃないかっていう大変な思いをしました。いつも言われることですが、早めの避難、これはなかなか決断できない。もう少しもう少しってこう思うんですけども、雨はまだ降ってないときにね、避難してそれで早く行っちゃったらなんだってなっちゃうんですけど、うちは万が一のことを考えて早めに2階に利用者を移動させたおかげで人的被害はありませんでした。

それから建物被害はですね、うちの方の施設は鉄骨のコンクリートでかなり頑丈にできていたものですから、建物被害は少ないです。ところがですね、1階部分のいろんな設備機器は、壊滅状態ですね。ベッドから高齢者の入浴設備、そういうもの使えなくなっちゃいました。冷蔵庫、電気設備、電気関係のパソコンプリンター全滅です。車も1回水に浸かったら使えなくなっちゃいますし、これには私も職員もパニック状態になりました。も

うどっから手をつけていいかわからないというような、大変な思いをしました。

人的被害がなかったのはやはり早めの避難。職員が多い日中の避難。これが今回の一番の大きな要因です。



避難させたベッド



被災後の施設内

# 地域の医療を支えるために

医療施設 栗山洋一さん



## 損害は億単位に

病院が1メートル前後ぐらいまで浸水しました。1階はもう全滅状態ですね。自動車だけでも6台水没しました。修繕と医療機械の損害が億単位で、資金繰りにも苦労したのが実際です。

## 一からの診察

4日ぐらいたって何とか診療ができるようになったんですが、医療機械もなければ、医療資材も何もないですから、質の高い医療っていうのは全くできない状態です。完全に復旧っていうことになると、半年経ってるんですね。半年間はエレベーターなしで病棟2階にみんなで患者さん運んだり、給食を運んだり、人海戦術で対応しておりました。

カルテがないので、一から診察をして、処方箋、薬を出すという診察になっちゃいましたので、ものすごくドクターも時間がかかって、薬も何を出していたのかもわからなかった。当時はそれが1番医療従事者にとっては悩みの種でしたかね。

## 多くの人に支えてもらった

よかったのは東日本大震災の経験を生かして、発電機を屋上に持っていったので、電源を確保できたことですね。それと、給食会社と契約していたので、食材を調達できたり、キッチンカーを寄越してくれたり、病棟機能を何とか維持することができました。入院患者さんを1人も他に転院させずに診察できたところも良かったと思います。水戸と古河の日赤の病院から災害支援チームの方たちが来てくれたおかげで、院長も災害復旧にちゃんと指揮をとることができたということが非常に助かりました。

ガソリンも医師会で優先的に給油できる制度ができていて車は使えました。ただ全部浸水してしまったので、日産のディーラーさんからレンタカーを車が納車されるまで貸してもらいました。車がないと本当に困っちゃいますんで助かりましたね。

あと行政による支援がこんなに手厚いんだっていうのはびっくりしましたね。助成金とか補助金とか修理代とか、いろんな案内をしてくれて、こんなにいろいろお金を出して

くれるんだなっていうのが1つありました。それから、自分たちの職場だって甚大な被害を受けたのに自宅に来てくれて、体の容態どうですかと、何か悩みありませんかっていうようなことを、役場の職員の方が聞きに来てくれたり、そういうことが心の支えになりましたね。ボランティア活動、社会福祉協議会含め、NPO、こんなにボランティアの人たちも来てくれたんだっていうね。そこがものすごく印象的でしたね。

家財道具はほとんど全滅ですし、庭なんかも瓦礫の山になってたんですね。それを力のあるボランティアの方が片付けて、ゴミの片付けとか泥のかき出しとかしてくれて、本当に助かりました。孤立無援じゃないっていうことを感じさせてくれる人たちでしたね。特に大子町なんか高齢者が多いですからね。非常に助かったんじゃないでしょうかね。一人暮らしの世帯が何百人も、何百世帯もありますからね。

### 水害後の動き

この地域の4つの医療機関が全部浸水したとき、高台にどこか病院を共同で設立したらどうかという話も出たんですけど、それが完成するまでに、かかりつけ患者さんの診療はもとより職員と家族の生活を誰が保証するのかという問題もあり、病院を高台に作るっていう話は頓挫してしまったという。医療機関の場合、制約があるということで、これからの課題になるんじゃないでしょうかね。

水害があった後、BCP（災害時に業務を中断しないための対策）プランを作りました。それを作って従業員に告知をしたのと、とにかく大事なものを高いところに上げると。データのサーバーとか、カルテとかそういうものもなるべく高いところへ持って行って、室外機なんかも、みんな架台の上に置いてるんですけどね。

本当は高台に移転するのが一番安全なんですけど。資金的なものとかスケジュール、時間的なことでそれはできませんでしたね。

### 非常時に地域の力が活かされた

しょっちゅう回覧板を持ってったりとか、決まった日にみんなで草刈りをしたりとかそういう（普段の）コミュニティ活動みたいなのは、水害のとき良かったんじゃないかなって思いますね。高齢者夫婦が取り残されちゃって、お隣の若い夫婦が住んでる家にはしごを渡して、それで避難させてもらってましたね。田舎の良さというかね、人付き合いの密度が濃いついていうのは活かされたかなって思いますね。

# 音やにおいを思い出す

池田在住 高瀬一仁さん

---

## 五感から蘇る被害の記憶

12日の夜、10時半に実家の方に向かいました。車では行けないので、徒歩で向かったんですけど、既に水が入ってたんです。腰以上のところまできてて、何もできない状態でした。実家の方の様子を見て父親の安否確認をしたんですけど、どうにもならない状態で、テレビも一台だけしか上げられない状態で、とにかく夜が明けないとなにもできないってことで。帰りがけにいろんなところを回って、駅の方も心配で様子を見ながら帰っていた中で、車のクラクションがずっと鳴っていたのを記憶しています。

五感である時の被害の記憶っていうのを考えるといまだに鮮明に蘇ってきます。あと匂いです。まいんの隣の方は油が浮いていたんです。灯油か重油かわからないですけど、とにかく油が流れていて、それが肌にぬめって入った瞬間に足元から服の方までまとわりついてきて、その刺激臭と、あと泥の異臭とか、あとは音ですね。クラクションがあちこちで鳴って。ショートするんですよ、車の防犯アラームは。それがバッテリーが切れないと鳴り終わらない。役場の駐車場の公用車が、クラクションずっと鳴りっぱなし。あと病院の駐車場も同じ状態。ほんとに、音もおいも肌触りとか、その冷たさ、水の変な生ぬるさもあったんですけど、空気感とかっていうのをいまだに覚えています。

## 後から気付く被害も

車の話なんですけど、うちは高台にあるんで被害はなかったんですけど、家内の車が冠水した場所を走ってしまったがために、1週間経ってからショートみたいな形で勤務先に向かっている途中で動かなくなってしまったということで。レッカーも予約がいっぱい、1週間以上置きっぱなしにさせていただいて、夜中に運んでディーラーに持っていったんですけど、ディーラーもEパワーとかハイブリッド車のバッテリー積んだ車がずらーって並んで、もう廃車っていうことで。全く関係ないところにいるようで、でもやっぱり被害がかなりあったなっていうのを覚えていますね。

## さまざまな課題とジレンマ

あとはゴミ出しをずっと3カ月にわたってやっていた中で、最初は気が張っているのが頑張れるんです。1日何回行っても大丈夫なんですけど、食料がなくなってくる、どうしようとなって、スーパーも被災してやってない。とにかくあるもので済ませようっていうことで、炊き出し、まいんでやってるから行ってもらってくる。けど他の人はわからないだろうなと思ってSNSで発信する。来られる人はいいけどたぶん見てない人はわからないよね、って言ったり。で情報伝達もすごく心配でした。私ができることと言ったらSNSでこういう状況だということを発信すること、で知ってもらうこと、メディアに取り上げてもらうこと、っていうことで心がけてやってたんですけど、やっぱり疲労もたまってきます。疲れもたまってきて、最後はいろんなところで不満も出てくるんですよ。誰にぶつけていいんだかわからない。心のつらさっていうのはだんだん溜まってきて、それを吐き出す先がないんですよ。家族はみんながんばろうとするんですけど、いざやっぱり1日疲れて帰ってくると寝る場所がないんですよ。実家にはもう寝る場所なんかないので、うちの方に家族は泊まって、っていうことで3か月それが続いたんですけど、いざ今度住む場所どうする、ってなったときにアパートもいっぱいでないんですよ。そういったジレンマをかかえながらいろんな課題にその場その場でぶつかっていったのをいまだに覚えてますね。それがまだ課題だと思います。いろんなところでそういう思いをかかえながら被災した人たちは、できることはみんな協力してやってたので、お互いに大変だったけど食料持ってってくれた人もいるし、会社の同僚の方が休みの日に手伝いに来てくれた日もあったりとか。ほんとに自助作用っていうんですか、自分たちでできることをとにかくやるしかなかった状態がしばらく続いてました。



12日夜の様子 ※



ゴミの集積場の様子 ※



# 想定外の被害だった

大子町消防本部 佐藤栄作さん

---

## 隊員で総力をあげて

当日は、台風が来るということで警戒はしてました。夕方15時くらいから時間を追うごとに、地域住民の方から、沢があふれたとか、土囊くださいとか、そんな通報が入ってきました。だんだん夜にかけて、それが救助要請に変わってきたのを覚えています。夜に入る前に非常事態ということで、休みの隊員も含め全職員で対応に当たりました。21時頃から一気に救助事案が増えて10数件近くありまして、それを隊員3、4人くらいで手分けして活動しました。自分も署に帰ってきたのは朝方でした。

今まで浸水したことがない地域は、普段はそこに水が来たことがないんで、いきなり来て逃げられなくなってしまった方が多く、ひざ下くらいの深さまで増水し、歩けなくなってしまって助けてくださいというのが多かったですね。怪我とかではなく、家から出れなくなったっていうのが多かったです。家の周りが若干低くなっている土地だと、家から出られない。でも道路まで行くと歩ける、というような状態のような救助要請も多くありました。

## 想定外の被害

写真のこの車は被災してこの上に逃げ遅れた方が2名いた車両です。もう1枚の写真は奥にトラックがありますがこれは、店と国道118号線の間が駐車場で、幅2~30メートルが濁流になってまして、トラックの下に写っている電信柱に車が引っかかってその上に逃げ遅れた方が2名いたという状況でした。消防本部ではこの時間多数の救助事案が発生し、隊員がなかなか現場に向かえなかったっていう状況がありました。また、出場した隊員も2、3名での活動で、濁流のため対応できなかったのもので、救助に時間を要しました。ここが濁流になるのは想定できなかったのもので、救助に大変苦労した事は思い出に残っています。人も流されるような水の勢いがあり、道路のアスファルトがはがれるような場所もありました。



水に流された車の上に救助を待つ人がいた ※



水のかで倒れたフェンス ※

# 情報を共有しながら被災者に寄り添う

大子町社会福祉協議会 松川明子さん 神長美咲さん

---

## 責任の重さと不安を乗り越え

ボランティアセンターの運営についてお話しさせていただきたいと思います。社会福祉協議会は大子駅前の文化福祉会館まいんにありまして、役場の近くです。敷地内の駐車場までは水がぎりぎり来なかったのですが、被害はありませんでした。12日に水害が発生しまして、翌日の13日に職員が集合し、災害ボランティアセンター立ち上げの準備をしました。

また、社協で運営している事業所も被災した事業所があったので、そちらの事業所を片付ける職員もいました。常総市や広島の水害の時に大子社協の職員もボランティアセンター運営の手伝いに行っていたので、少し知識はあったのですが、まさか大子町がここまで水害の被害にあうとは思わなくて、13日に集合した時には職員全員が不安に思っていたと思います。そんな時に、茨城県の社会福祉協議会の職員の方に駆けつけていただいて、ボランティアセンターの運営の助言とかお手伝いをしていただきました。また、東海村社協さんは、ボランティア活動で今後スコップとか一輪車とか必要になるよ、ということですぐにそういう資材を持ってきてくれました。徐々に水害被害の状況が分かるにつれ、ボランティアセンターが担う役割の重要さに押しつぶされるような気持ちと、大子社協は職員の人数が少ないので少ない職員で対応ができるかな、という不安が大きくなっていました。でも被災された方はもっと大変なので、頑張らなきゃいけないという気持ちももちろんありました。

## 活動依頼の判断の難しさ

14日はボランティアセンターの準備をして、15日にボランティアセンターの開設とボランティアさんの受け入れを行いました。運営していく中で大変だったのが、被災した方からの活動依頼をどこまでボランティアセンターで行っていいのかという判断をすることです。一般の方にボランティアさんで来ていただいているので、あまり危険なことではできない、というところがありましたので、その時は職員間でミーティングを行い、みんなで判断をしました。ボランティアセンターで行えない活動はどこにつなぐかとか、社協以

外の機関でどういうところがあるか、っていうのも情報収集を行いました。また、多くのボランティアの方にご協力いただき助かったのですが、予想以上の人数の方に来ていただいた日があったので、活動場所とボランティアさんを調整するのが大変だったということもあります。その辺は徐々に、ボランティアさんは事前登録制にすることができたので、スムーズに行えたかな、と思います。

### 被災者に寄り添う

その後は水害の現状の把握とか、活動を依頼したいけど自らボランティアセンターに依頼ができない方もいらっしゃると思って、職員で地域に訪問も行きました。訪問すると、まだまだお手伝いが必要な方や、被災されたことで精神的につらい思いをされている方がいらっしゃいました。被災された方で見守りが必要な方は、ボランティアセンターの活動が終わっても、寄り添い訪問という名前で令和3年の3月まで訪問を続けました。

ボランティアセンターの運営は、大子社協の職員だけでは運営できなかったとされていて、役場や消防、商工会、職員の家族等の町内の方のご協力もあったり、他の市町村社協の方が応援に来ていただいたり、あとは支援Pと言われる方や、プロボノという災害支援のプロの方の協力もあって運営ができたと思っています。ありがとうございました。



土嚢袋に書かれた応援のメッセージ

# 心の備えをしておく

大子町役場 小野瀬英一さん

---

## 消防署には次々と電話が

当日は消防にいまして、本部で2日間、12、13日に詰めたような形になります。台風が来る、ということで心構えをしていたのですけれども、消防団、消防署、一体になって活動しないといけないということで、消防団指揮本部を立ち上げて待機をさせ、すぐに活動ができる状態にする。消防署は、なるべく人命にかかわるような大きい災害に対応させなくてはいけないので、水が出ちゃった、土嚢が欲しい、っていう状態のところは、消防団に任せようということで、体制を整えました。最初のうちはやはり消防署に電話が入って、土嚢がほしいとか、水があふれちゃったよということで、消防団をそこに向かわせる作業を行っていたんですが、そのうち、8時9時になってくると消防署の方がいっぱい、そっちでもこっちでもというような状態で、それも出は行ったけれども、道路が冠水して、この先進めないとか、たどり着けないとか、というような状況も多々あったわけですね。水があふれちゃって先に進めない、どうしようもない。じゃあこっちに回れ、あっちに回れ、というようなことで時間ばかりかかるような状況もあったのかな、と考えています。

## 避難することも大変な状況

その中で、私に1本の電話が入ったんです。女房からで、私の家は川の近くではあるんですが、かなり低いところを流れている川なので水害はあまり気にしていなかったんですけど、当日、8時9時くらいになってきたときに、かなり上がったみたいなんですね。結果的に水が浸かることはなかったんですけど、女房が、逃げた方がいいのかな、っていう話をしまして。私は仕事の方がバタバタしてる状態だったので、危なかったら逃げな、避難所の方は開いているんでそこに逃げればよいよ、っていう話をして、ちょっと突き放したんですけど。うちは年寄りがいたんで、年寄りはやっぱり動きたくないですね。水が浸かって、逃げなくちゃしょうがない時には動くんでしょうけど、まだそういう状態でもない。しかも外は雨がザーザー、風がビュービュー吹いている、というような状態で、これもまた大変だったんだよ、って後で聞きました。

## 物の備えと心の備え

やはり備える。何かに備える。自分で危ないことを危ないと感じられる知識を身に着けるってことが大事なのかなって。身につけたら何をしようか、どうしようか、っていう備えをしておく。心の備え。水を用意するとか食料を用意するとか、物の備えも大事ですけども、まず災害に対して心の備えをしておく。こういう時にはこういう風にしよう、というようなこと。それが一番大事なのかな、と思っています。

# 見る間に避難できないほどの水

久野瀬在住 小林孝尚さん

## あっという間に水が

あそこ見てもらえるとわかりますけど赤い線あるでしょ。そこまで水が来たんです。うちの中も床上1.5m。明るいうちでしたけどね、徐々に水が入ってきたんですよ。大したことないと思って家にいたんですけど、そのうちに段々増えてきて、結局は外に避難する余裕がなくなったんです。それで、しょうがないんで自宅の押入れの上に天袋っていう空間があるよね。そこに一晚避難して。水が引くまで4時間ぐらいかかったかな。次の日の朝までその天袋にいましたね。今まで水が庭まで入ったのが4回ぐらいありましたが、ここまでは初めて。向こうの竹やぶまでこの辺一帯が水没したんだからちょっと想像つかないでしょ。もう水が出始めると早い。家の周辺にあるものが全て流されて、川の方へ全部行っちゃいます。早かった。高いところへ登るしかないです。過去の経験でせいぜい床下ぐらいで済むんだらうって。だけど見る間に、早いですね水の出るのが。



水位を示す赤い線



久野瀬橋（斜めの柱がゴミ受け） ※

## 大きな損害

家の中にある冷蔵庫とか重い家財道具もすべて倒れちゃって水に浮いちゃって。だから全部使えなくなって捨てましたよね。車もハンドルの上まで入っちゃったんで駄目。泥の撤去には3日、4日かかりましたね。300万円前後はかかりました。車が3台駄目になりました。あとはこの床板全部剥がして、床下に泥がたまっちゃうんですよ。それ全部

取っちゃって床板張り直ししますね。あとこの建具が全部駄目で。それを新しくして。あとは部屋の中にあった家財道具は全て処分しました。

### ボランティアに助けられた

ボランティアの方が手伝いに来たんですよね。それはだいぶ助かりました。若い人ですね。若いと力ありますよね。次の日ぐらいから来ましたね。一応町の方で募集したっていうか管理してて、あちこち水があったところに割り振って派遣するような感じかな。あとは近所の人も結構来ましたがね。あとは差し入れとか結構ありまして、食べ物ね。ボランティアがうちに来たのは1週間ぐらいかな。1日いるわけじゃなくて午前とか午後とか分担して。大体1日あたり7、8人は来ましたね。あとはトラックはよそに捨てるものを積んで大子で集積場あるんですよ。被災したゴミを集めるところね。そこへ運んだりそういう仕事をしてくれましたね。だからいろんなやることを終えて落ち着くのにやっぱり1年くらいはかかります。一番大変なのこの床下の泥ね。それ取らないとやっぱり環境に悪いんでそれを全部取って、あと町の方で配布した石灰ってあるでしょ。あれを床下に全部まいた。消毒の意味もあるのかな。

### 川が増水すると水害を思い出す

そこに橋あるでしょ。あれがしょっちゅう水没します、最近。今年になって3回ぐらい水没しましたよ。これは橋にゴミが直接当たらないように。ゴミをここで止めるわけね。結構丈夫なんですよ。水が出ても上を流れちゃうでしょ。この橋はテレビのドラマの撮影でしょっちゅう出ますよ。映画で「桜田門外の変」っていう映画があったんですよ。あれはここで撮影しました。

あとシガってわかる？冬になると凍った氷が地面に流れる現象。あれはここが一番流れるところ。ちょうど条件がいいんですよ。日本でも2か所ぐらいしかそれが見られない。そのうちの1つだから。

今回の台風の後、ようやくいろんな対策を考えて。今度は堤防ができるんですよ。それで、水が入らないようにするんで、橋の上1.7mの擁壁を工事するんです。2年後には完成。予定がね。もう安心だと思うんですけどね、でもわかんないね。

3年経って、水害のことはほとんどは忘れてますね。ただ雨が降って川が結構増水するんです最近は。そうするとちょっと考えます、やっぱりね。



# あの瞬間すべてなくなった

大子在住 松浦幹夫さん

---

## 工場の設備が浸水

うちの工場、1 mプラスぐらいの水が入っちゃいましてね。影響をずっと引っ張っています。

機械類は特にモーター、電動モーター。ちゃぽんと入ったやつは全部駄目です。何が駄目かって防塵タイプのベアリングの中にまで砂が入るんですね。みんなバラして掃除して、ベアリングだけは新品に変えてということをやりましたね。それから工場の機械は、最近ではコンピュータで動くでしょう。あれが全て駄目ですね。これは激甚災害指定があり、補助金が出たんで何とか助かったんですけど、あれがなければ、もうその瞬間に廃業ですね。何十年もかけて少しずつ少しずつ作ってきた小さな企業ですから。

2か月、特に最初の1か月はもう朝から晩まで家を出たら工場に泥掃き。それで疲れて夜帰ってくるの繰り返しですね。だから、役場の周辺があんなに水が入ったなんていうのはわからなかったです。後で広報だいがの写真を見て、他の町内がひどい状況だっていうのが初めてわかりましたね。

(片付けは) 人海戦術。親戚縁者がみんな助けに来てくれたんです。ただ隅々までまんべんなく泥って入ってくるでしょ。あれは本当に大変な作業ですね。

## 後から被害に気付くことも

補助金が出るって言っても最初に出ないよね。全部立替払いをしてから出る。それからこういうものは駄目、ああいうものは駄目といろいろ制約がある。

最初にあれっと思ったのは、軽トラックが2台水没しました。軽トラは看板がついてるかどうか。今時看板なんか付けて走らないですよ。ない方がいいんですよ。ところがついてないものは認めないとかね。

日々使ってるものは(故障に)すぐ気がつくんですが、大きい電子はかりがあるんですよ。(しばらくしてから)スイッチ入れたらば一つも動かないんですね、水がついてるから。その頃気がついたんです。あれ駄目だっていうね。

だから全部1回の申告で済ませろっていうのは。初めての被害の時はやってみるまでわ

からないからね。結局ここまでは壊れてないだろうと思った機械も全部駄目でしたね。それは、援助金の対象に一切ならなかった。それは相当の損害が出ましたね。

さらに後々あったのは、使わないで予備に置いておく機械があるじゃないですか。それが全て水に浸かっちゃうんですよね。それで作業が始まって、目の前のコンプレッサーは水に浸かっているから駄目なんです。もちろんそれは駄目ってわかってるんですよ。何台も予備があんだっけ持ってこいやと言ったら、全部動かない。一切なくなっちゃう、あの瞬間にね。一切なくなっちゃったっていうのはね、想像を絶する不安です。

結局駄目なものは投げるようですよ。そういうようなことが一番でしたね。

### 今後のために必要なこと

やっぱりデータでしょうね、警報の。大子の場合には、大子で500mm降っても大したことないんですよ。それよりも上流で降られた400mmの方がきくね。上流でたしか450ぐらい降ったんですよ。それが夜中になって出てきたんですよ。夜中になってですから間に合わないよね。

離れた場所の降水データなんかも、少なくとも役場の防災課は知ってて。例えば大子は200だけど、隣町とそのもつと先が、どうも400降ってるから危ないぞとかね。そういう予報を立てるべきだと思いましたね。そうすれば逃げるっていうか、いろんな防ぐ手立てもあるじゃないですか。例えば仕掛品とか材料とか車だったら、高いところに持っていくとか。誰だって言われればやるよね。

情報をね、川の上の方はどうなんだとか。離れた地域がここに影響するんであれば、そういうのまで入れた防災。必要だと思いますよね。

### 今後の大子町には

もう少し人が増えるような策をしてもらいたいですよね。今、コロナで日本でもリモートワークが一般的になりましたよね。だからこれだけ自然があって、残念ながら空き家の多くなってきた地区ですから、そういうところをもっと活用して。そうは言っても道路が良くなると来てくれませんか。鉄道も含めて、交通手段だけはばっちり作ってもらって、それで田舎はどうってというようなことやって人を集めるのが一番なのかなと。

もうちょっと人が欲しいですね。3万人ぐらい欲しいですね。今の倍。

# 様々な支えでキャンプ場を再開へ

頃藤在住 竹内恒子さん



## 夢を見ているようだった

台風が来た当日朝早く、5時頃かな、主人と（経営している）キャンプ場の様子を見に行ったときには、全然風景が変わって、ほとんどのものがなくなっちゃってる状態。なんか夢でも見ているような状態でしたね。バンガローも35棟ぐらい流されちゃったし、管理事務所とか、トイレ、炊事場、シャワー室、全部がもう姿が消えてなくなっちゃって。

キャンプ場のどこに何があったかまるっきりわからない状態になってましたね。桜の木、アカシアの木、土手もあって趣があるキャンプ場だったんですが、それが一掃されて河原みたいになっちゃって。電柱も全部なぎ倒されて折れて、凄い状況でしたね。

## 過去にも受けた水害

昭和61年と平成23年にも水害の被害があったので、多少覚悟というか、やっぱ浸水したり被害は出るのかなっていうのはあったんですけど、なくなっちゃう想像はしてなかったですね。平成23年のとき、40棟近かったバンガローがほとんど傾いたり流されて、大体1メートル管理事務所が浸水して大変だったんです。9月21日の台風15号ですね。震災があった年。昭和61年の時もバンガロー5棟ぐらい流されて、いろんなものが傾いたり、えぐられたり、結構被災したんですね。だから大きな水害は令和元年で3回目だったんです。



被災後のキャンプ場の様子

## 危険と隣り合わせの自然

（キャンプ場は）50何年続けてきたんですよ。風光明媚っていうか山と川と電車と。だから普段はすごい恩恵をいただいて、その自然もやっぱりリスクが背中合わせだから、

天気予報はいつも確認してる。雨が降る確率とか天気の急変とか、熱帯低気圧が出たっていうと、台風に変わるか常にチェックして。だから台風が来るっていうときには、お客様にキャンセルしてくださいって逆にお願いして。

## 災害後に感じた繋がり

片付けは大変でした。駅前のお店も3か月ぐらいは休業して毎日復旧作業に家族で行って。キャンプのお客さんも心配して駆けつけてくれたり、泥出しとか畳運ぶの手伝ってくださったんですよね。妹達家族や親戚、友人、周りの人たちに本当に助けていただきました。

お客様たちが（片付けの手伝いに）代わる代わる来てくださった。電柱が3本倒れちゃって、電気使えなくて大変だったんです。そしたらキャンプのお客さんが発電機持ってきて、これ使ってくださいって置いてってくださいました。

水害になった直後からいろんな所から心配してすぐに駆けつけてくれた方々、物資を送ってくれた方、本当に自分のことのように心配してくれる方がたくさんいらっちゃって。自分はもう当時はキャンプ場が再開できるなんて思えなかったですからね。また再開を待ってますとかコメントくれたり電話もくれたり、実際に物資を送ってくれたり。ずいぶん支えていただいたのはすごくありますよね。

年明けてからは常総市のボランティアの方も何回もいろんな形で手伝いで来てくださった。倒れそうになってた木を切ってくれたりとか、バンガローとして使用していた貨物列車も横倒しになっていたのを片付けてくれたりとか。すごくありがたかったですね。

## いろいろな形で支えられて再開できた

本当に皆さんに支えられてるって感じですよ。いろんな方にいろんな形でご支援いただいて。今思うとよくここまで再開できたなって、しみじみ思いますよね。あの当時は考えられなかった。何もかも捨ててどこかに行けたらどんなに楽かなって、いつ終わるのかなっていうのがありましたもんね。

管理事務所の中の駄菓子コーナーに「小さな駄菓子屋さん」って看板かかってたんです。これだけ戻ってきたんです。奇跡なの。全部流されちゃったのに、辰野口公園のところにこの看板が流れ着いてたらしくて、それをある人が何かに載せたのかな、これ落ちてたって。そしたらそれを見た常連の方が、その人に連絡して、自分がキャンプ場に届けてあげますって言って。

実際の惨状がわかんないですよ、一部一部しか写真に撮れない。写真はいろんなものが流されちゃった後なんですよ。

# 川からあふれた水がまわってきて

矢田在住 渡邊和重さん

---

当時は私は那珂市に勤務していて、那珂市の方に翌日行ったら、水害はありましたけど、川沿いのところ以外は平気な状態だったので、いかに大子町がひどかったのかっていうのはわかりました。

## 雨がやんでから水位が上がった

工場の壁が倒れているような写真があります。あの辺は標高が低くて、1980年代にも大雨が出て1回水没しているんです。なので地元のものはおそこと2つの川の合流地点はだめだと…。ただ昔からの言い伝えでそこ以外は大丈夫だろうとたかをくくってました。そうしましたところ、我が家も床下浸水で、車も4台のうち3台は車の床上浸水でした。ちょうど夜中の2時ごろです。雨がやんで、もう増水しないだろうと思っていました。そうしたら、なんかおかしいなって思って外を見たらもう30分くらいで40センチくらい水位がぐーっと上がってきまして「こりゃあまずいだろ」っていうことで…。そして翌日明るくなってきたらとんでもない状況になっていました。

## 川からあふれた水が戻る流れで被害に

ちょうど川が決壊したところは、用水路みたいなところから逆流してのルートできたんだと思います。石が倒れてたところ、塀が倒れてたところはその逆流して流入した水がちょうど川への出口になるところだと考えます。「ぐるーっ」と土地を回って、水も高いところから低いところ行くのでちょうど流れが川に戻ろうとしたような…。だからただ決壊して押し寄せるじゃなくて、その水が逃げようとしての災害だったのかと思ってます。

## 被災後は疲労がひどかった

ごみを投げ捨てる写真があったと思うんですけども、我が家も何回かごみ運びしたんですが、もう地域住民の方々、ほんと疲れてて、ごみを捨てる気力もない感じでした。食料も手に入らなく。コメ農家さんが多いので備蓄はあるだろうと思うんですけど、我が家なんかもコメをしまっておく小屋自体がやられてしまいました。そんなこともあって、伝え

ていかなければならない災害だと感じました。



水の勢いで倒れた塀 ※



被災ごみの集積場 ※

# 町内でも被害に大きな差

矢田在住 藤田美希さん



## 危険を感じて

当時の住まいは2階建てでしたが、川の近くに住んでいたため、高台にある私の実家に家族で避難をしました。そのときは自分たちが助かりたい一心で持てる貴重品を片手に避難をしました。

避難勧告をアプリで確認していましたが、早めに避難をする近所の住民はおらず、警戒レベル5の時も避難している人はほとんどいませんでした。なので在宅避難をしていましたが、2階から外を見たときに道路に水があふれて非常に危険な状況になっていたため、そこでようやく避難をしようと決めました。

当時の自宅近くには押川と久慈川が交わってるところがありました。後日、近所の方から、台風で被害が大きくなった時間帯に旧役場の交差点で水が渦を巻いてたという話を聞きました。また人が溺れるほどの水が押し寄せる中、自宅で必死に耐えていた方もいたという話を聞き、改めて早めの避難が大切だと実感しました。

## 大きな被害

この辺は川に囲まれた土地柄、今回の被害が大きくなったと思います。今回の台風19号は、1m以上浸水した家が多かったと聞いています。ただ、過去にもこの辺で床下浸水の被害があったそうです。

被災後の片づけに関しては泥がたくさんあり、すごく大変でした。特に畳は、水を吸うと女性1人では持ちあげることができないくらい重くなります。我が家は、運べるものは軽トラで、旧役場近くの回収場所まで往復して運びました。

## 大子の中でも被災の度合いはバラバラ

大子町の全体が被災したわけではなくて、川沿いの地域だけに集中してしまいました。旧役場周辺の被災した場所から車で5分ぐらいのところにあるバイパス通りでは通常通り営業している店舗もあり、本当に場所によって被害の大きさが違い、複雑な気持ちでした。

## 水害に向けた対策

避難の時は通帳やお財布やスマホなど最低限の貴重品は必ず持って逃げましょう。貴重品がないと生活に困ってしまうので。あとは必ず水・米・カセットコンロなどはもしものために準備をお勧めします。

一番言いたいのは「自分は大丈夫」と思わないでください。自分の身を守れるのは自分だけです。日ごろから貴重品などをすぐ持ち出せるように、家族で保管する場所の共有をすることが大事だと思います。早めに行動することを心がけ、自分や自分の大切な人の命を守ってください。



# 防災のためのまちづくりへ

袋田在住 藤田稔さん



## 昔から続く水害

昔から台風や大雨が続くとお店は水害にあってきた。お店の裏側に滝川がありどうしようもない。袋田の滝があるから多くの観光客が来る。私がちっちゃい頃は堤防がなく、お店の後ろが竹藪であった。その後石垣ができたのだが、近年の気象状況の変化で水量が多くなり、お店のテーブルや椅子、冷蔵庫などみんなきれいに川に流されたこともあった。さらに石垣の上に堤防が整備されて背丈ぐらいの高さになったため、今は川の水位がそこをぎりぎり超えるぐらいまでになっている状況である。川の水位が上がると、山からの沢水がのみこめなくて逆流してくる。

## 大丈夫だろうと思っていた

その当時も、最初は「大丈夫だろう」と思っていた。普通は川の水位の状況を見ていると大体わかるのだが、当時は急に水位が上がり、お店の品物や座敷の畳を上げたりしている暇はなかった。「避難しなければ」と思い、犬を2階に避難させて、お店の電源を切り、家内を近くの子供の家に避難させた。私は、消防団長をしていて、避難レベル3になると出動しなければならない立場のため、市街地へ行く途中の久野瀬地区の道路が冠水してしまうことを知っていたので、生瀬地区を通り大子中学校付近に出られる道路を通り、遠回りをしながら消防本部へ行って、そのまま詰めていた。

今回の水害は過去の水害のレベルをはるかに超えていて、久慈川上流の自治体との情報共有もさらに必要と感じた。

## 大変だった後片付け

私が自宅に戻るとお店にも泥がたくさん溜まっていて、それを掃き出すのは大変だった。固まってしまうともっと大変なので、「水道が出るうちにやっつけてしまおう」と思って、電気もつかない夜中から始めたが、結局、夜が明けて昼頃までかかっても終わらなかった。町内の民家や商店などでは、私のお店の被害以上のところも多くあった。とにかく後片付けが大変で、多くの畳や電化製品などが山のように積まれていたので、3日以上かかったと

ころもあっただろう。多くのボランティアの方が全国から来てくれて本当に助かった、

### 防災を考えた役所づくり

役場も被害にあい、当初計画していた新庁舎建設が変更になった。現在、新庁舎は高台に新設されていて、移転後の役場跡地には、今後、防災道の駅の機能を果たすための様々な防災施設の建設が進められる予定である。

『水害』は『水』、『火災』は『火』、どちらも人が生活するときに必要なものだ。水害にあってから、台風や大雨時などに対する気持ちが以前より敏感になったように思う。役場の近くにあった福祉施設も水害にあった。当時、入所者を避難させるために役場職員などが助けに入ったと聞いている。

人は良いことも悪いことも忘れがちである。災害はいつどこでどのように発生するか想定は出来ない。経験した教訓をしつかりと生かして、次世代にも引き継いでいかなければならない。

# 地区のために何をすべきか

Hさん

---

## 避難の重要性

水害のちょうど1か月ぐらい前に県の防災危機管理センターの講習を聞きに行っていたんです。だから避難命令、避難指示が出てすぐ家内の車と私の車で、高台にある南田気の集会所に避難したんです。

私、岐阜県の生まれなんです。木曾川のすぐ近くに住んで。記憶に焼き付いているのは5歳の時の台風で、積んであった木が流れて、木曾川沿いに立ってた2階建ての家にとんどんぶつかり出した。で、家もろとも流れるのを目の前に見たんですね。そういう記憶があったもんだから。2時半頃からカッパ着て長靴で入って、全世帯を夕方まで回った。避難をしてほしいと。ところが避難しない人がいるんですよ。いやこんなところ水なんか来ないよと。で、来ない人のところを今度もう一度歩き出し。そしたら3時過ぎ頃にはもう水がついて行けなくなっちゃったんです。電話も繋がらない。それでレスキューを頼んでもらって、朝、たぶん3時頃ボートでここまで運んでもらって、集会所に来て。だから1人も人命はなくさないで済んだ。やはり何が大切かっていうとね、人命なんですよ。

## 一晩明けて目にした光景とやるべきこと

朝4時15分頃だったかな。雨が上がって、懐中電灯を持って見回りいったんです。朝一番僕がやらなきゃいけないことは何かっていうのを思ったわけ。主要道路全部ふさがっちゃってる。橋も渡れない。ここは陸の孤島になったんです。漏電起きたら消防自動車入ってくれないでしょ。まず一番朝起きてやらなきゃいけなかったのが、道路1か所、通行できるようにする。私知り合いにパワーショベル持ってる人が一人いたんですね。その人をお願いして1か所開けてもらったんです。それをまずやった。

その後自分の家に家内と戻った。水はおかげさまで早く引いた。床上我が家は40から50cm近く。家内がドア開けた途端に言った言葉は「へドロ臭い、もう臭くてこの家には住みたくない」。僕もそう思ったんですけど。ということは41世帯、全てそういう思いだろうな、ということで、うちはまずほっといて全世帯に回ったんです。みんな無事でおられたんでね。本当にほっとしたんですけども、僕の呼びかけに反応しなくて自宅にい

て本当震えてたよ、いい経験したよ、なんていう人もたくさんいてね。いやいや本当区長の言う通りにすればよかった。そういう言葉もいただいたんです。なにせ震えていたってというのは、木が流れてぶつかる音がするんですね。そういう何て言うかな、不安感と言うんですかね、恐怖感、そういうのを家にいて味わったわけです皆さん。だから次回からは必ず早めに避難するという事を皆さんから幾度言っていたいたんでね。今度こういうことがあったら困りますけどね、あった場合にはすぐ避難する。みんなに約束してもらったんです。

### 自宅に戻るために

それからやはり皆さんのために何が出来るか。まず物資ですね。皆さんから必要な物資を聞いて、役場をお願いして毛布だとか、そういうものをいただいて集会所にあげる。集会所とか避難所って寝れないんですよ。

自宅に戻るためにどういう対応するか。ボランティアにどんどん入ってきていただきましたから、まず1件ずつ何をしてもらいたいかな、いつごろボランティアに入ってもらおうか聞いて、段取り作って。社会福祉協議会に先頭に立ってやっていただいたんですけどね。本人たちは自分たちの片づけで（要望を出すのが）できないから。

（片付けで）一番大変だったのは畳です。1枚の畳が水を含んで4人で持たないと持ち上がらない。その置き場をまず確保、空き地の持ち主にお願いして貸してもらおう。今度は役場環境センターと打ち合わせして、いつまでに引き取って（とお願いした）。

その家を今後使うってのはどういうメンテナンスをしたらいいかっていうことなんです。でね、床下にヘドロが入っちゃってますでしょ。床下の、柱も水につかっていますから。そのまんま置いておきますとシロアリの温床になっちゃう。それからカビ。だから乾燥させて消毒するっていうのが大事。それを常総市で水害を経験された方に来ていただいて、いろいろお願いして我が家に全員集まってもらって（乾燥消毒の方法を）デモンストレーション、うちの床を剥がして（実際に）やり方を皆さんにお伝えして、それである程度自分たちだけできるっていうように。噴霧器を買ってきて、それでやっていただいた。本当このボランティアの方たちにどれだけお世話になったか。感謝ですよ。

皆さんとその後いろいろお話をしたんですけれども。やっぱりこの世の中ないことが起きるんですよ。災害時はまずいち早く避難するこれが大事ですね。とにかく避難です。だから無駄だと思わないことね。人命ってことを考えたときに、無駄ではないですから。

# ワークショップ

---

## 台風第19号の被災体験を語りあうオンラインワークショップ

被災体験のある住民と茨城大学の学生が主に参加。台風第19号での被災の写真を埋め込んだGoogle マイマップを活用したオンラインワークショップ。学生が、そのなかの気になった写真を選び、それについての感想や質問を投げかけ、写真を撮影した当事者である住民に応答してもらい、当時の体験を感じ取る試みを行いました。この語りあいから、これからのまちづくりに結びつくつながりやアイデアができていくことを目指しました。コロナ禍ゆえのオンラインでありましたが、むしろその利点を最大限活かすことができました。

○日 時 令和4年2月20日(日) 13:30~16:00

○場 所 オンライン

## 台風第19号の被災体験を語りあうハイブリッドワークショップ

被災体験のある住民の方を中心に、病院関係者、常陸大子駅関係者、介護老人保健施設職員、NPO 法人スタッフ、大子町役場職員などが参加。台風第19号での被災をめぐり、写真や動画でその日あの時をふりかえり、その体験を語りあい共有していくために、対面を中心としつつも、オンラインでも参加可能なワークショップを試みました。全体のコーディネーターも、3つのグループに分かれてのコーディネーターも、主に学生が務めました。

○日 時 令和4年6月1日(水) 13:00~16:00

○場 所 袋田地域防災センター+オンライン



## 高校生中心のハイブリッドワークショップ

高校生中心のワークショップ。主に1年生の生徒たちが参加し、オンラインでJR常陸大子駅関係者等が参加しました。台風第19号の被災状況を高校生たちに知ってもらい、そこで感じたことをベースにしながら、これからの大子町の在り方について考える機会となりました。ファシリテーターは、伊藤ゼミ4年生の佐藤美理さんら学生が務めました。3月10日（金）には、ワークショップの内容をふり返る機会をオンラインで実施し、高校生たちの感想を川柳で寄せてもらいました。

○日 時 令和5年2月21日（火） 13:20～15:10

○場 所 大子清流高校+オンライン



# アンケート調査

令和2年8月に、茨城大学との連携により災害時の避難行動調査として、「令和元年台風第19号大子町被災地域住民向け アンケート調査」を実施しました。

○対象世帯 428件

○回答率 47.7パーセント（204件）

## 【回答者の属性で割合が高かったもの】

- ・60代以上 45パーセント
- ・大子、矢田地区 54.8パーセント
- ・無職（農業） 46.2パーセント
- ・昭和61年（過去の水害）以前からの居住者 60パーセント

## アンケートから見てきたこと

- ・浸水確認後に屋外に避難された方の割合が、40.7パーセント。自由記述からもギリギリになって避難した方が多い。
- ・避難行動の決断に有効な情報として、「直接の声がけ」「繰り返しの呼びかけ」を挙げる方が多かった。水戸市は、「河川水位の変化」を挙げる方が多く、リードタイムが短い上流地域の特徴が読みとれる。
- ・避難情報に対する要望として、「状況の変化をもっと詳細に知らせてほしかった」を挙げる方が多かった。
- ・避難をためらわせる要因として、「自分は安全と思っていた」「避難行動を起こす基準が定まっていない」を挙げる方が多かった。水戸市は、「まだ浸水していない」を挙げる方が多く、水害経験の有無で違いがあることが読みとれる。
- ・過去の被災経験が、「ここまでなら大丈夫だろう」と逆効果に場合がある。水害経験が多い水戸市では、その割合が高くなっている。
- ・日頃の対策として、「地域の防災訓練に参加したことがある」を挙げる方が多かった。水戸市は少ない。

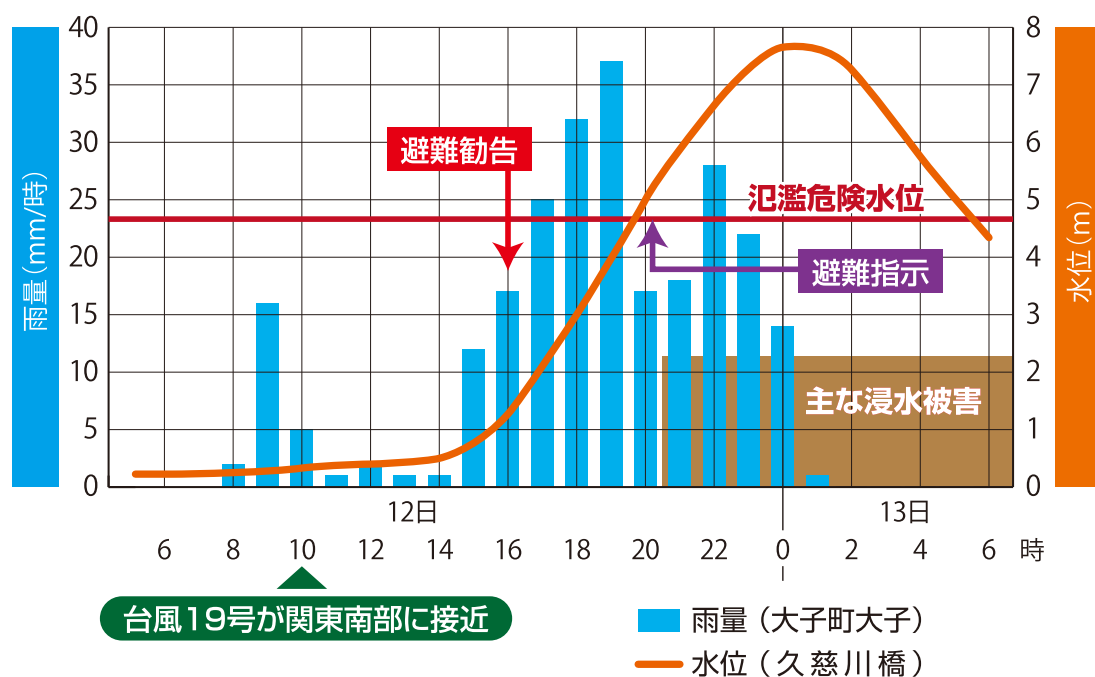
- ・避難所での良好な生活環境のために必要なものとして、「個別スペース（仕切り）」「衛生的なトイレ」を挙げる方が多かった。アンケートの時期により「感染症対策」も多かった。
- ・ハザートマップを事前に確認していた方は、避難行動が早かった。一方で、浸水確認まで留まる方も多かった。
- ・避難しなかった理由として、「いざとなれば2階に避難できる」「床下浸水で済む」を挙げる方が多かった。設問にはないが、資産保全行動が影響していることが読み取れる。
- ・避難情報の取得率として、「河川や浸水確認（目視）」「緊急告知FMラジオ」を挙げる方が多かった。一方、「エリアメール」「防災アプリ」などデジタル情報は、取得率が低かった。水戸市は、詳しい情報を小出しにすることにより、ホームページの取得率が上がっている。



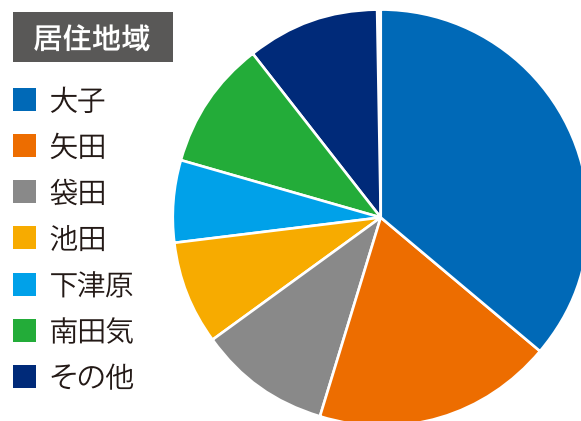
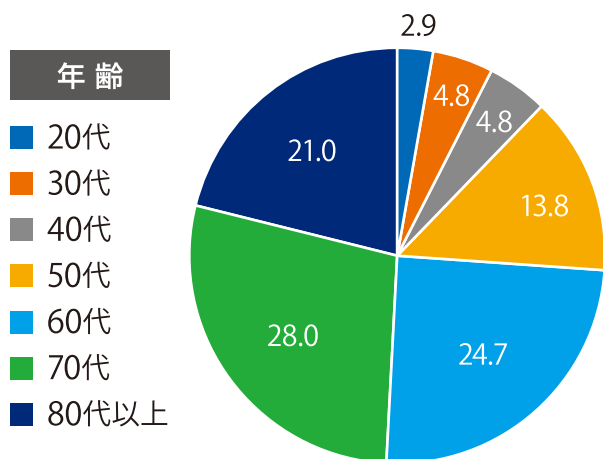
# 大子町アンケート

## 行政・情報に対する要望

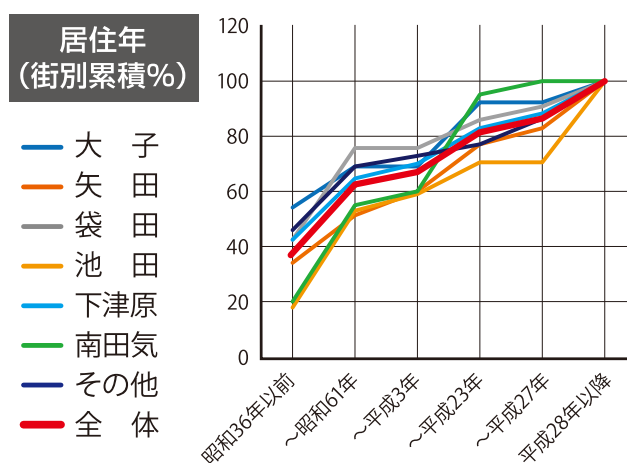
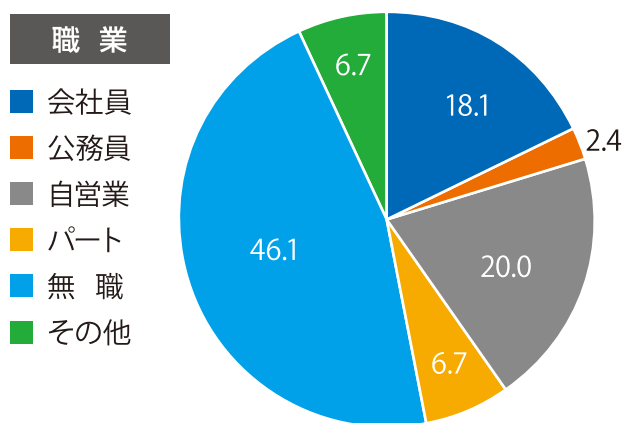
### 当時の雨量・水位



## 回答者の傾向



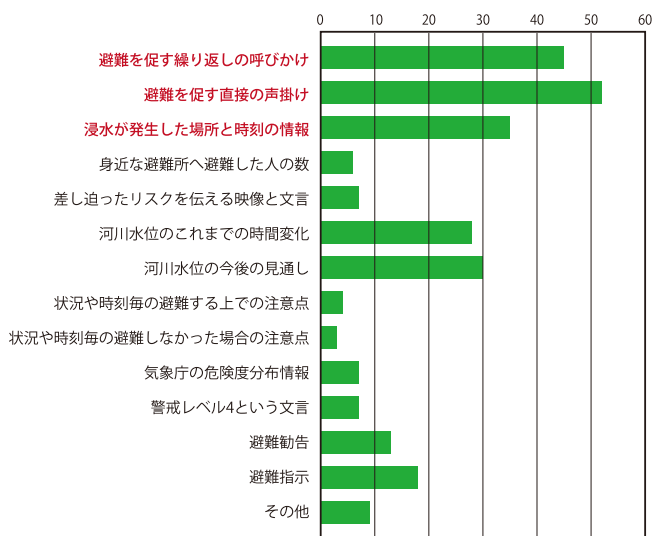
## 回答者の傾向



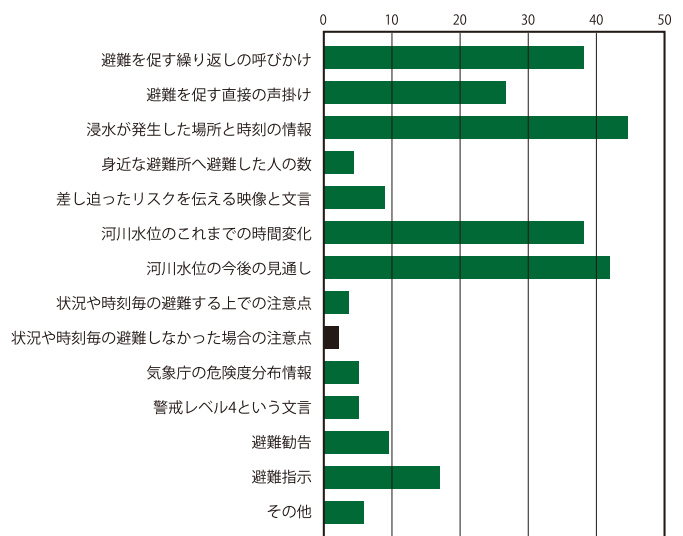
		大子町	水戸市
避難率(%)		64.3	67.6
屋外避難全体		57.7	63.0
2階避難		5.6	4.6
事前避難なし		34.7	32.4
屋外避難	～避難勧告	14.2	16.5
	避難勧告～避難指示	27.4	20.2
	避難指示～浸水確認前	17.7	21.1
	浸水確認後	40.7	34.9

## 行動決断に有効な情報

大子町 行動決断に有効な情報



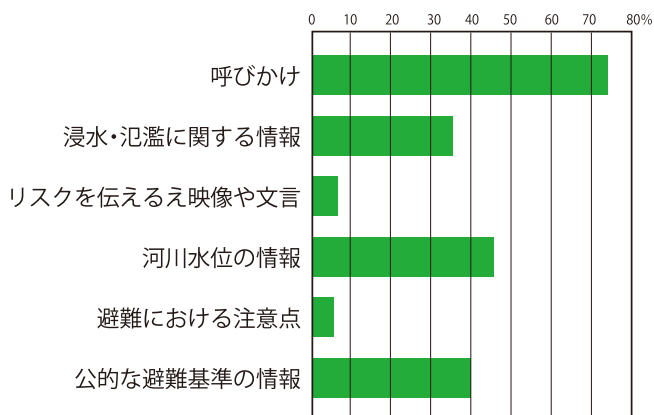
水戸市 行動決断に有効な情報



# 行動決断に有効な情報

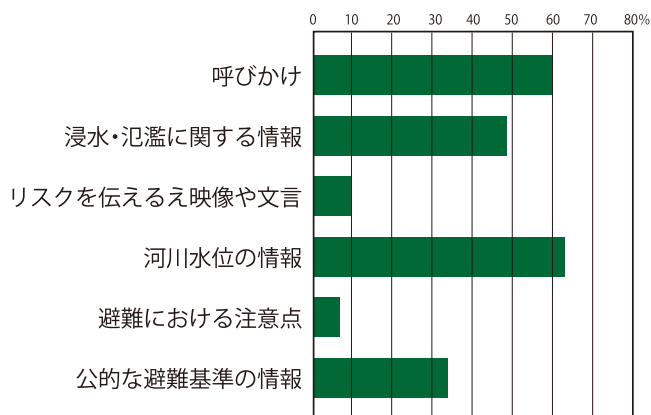
## 大子町

行動決断に有効な情報(カテゴリ別)



## 水戸市

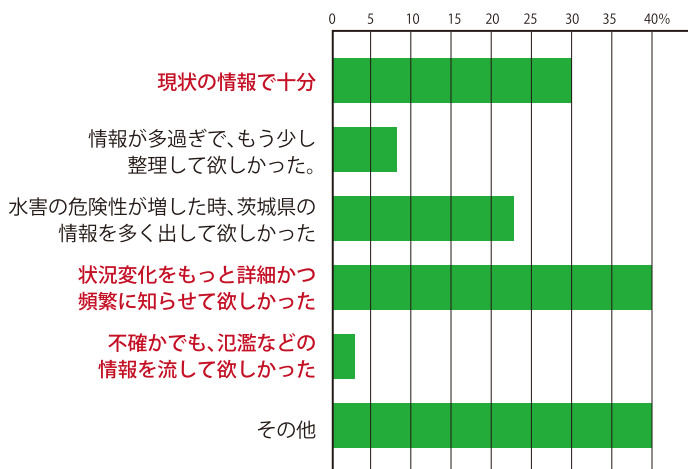
行動決断に有効な情報(カテゴリ別)



# 行動決断に有効な情報

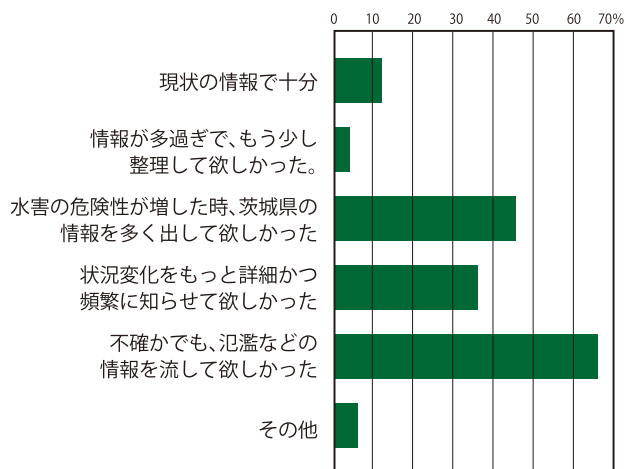
## 大子町

避難情報に関する要望



## 水戸市

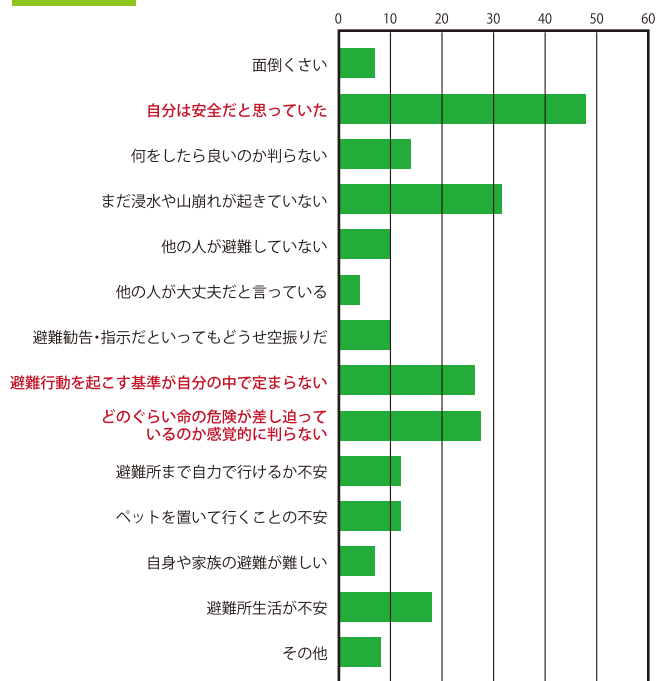
避難情報に関する要望



# 避難をためらわせる要因

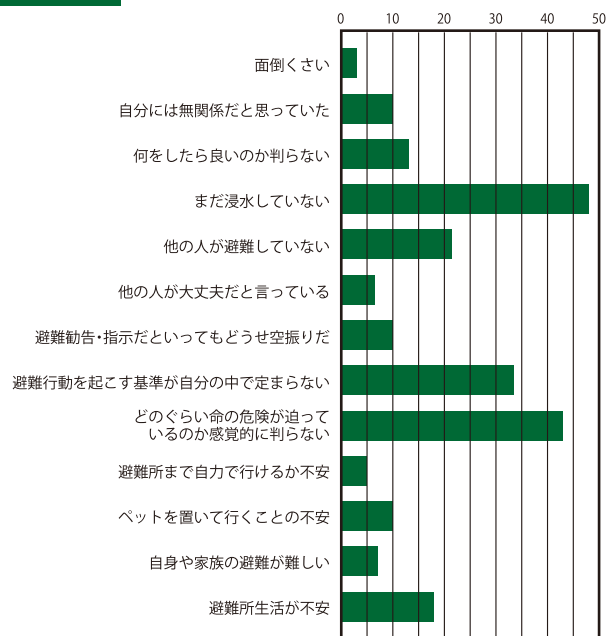
## 大子町

避難をためらわせる要因



## 水戸市

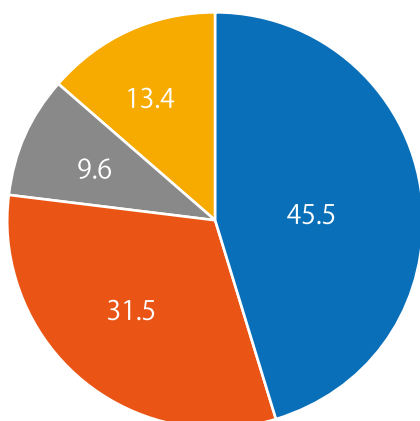
避難をためらわせる要因



# 過去の被災経験の影響

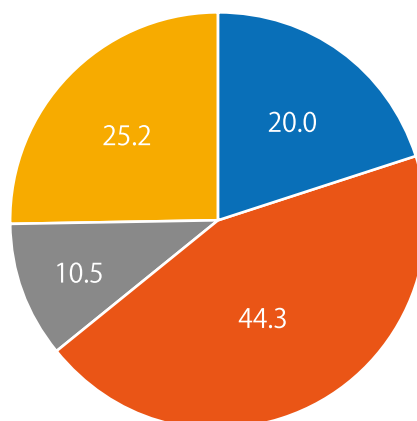
## 大子町

過去の被災経験の影響 (%)



## 水戸市

過去の被災経験の影響 (%)

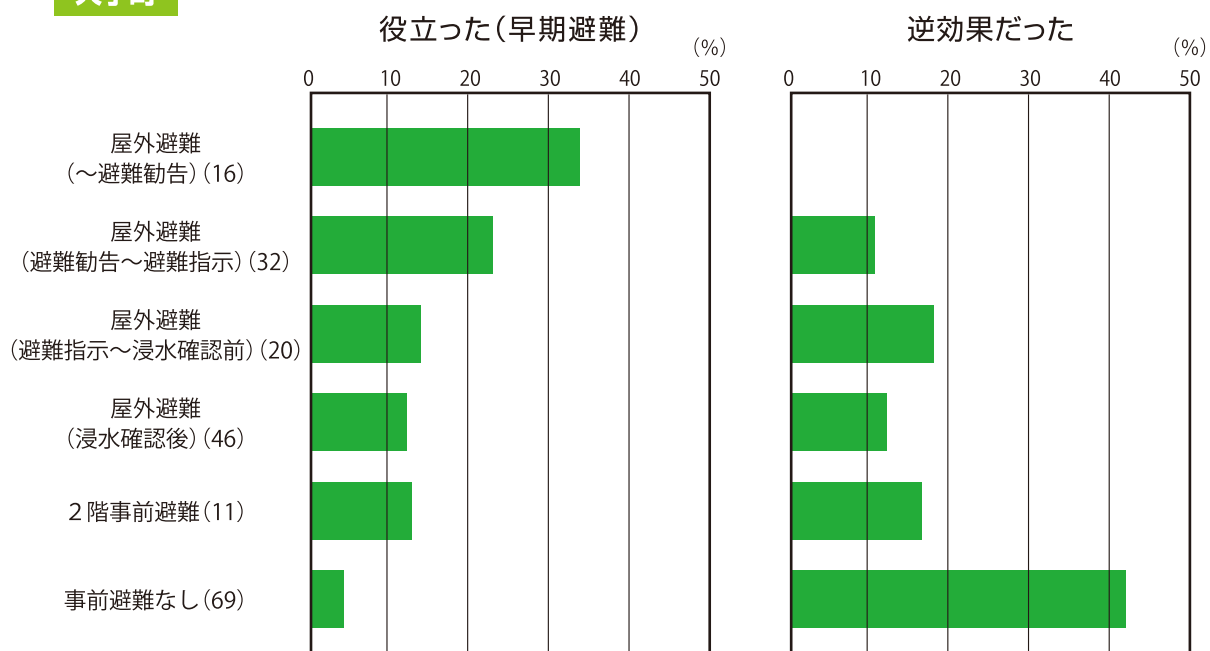


- 特に影響を受けていない
- 役立った(不必要な避難を避けられた)

- 役立った(早めの避難行動に結び付いた)
- 逆効果だった(経験上被害は)

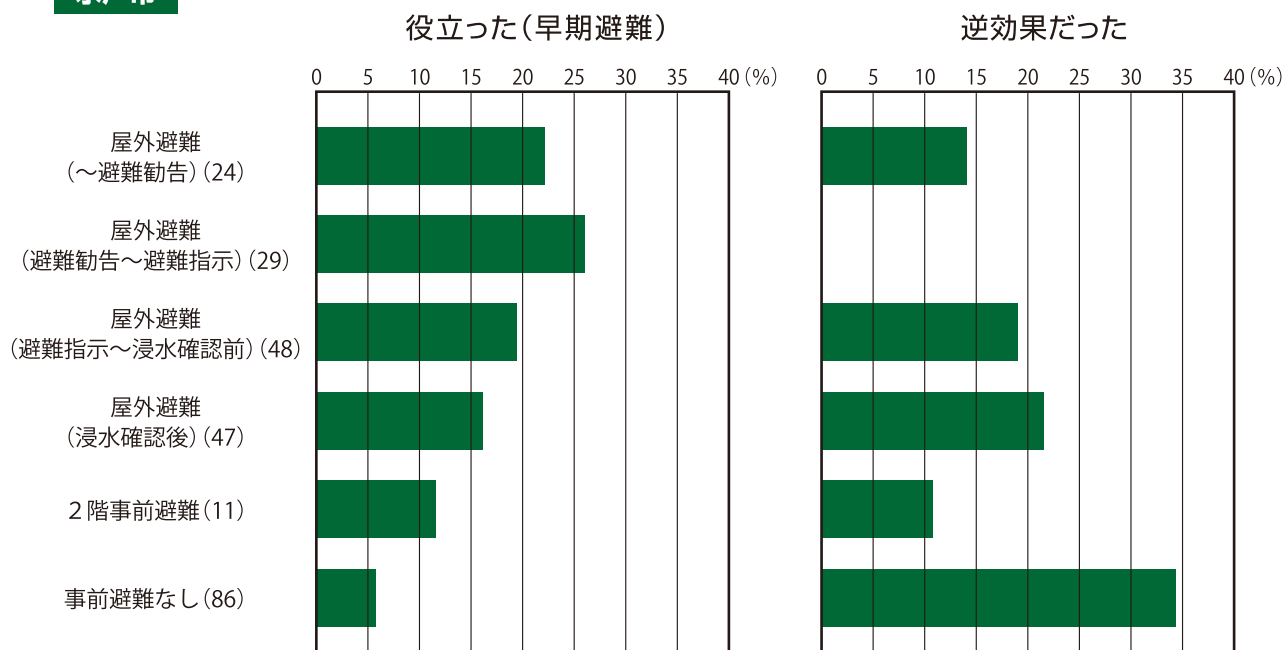
## 過去の被災経験と避難行動

### 大子町



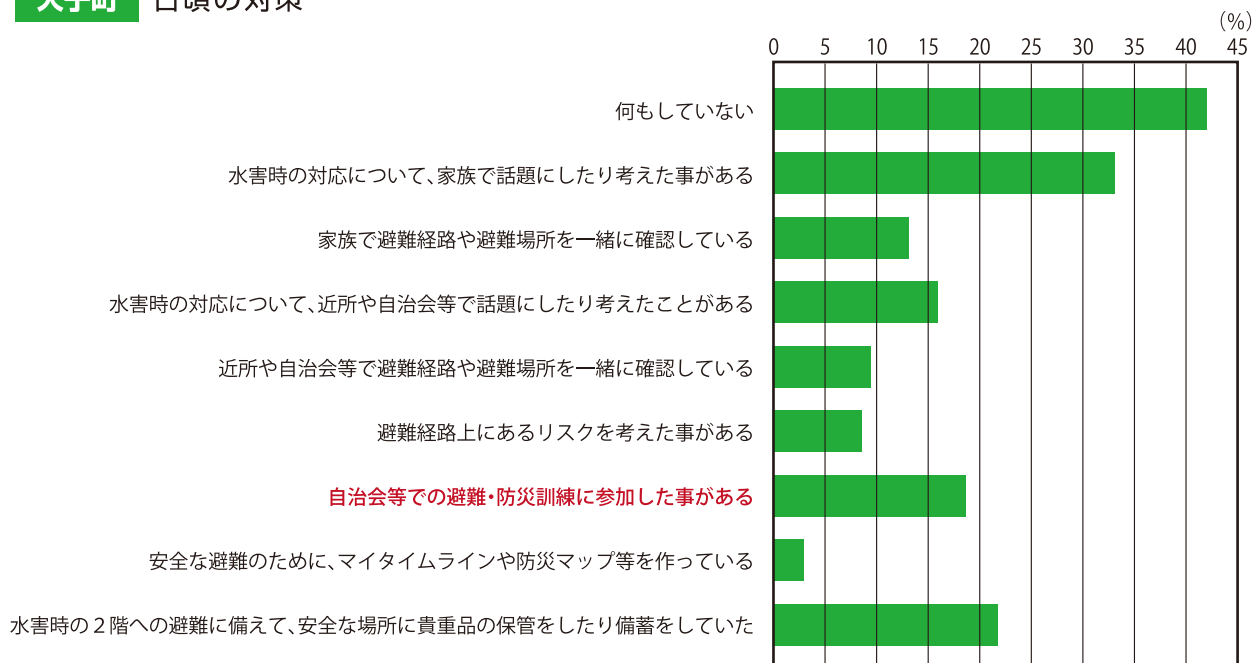
## 過去の被災経験と避難行動

### 水戸市



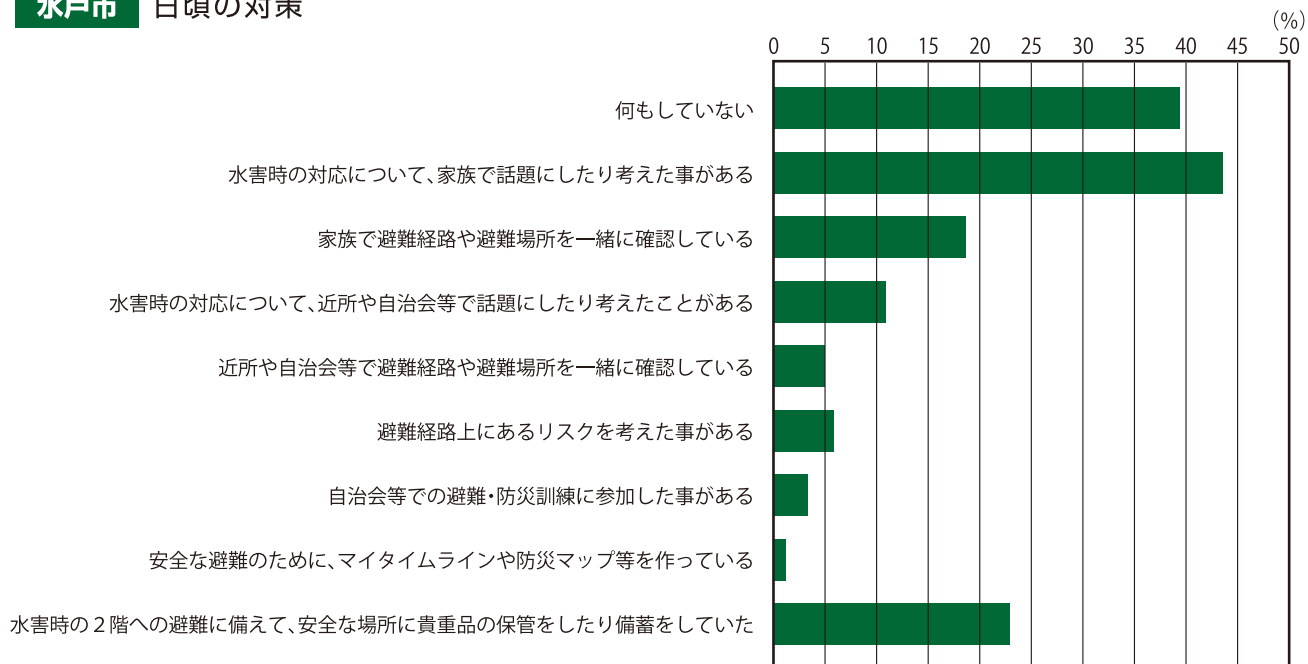
## 日頃の対策

### 大子町 日頃の対策



## 日頃の対策

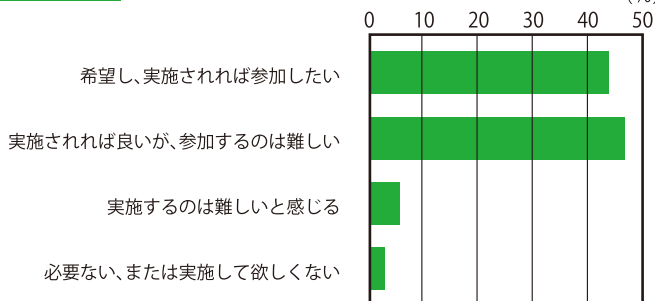
### 水戸市 日頃の対策



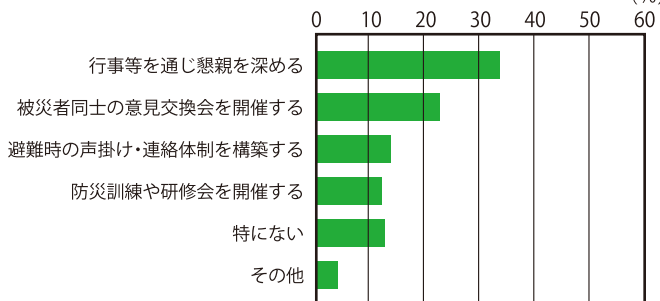
# 自治会・町内会の活動について

## 大子町

自治会の避難訓練実施について (%)

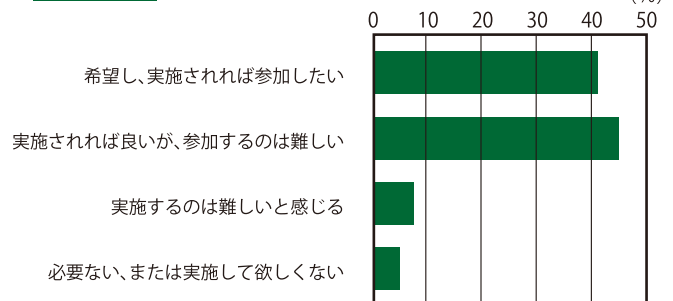


自治会の活動に求めること (%)

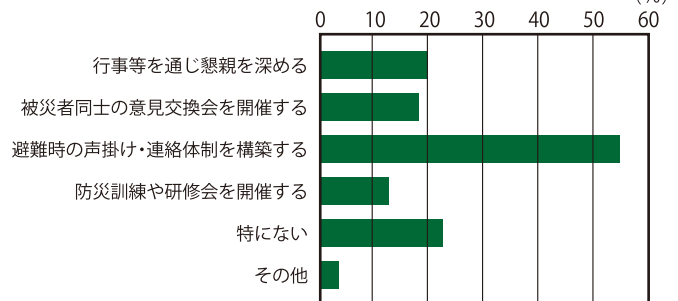


## 水戸市

自治会の避難訓練実施について (%)

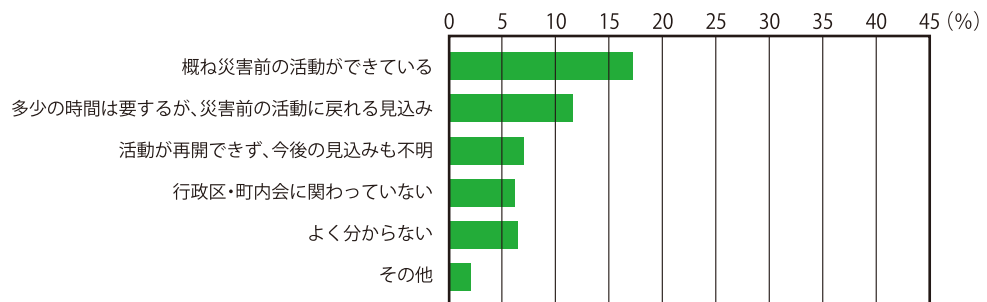


自治会の活動に求めること (%)

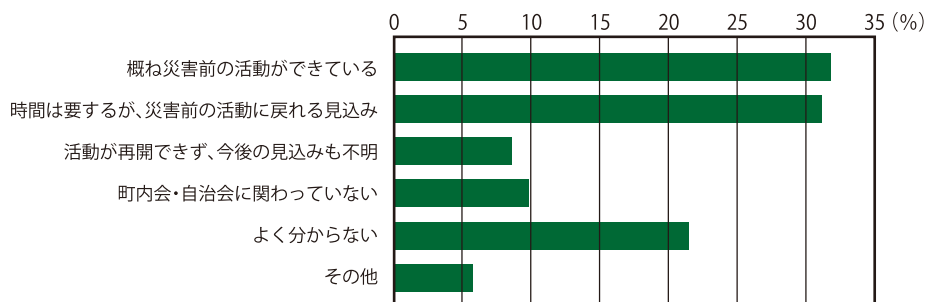


# 現在の町内会の活動について (※水戸市は2月時点、大子町は8月時点)

## 大子町



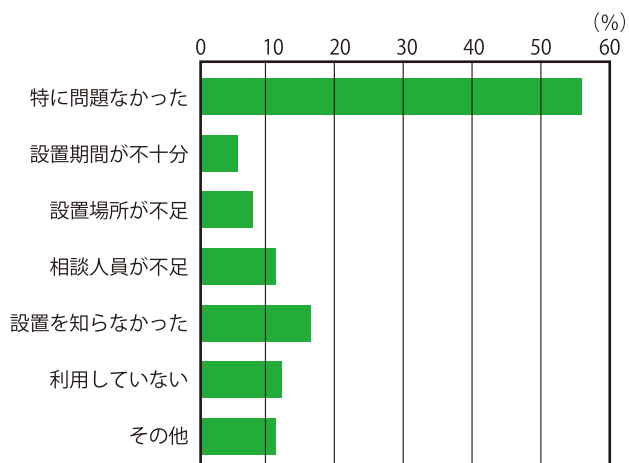
## 水戸市



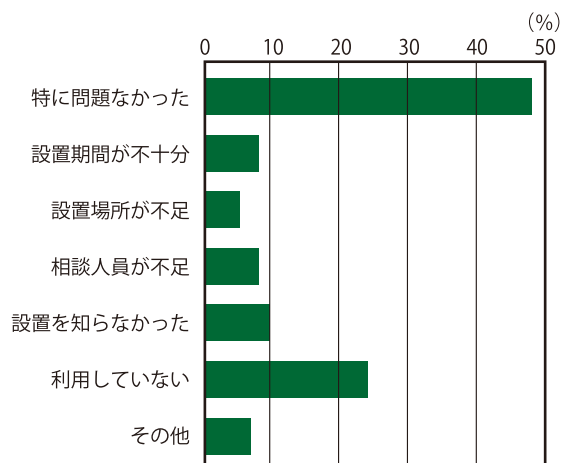


# 大子町の災害対応について

**大子町** 対策本部・生活再建支援総合窓口の運営について

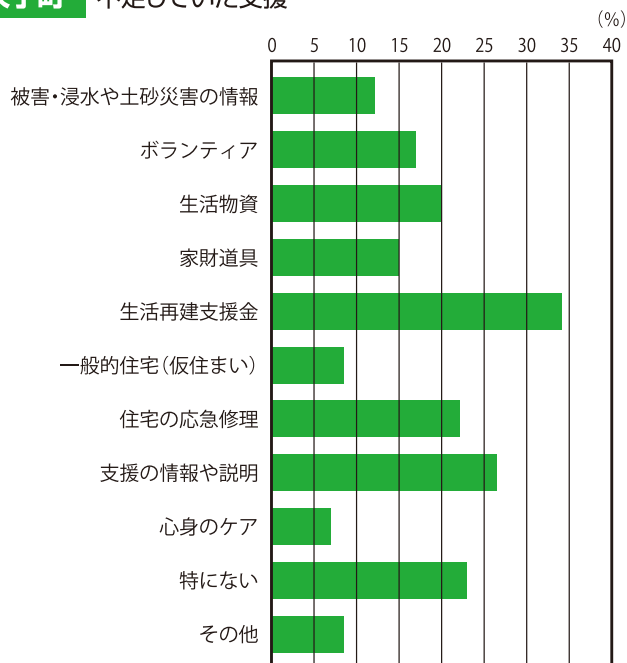


**水戸市** 対策本部・生活再建支援総合窓口の運営について

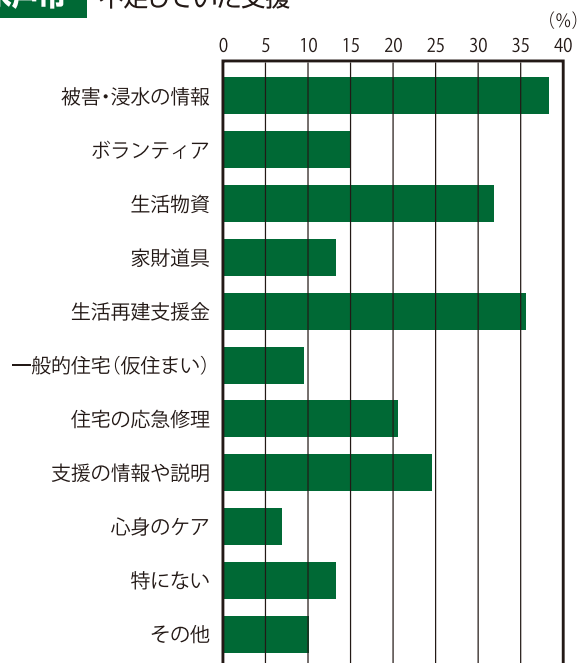


# 大子町の災害対応について

**大子町** 不足していた支援

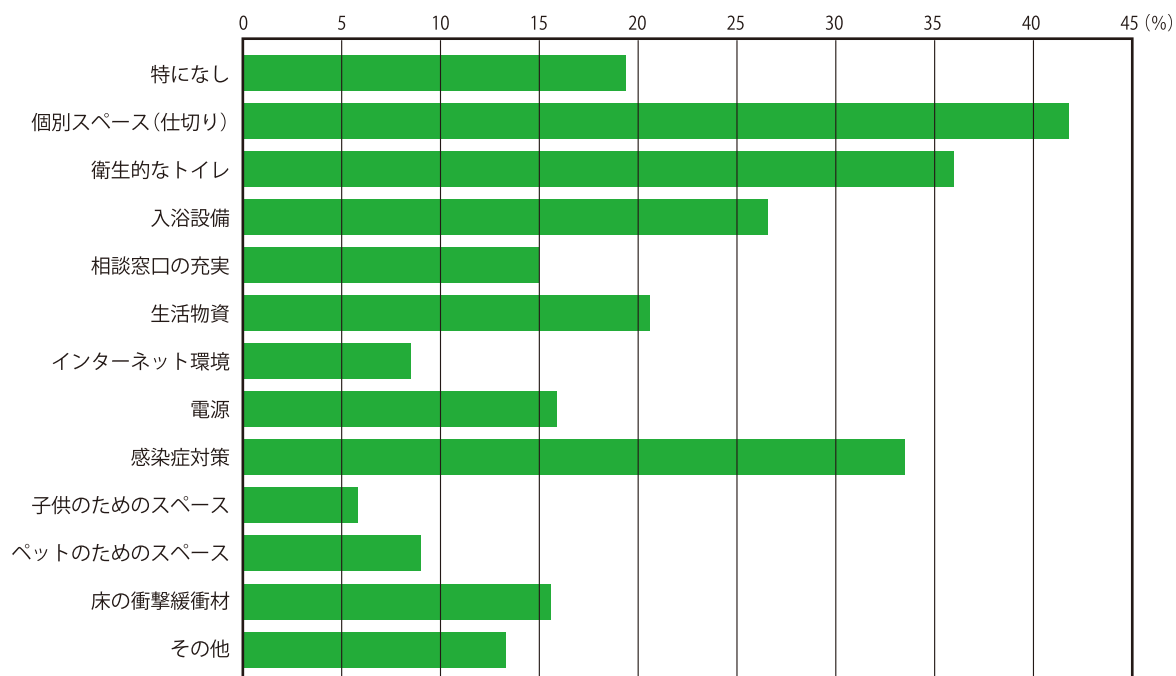


**水戸市** 不足していた支援



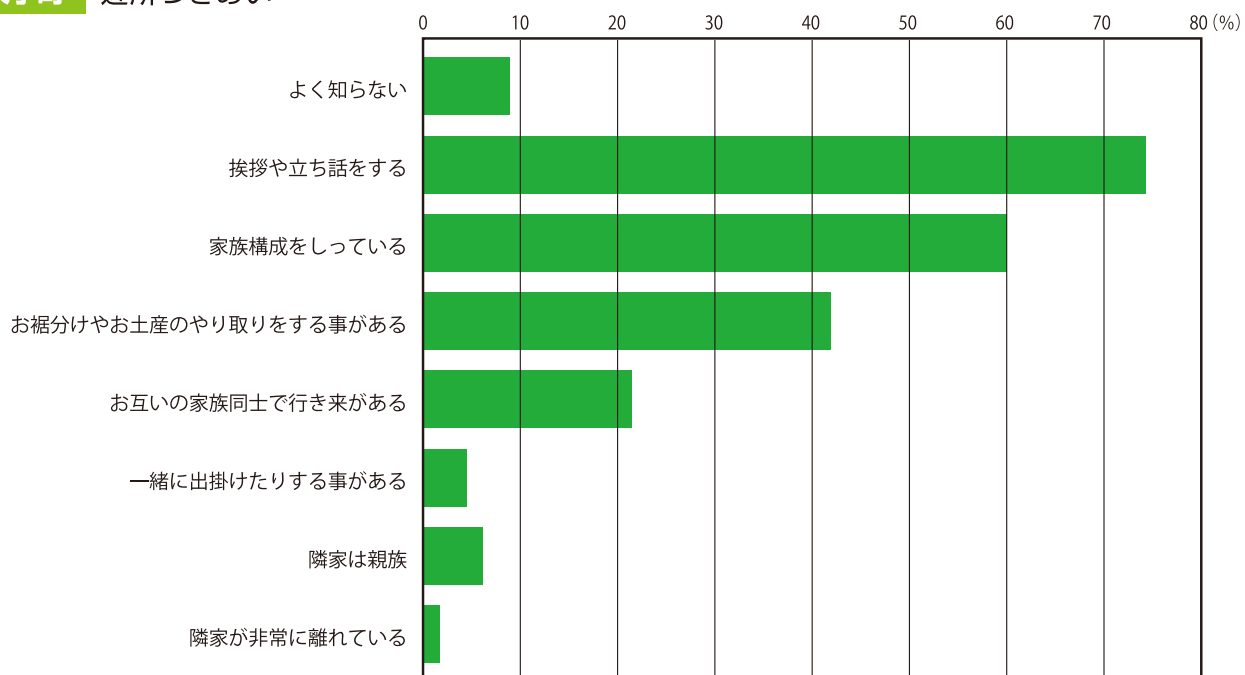
## 避難所生活について (大子町のみ)

### 大子町 避難所での良好な生活環境のために必要なもの



## 普段の近所づきあいについて (大子町)

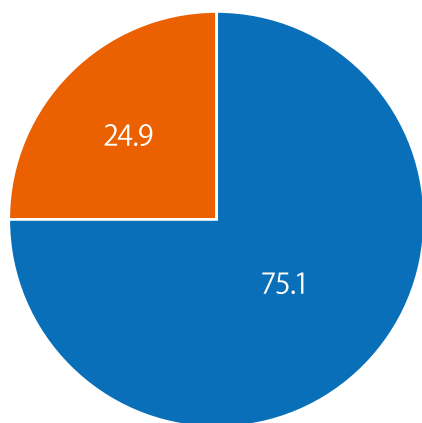
### 大子町 近所づきあい



## 災害前のリスク認知 (大子町)

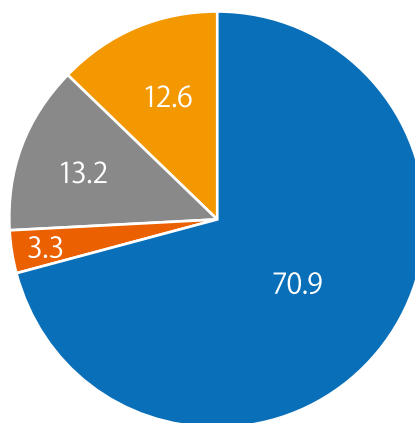
### 大子町

ハザードマップ確認状況



- 確認していた
- 確認していなかった

災害リスクの内訳



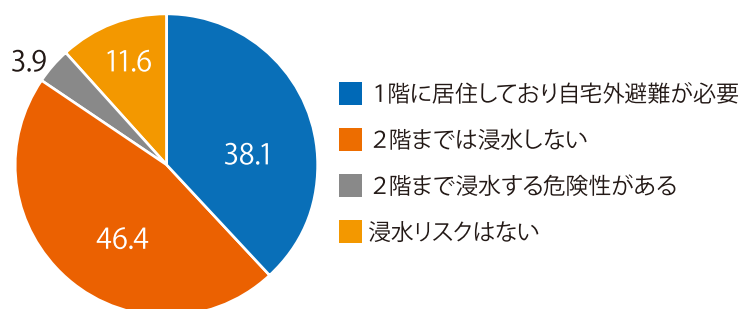
- 浸水リスクのみ
- 浸水・土砂災害の両方
- 土砂災害リスクのみ
- 災害リスクはない

※ハザードマップ確認者

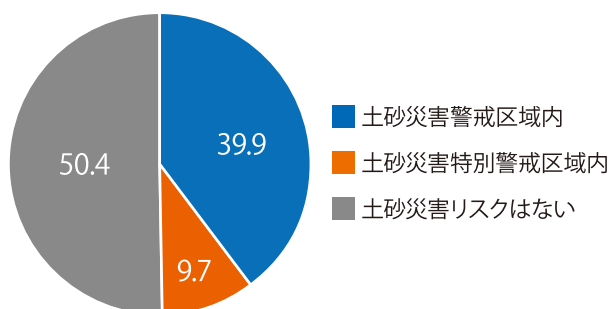
## 災害前のリスク認知 (大子町)

### 大子町

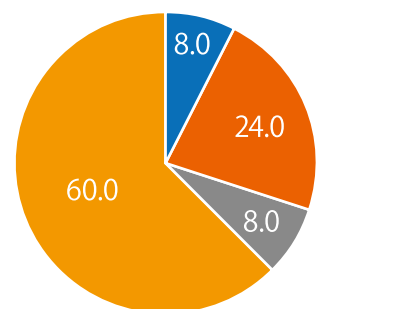
確認していた(浸水被害)



確認していた(土砂災害)



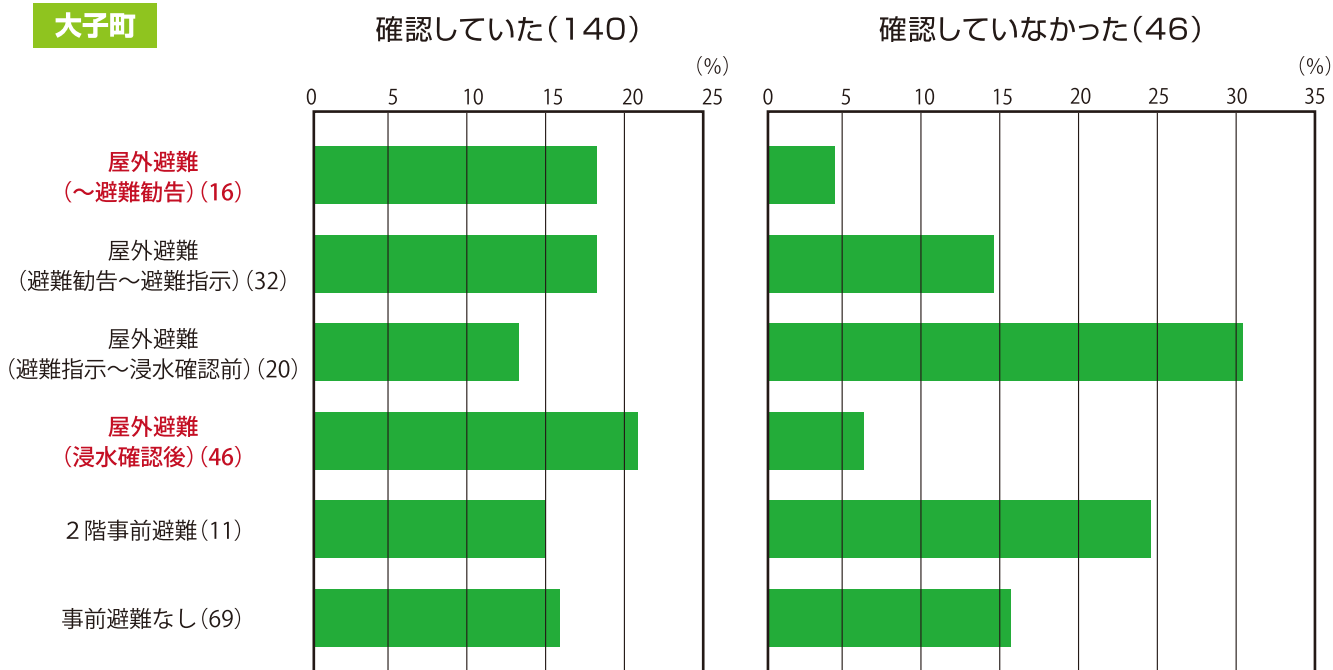
確認していない



- 1階に居住しており自宅外避難が必要
- 2階までは浸水しない
- 浸水リスクはない
- 知らない

## 水害発生前のハザードマップ確認状況と避難行動(大子町)

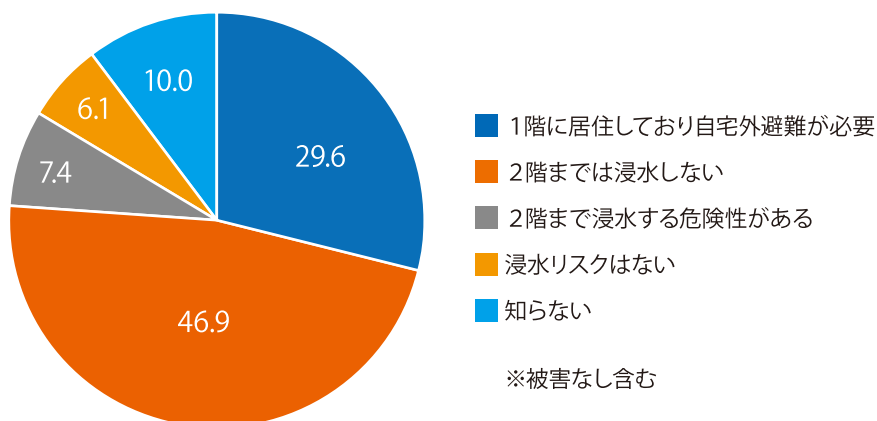
### 大子町



## 災害発生前の浸水リスク認知(水戸市)

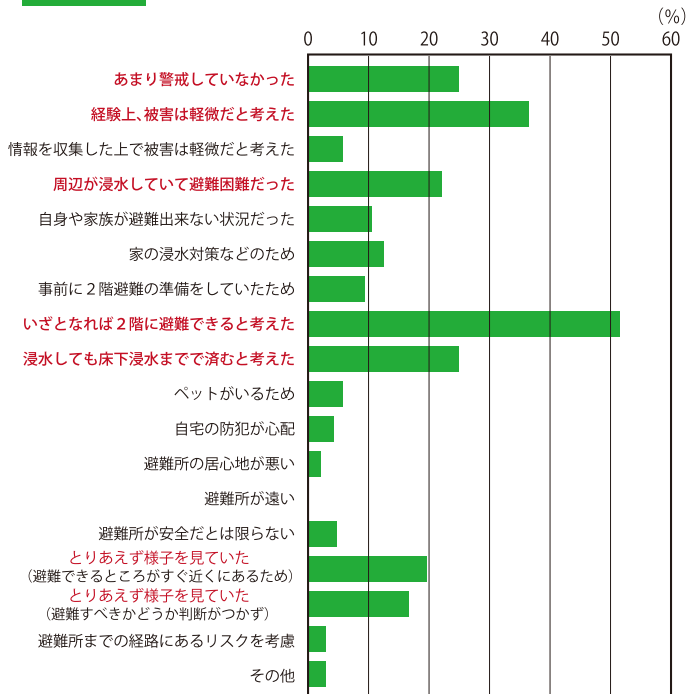
### 水戸市

浸水リスクの認知

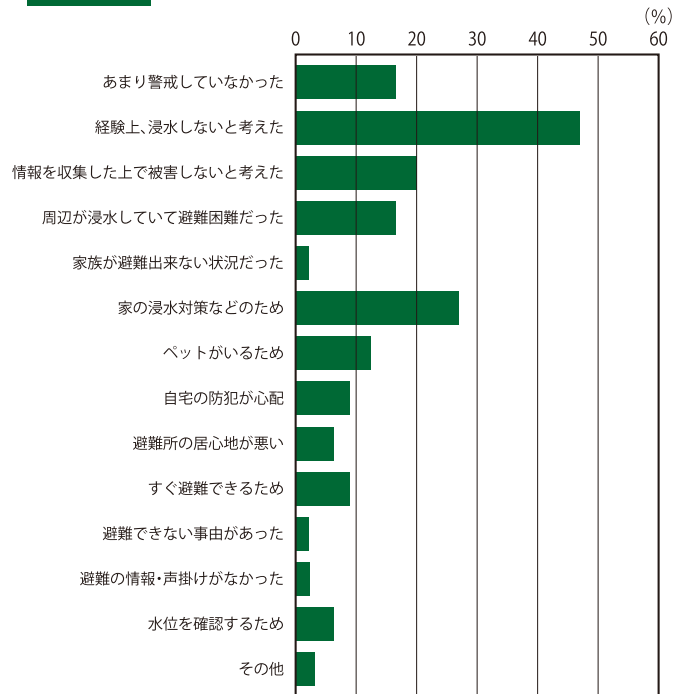


# 避難しなかった理由

## 大子町 避難しなかった理由



## 水戸市 避難しなかった理由



# 情報取得行動

## 情報取得源の分類

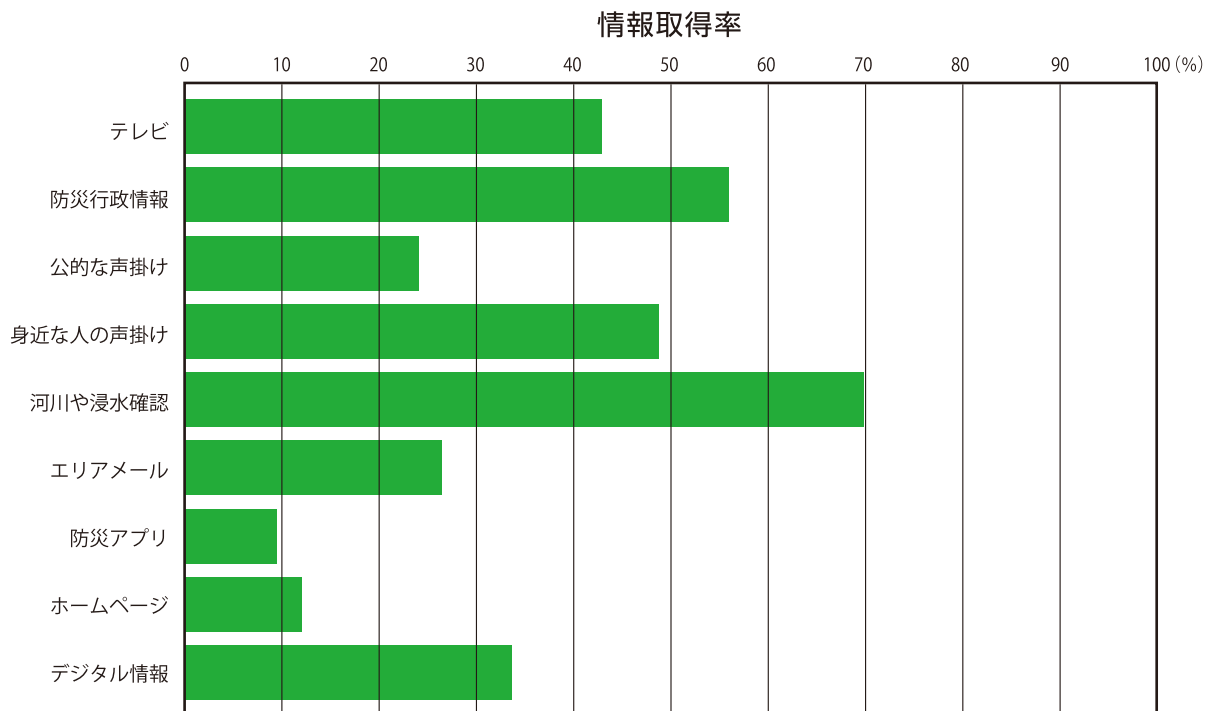
	テレビ	テレビ等の報道
デジタル情報	防災行政情報	緊急告知FMラジオ
		消防の広報車による呼びかけ
	公的な声掛け	消防による戸別訪問
		家族の声掛けや電話
	身近な人の声掛け	近所の声掛けや電話
		私的なメールやライン
	河川や浸水確認・周囲の様子	浸水や河川の目視確認
デジタル情報	エリアメール	携帯電話の緊急速報メール(エリアメール)
	防災アプリ	各種防災アプリ
	ホームページ	町ホームページ
		茨城県の防災や河川のホームページ
		気象庁や国土交通省のホームページ
民間の防災情報ホームページ		

- (a) 被災や避難の有無にかかわらず、災害発生前後の  
気象・河川などの情報の取得源
- (b) 避難行動を起こしたきっかけとなった  
情報の取得源

情報取得率 = (a)の割合

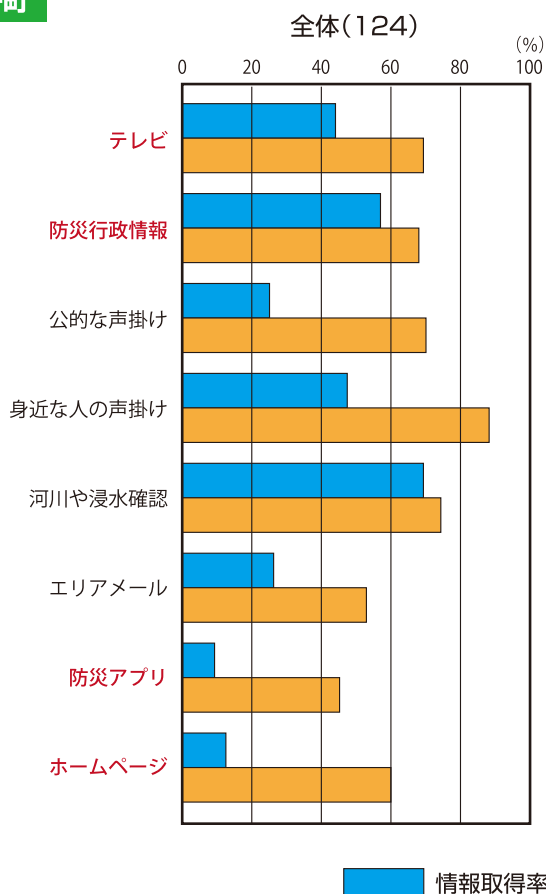
$$\text{避難行動誘因率} = \frac{(b)}{(a)}$$

## 避難情報取得率 (大子町)

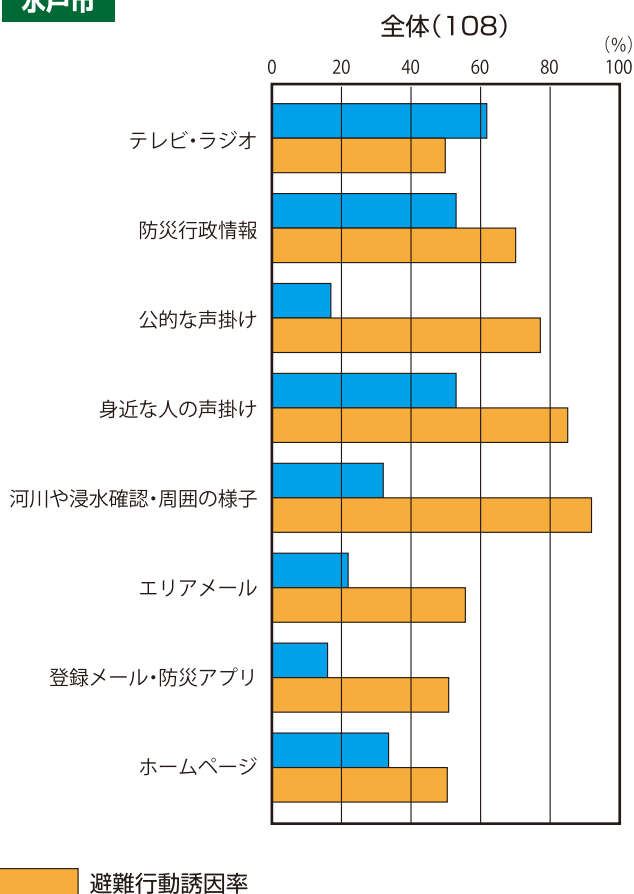


# 取得していた情報ときっかけとなった割合

## 大子町

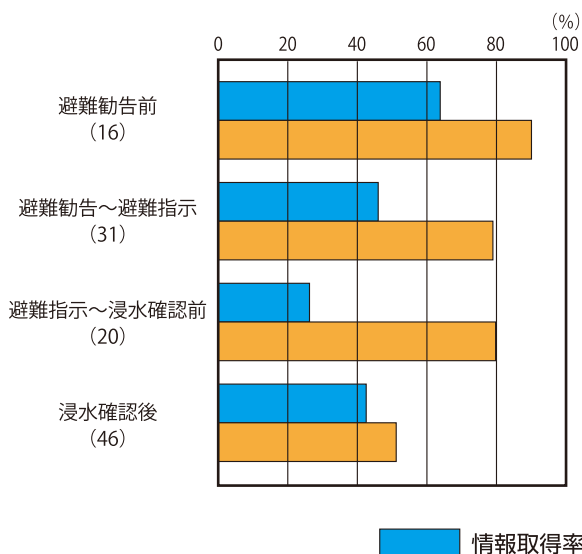


## 水戸市

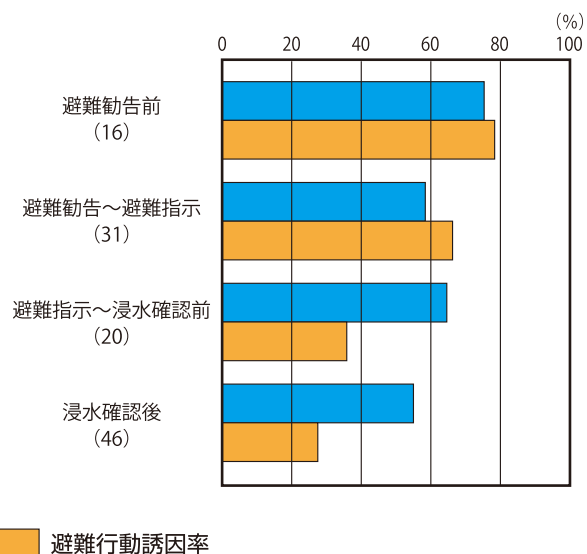


## テレビ・ラジオ

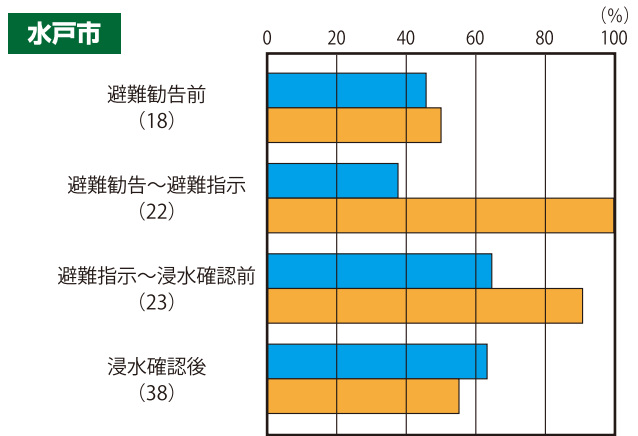
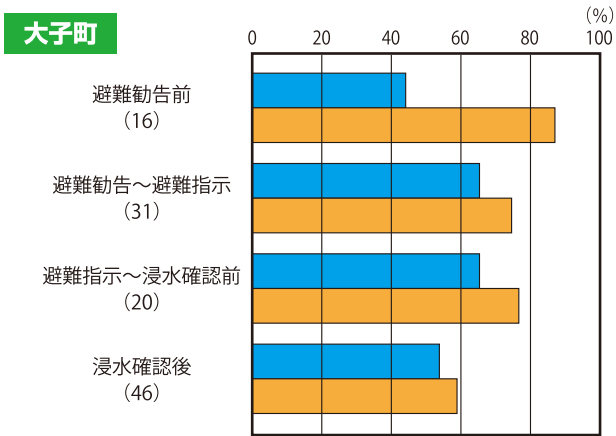
### 大子町



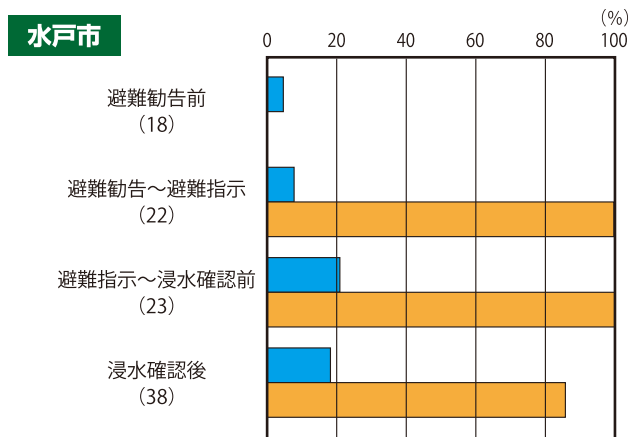
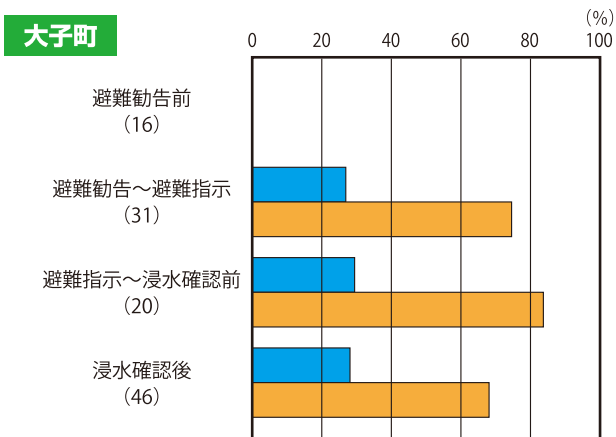
### 水戸市



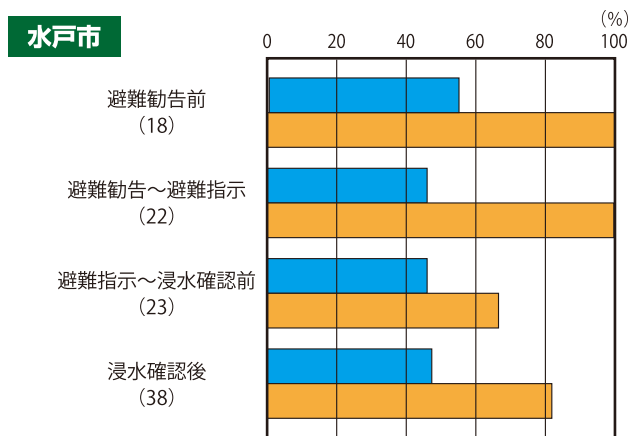
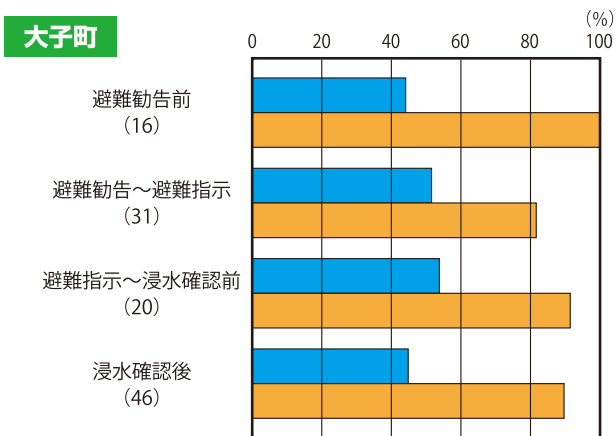
## 防災行政情報



## 公的な声かけ



## 身近な人の声かけ

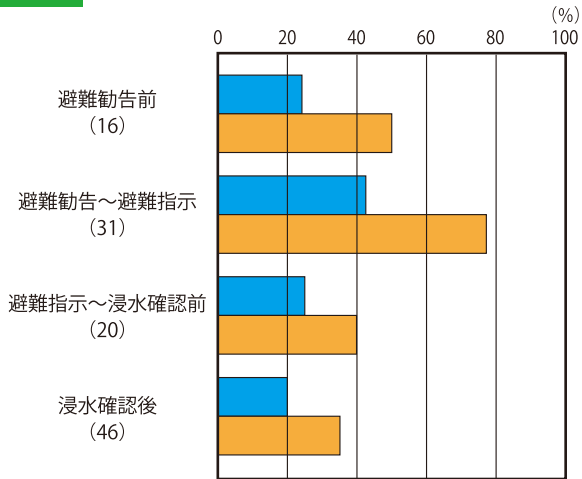


■ 情報取得率 ■ 避難行動誘因率

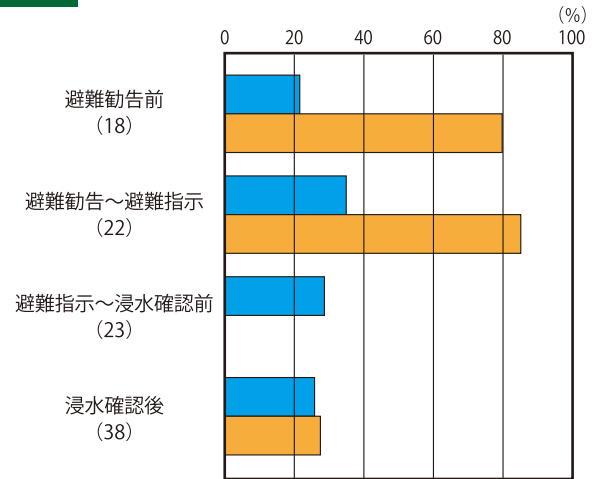


## エリアメール

### 大子町



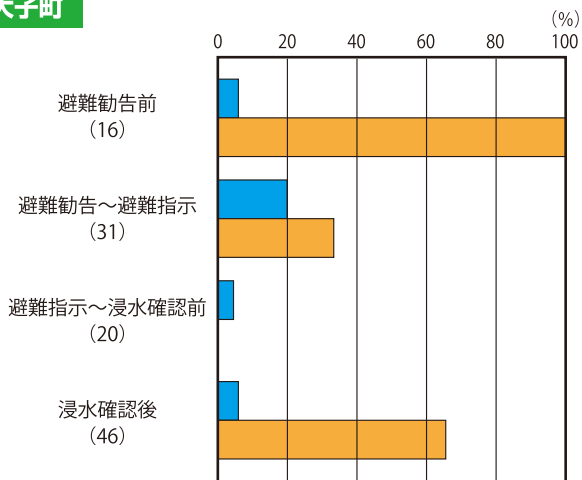
### 水戸市



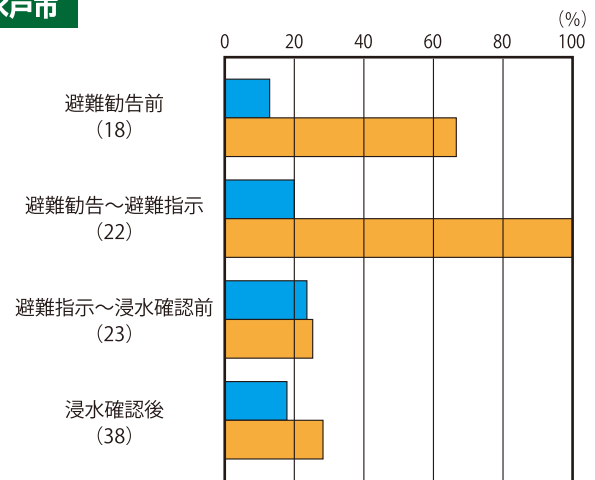
情報取得率 避難行動誘因率

## 防災アプリ

### 大子町



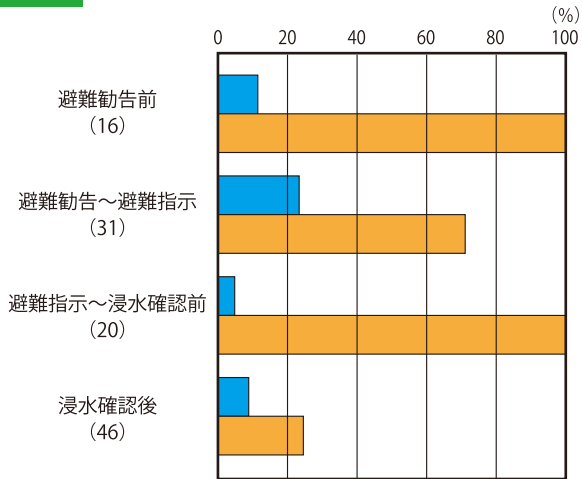
### 水戸市



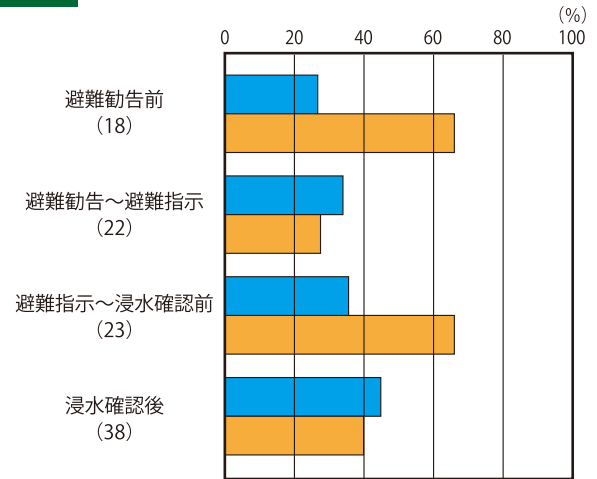
情報取得率 避難行動誘因率

## ホームページ

### 大子町



### 水戸市



情報取得率

避難行動誘因率



資料



大洗磯前神社の鳥居に激しく打ち付ける高波＝12日午後4時11分、大洗町磯浜町、菊地克仁撮影

# 本県に大雨特別警報

## 台風19号 47万人避難勧告

大雨・洪水警戒レベルの5段階区分

警戒レベル	住民が取るべき行動	防災情報
5	命を守る最善の行動を	災害発生情報、特別警報
4	全員が緊急避難	避難指示、避難勧告 土砂災害警戒情報
3	高齢者らは避難	避難準備、高齢者等避難開始 大雨警報、洪水警報
2	避難先やルートを確認	大雨注意報、洪水注意報
1	災害への心構えを	警報級の大雨が降る予報

大型で非常に強い台風19号は12日夜、伊豆半島に上陸し、本県付近を通過して13日東北沖に達する見通しだ。気象庁は12日午後7時50分、最も危険度の高い「レベル5」の大雨特別警報を本県の巨体に発表し、「直ちに命を守る行動をと最大級の警戒や避難を求め、県によると午後5時現在、県内17市町の計19万7977世帯47万5977人に、住民全員の避難を求める避難勧告が出された。避難所は全44市町で414カ所開設され、計33324世帯75977人が避難した。(23面に関連記事)

大雨特別警報が発表されたのは、午後8時15分現在で日立、常陸太田、高萩、北茨城、幸間、常陸大宮、桜川、城里、大子、石岡の10市町。県防災・危機管理課によると、少なくとも1人が負傷し、土浦市で12日朝、台風による土砂災害で作業中

いた男性76が脚立から下りる際に転倒し、約2メートル下の敷居に落下した。消防本部によると、男性は頭に軽傷を負った。避難勧告は水戸、日立、土浦、石岡、常陸太田、高萩、北茨城、つば、ひた、ちなが、常陸大宮、那珂、桜川、鉾田、小美玉、城里

太子、阿見の17市町で発表。土砂災害警戒情報が同午後4時20分、日立、石岡、常陸太田、高萩、北茨城、幸間、つば、常陸大宮、桜川、城里、大子の11市町に発表された。

東京電力によると、停電は午後8時現在石岡、つくばみらいなど13市町で約8900軒発生。

県は午後7時に災害対策本部を設置。午後5時現在、水戸、つくば、日立など31市町村が災害対策本部、10市町が災害警戒本部をそれぞれ設置した。

水戸地方気象台によると、鹿ヶ崎市で午後3時47分に最大瞬間風速25・3メートルを記録。妻小川で21・3メートルを記録した。

水戸市と鹿嶋市で19・2メートルを記録した。12日午後6時までの3時間降水量で、常陸太田市徳田で観測史上最大115.5を記録。高萩市大能で134.4、北茨城市花園で133.5を記録した。

(三ツ家、海老沢裕太郎)

**鉄道きょうも一部計画運休**

県内の鉄道は12日午後から全線ストップした。高速道路も同午後4時から県内全線が通行止めとなった。鉄道各社の計画運休は13日まで一部続くと見通した。JR水戸支社によると、13日も常磐線の特急「ひた

ち」と水戸線の小山「友部間」、水郡線の水戸「郡山間」と上野谷「常陸太田間」で終日運転を取りやめる。常磐線の特急「とぎわ」と普通列車は始発から早すぎまで運転を見合わせる。

つくばエクスプレス(TX)は13日、安全の確認が取れた常磐線全線再開する見通し。関東鉄道は13日昼まで運転を見合わせる可能性があるとした。

スカイマークは12日、茨城空港発着の計10便を欠航。13日も茨城発の3便の欠航が決まっている。商船三井フェリーは12日、大洗「若小牧間」の4便の運行を取りやめ、13日の3便も欠航する。

**茨城新聞**

10月13日 日曜日

茨城新聞社

〒310-8686  
水戸市笠原町978-25  
電話 (029) 239-3001代  
http://ibarakinews.jp  
編集局  
電話 (029) 239-3020  
FAX (029) 301-0362  
印刷部・送付課  
電話 0120-029-218  
(平日午前9時～午後5時)

# 台風、被害甚大



濁流で崩落したJR水郡線の袋田駅北側の橋=13  
日午前9時36分、大子町久野瀬、菊地克仁撮影

## 水郡線橋梁落下、川氾濫



那珂川が氾濫し水に浸る国道123号や店舗=13  
日午前6時57分、水戸市渡里町、吉田雅宏撮影

12日夜から13日未明にかけて東日本を直撃した台風19号は県内に甚大な被害をもたらした。大子町、常陸大宮市を流れる久慈川、北茨城市の大北川、筑西市の鬼怒川、水戸市の那珂川で氾濫や越水。周辺道路や住宅で浸水被害が出ている。大子町では、JR水郡線袋田駅北側の「第6久慈川橋梁」が落下した。県災害対策本部によると、13日午前7時現在、県内の負傷者は10人で行方不明は1人。各地で停電も続いた。同日、自治体から自衛隊に災害派遣要請が相次いだ。鉄道の県内在来線は同日午前、計画運休で運転をとりやめている。



10月13日  
日曜日

茨城新聞社  
〒310-8686  
水戸市笠原町978-25  
電話(029)239-3001代  
<http://ibarakinews.jp>  
編集局  
電話(029)239-3020  
FAX(029)301-0362  
読者申し込みは  
☎0120-029-218  
(平日午前9時～午後5時)

電子号外

速報ニュース強力配信  
モバイル版 茨城新聞  
ガラケー & スマホ対応  
ドコモ・au・ソフトバンク

<http://nm.ibarakinews.jp/>  
月額 300円+税  
通信料別途

# JR水郡線における復旧・復興



## 水郡線における2019年台風19号からの復旧・復興について

JR東日本 水郡線統括センター・常陸大子駅

### JR水郡線の 被災

- ・台風の影響が見込まれるため、前日（10/12）15時頃までに全線で運転取りやめ。翌13日は始発から終日、運転見合わせ。
- ・10/13、河川増水の影響により“第六久慈川橋りょう（袋田～常陸大子間）”が流失。【※橋げたがすべて流出し、6基の橋脚のうち4基が倒壊】
- ・車両については、すべて“疎開”（車両基地より安全と思われる場所）を行った為、水没等の被害は無し。
- ・通信手段（電話・メール等）も被災を受け、正確な情報やリアルタイムな情報の取得に苦労。
- ・線路分断による車両基地での整備・点検や運行ダイヤに影響を与えた。

### JR水郡線の 復旧

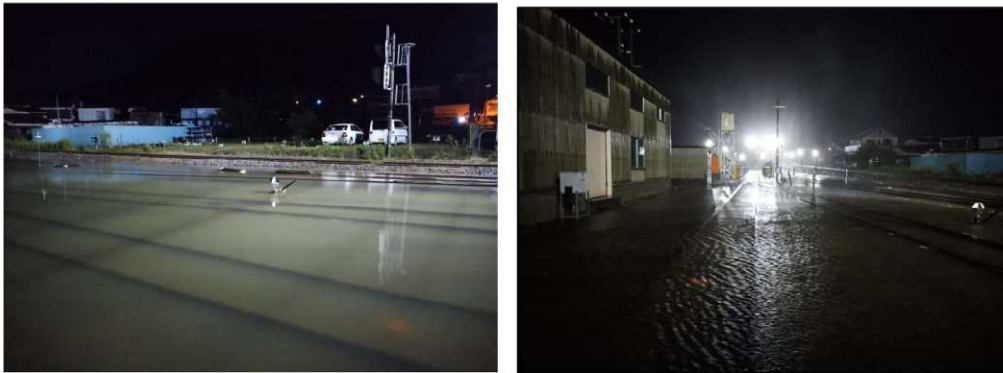
#### ・設備等の緊急点検を実施し、復旧区間から、順次、運転再開。

- ◆2019年◆ 10/15～ 水戸～常陸大宮・常陸太田間 運転再開。  
11/1～ 常陸大宮～西金、常陸大子～郡山間 運転再開。  
（※西金～常陸大子間、バスによる代行運転開始。）
- ◆2020年◆ 7/4～ 西金～袋田間 運転再開。  
（※上小川～常陸大子間、バスによる代行運転継続。）
- ◆2021年◆ 3/27～ 袋田～常陸大子間、運転再開。（※全線運転再開。）

### JR水郡線の 復興

- ・人口減少や少子高齢化、新型コロナウイルスの影響による利用者の減少に歯止めをかける。【参考：JR東日本発足当時（1987年）の利用者を“100”とした場合、2020年の利用者は“46”】
- ・将来にわたり路線を維持していくためにも、今から“残すためにやるべきこと”を考える。
- ・今後を見据え、沿線の皆さまや、他の交通事業者と一緒に「地域の復興」「地域の振興、活性化」に取り組む。  
⇒イベント臨時列車の運行。水郡線全線運転再開1周年感謝祭の実施。茨城デスティネーションキャンペーンでの大子町への誘客 など。





【2019.10.13 未明撮影 水郡線営業所構内・線路冠水】



【2019.10.13 撮影 第六久慈川橋梁・崩落】



【2021.03.27 撮影 第六久慈川橋梁・完成】



【第六久慈川橋梁・復興（建設中）】



台風第19号の被災体験を語りあうハイブリッドワークショップ時（令和4年6月1日）

JR東日本水郡線統括センター様資料





---

### 編集にご協力いただいた方

茨城大学人文社会科学部教授 伊藤哲司／茨城大学人文社会科学部研究アシスタント  
馬場紗矢香／茨城大学理工学研究科准教授 若月泰孝／写真家 高瀬一仁（※が付いている写真は高瀬氏提供）／社会福祉法人大子町社会福祉協議会／JR東日本水郡線統括センター／ヒアリングにご協力いただいた被災者の皆様

---

### 令和元年東日本台風 大子町災害記録誌

令和5年3月発行

---

大子町役場総務課

茨城県久慈郡大子町大字北田気662番地

TEL0295(72)1114